

## II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)		商店街（代表者） 旅行代理店（従業員）	・今期の農作物の収穫量が良いことを期待している。 ・行動制限がないことから、今年の夏の繁忙期は北海道の国内観光需要が新型コロナウイルス感染症発生前に近い水準まで回復することが期待できる。また、7月17日以降、新千歳空港の海外路線が2年ぶりに復便することから、インバウンドも回復の途に就くことが期待できる。ただ、現状、新型コロナウイルスオミクロン株の別系統による全国的な感染拡大が大きな懸念材料となっている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・7月中旬以降、新型コロナウイルス新規感染者数が激増しており、その影響が懸念されるが、新型コロナウイルス感染症に対する人々の慣れもあり、特段大きな影響が出ていないことから、今後の景気はやや良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・今後、新規感染者数が爆発的に増え、行動制限が掛からない限り、客の購買行動は活発になる。
		百貨店（営業販促担当）	・新型コロナウイルス感染症に対する慣れもあり、客の動きは日を追うごとに改善している。今後、新規感染者が落ち着くことで衣料品を中心に動きが出てくることが見込める。
		スーパー（役員）	・食品の値上がりが継続しているため、値上げ前の買いだめ需要が発生しており、食料品に関する支出が活発になっている。
		乗用車販売店（従業員）	・当地は観光都市ということもあり、8月の観光シーズンを迎えることで身近な景気は一段と良くなる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・家に籠もってばかりではいられないといった人の動きが感じられる。客足が戻ってきており、今後の景気はやや良くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加していることが懸念材料であるが、行動制限が行われないとみられることから、今後も一定の来客数が見込める。
		旅行代理店（従業員）	・全ては新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、景気は今よりも良くなることが期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・夏休み明けの新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、人流抑制策が行われなければ、景気は少しずつ回復することになる。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の第7波もピークを過ぎるとみられるため、多少は景気が良くなる。
		通信会社（企画担当）	・例年9月中旬に発売される人気端末による需要を期待している。ただし、前年発売の端末との差異が小さければ、需要の伸びが鈍化する恐れもあり、価格や性能の情報を9月まで待ちたい。
		観光名所（従業員）	・利用客の様子をみると、すっかり旅行を楽しんでいる表情を見せている。新型コロナウイルスの感染拡大におびえて委縮するのではなく、感染対策をしながら日常やレジャーの過ごし方のスキルアップを図っていると捉えることができる。こうしたムードは徐々に拡大することになり、人の行動も徐々に活発になると期待できる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス新規感染者数が増えてきているが、緊急事態宣言などが出されない限り、景気が悪くなることはない。
	商店街（代表者）	・一部の商材で値上がりなどの動きもみられるが、日々の客の反応は変わっていないことから、今後も景気は変わらない。	
	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況が改善されない限り、景気が良くなるとは判断できない。また、2～3か月後は寒冷期に入ってくるため、燃料価格の高騰が継続していれば、一層の来街者数減少も懸念される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・前年毛7月後半～9月に掛けて、新型コロナウイルスデルタ株の出現とそれに伴う新規感染者数の急増によって、まん延防止等重点措置が適用されるなどしており、新型コロナウイルス感染症に左右される状況は今年も変わっていない。ただ、全体的には若干回復傾向での推移が見込まれる。
		スーパー（店長）	・前年は夏のまん延防止等重点措置及び緊急事態宣言が終わった後、年末年始まで比較的売上が堅調に伸びていた。こうした状況を踏まえると、前年と比べて景気が大きく上向く可能性は低い。
		スーパー（企画担当）	・食品などの再度の値上げと感染拡大している新型コロナウイルスが現在の活動的な雰囲気水を差すことになる。消費は2極化するとみられる。
		コンビニ（エリア担当）	・今後の景気は新型コロナウイルスの感染状況次第となる。感染状況が落ち着くことになれば、観光客の回復が期待できる。そうでなければ観光客の減少が懸念される。
		コンビニ（エリア担当）	・週単位で世界情勢や国の動向が変化するため、判断できないのが実情である。良い部分もあれば、悪い部分もあるため、今後も景気は平行線をたどることになる。
		コンビニ（エリア担当）	・人の動きが良くなったかと思えば、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えて、再び人の動きが抑制されるという状況が繰り返されている。このため、今後も基本的な景気動向は変化しない。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が増えていることから、今後も景気は変わらない。
		家電量販店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響に加えて、商材の仕入価格の上昇と品不足、入荷遅れなどにより売上が落ちることが懸念される。
		家電量販店（店員）	・新型コロナウイルス新規感染者数次第で客足が変わってくるとみられるため、今後も景気は変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・半導体不足に伴う生産遅れからの回復が見込めないため、今後も景気は変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・新車、中古車共に現状よりも動きが良くなるとは考え難い。物価上昇が今後も続くと、景気が悪くなる方向に向かうことも懸念される。
		乗用車販売店（従業員）	・秋には新型車が登場する予定だが、車の納期が相変わらず不安定なことから、どの程度の売上を上げることができるか不透明である。
		自動車備品販売店（店長）	・新型コロナウイルスが感染拡大していることから、今後も景気は変わらない。
		その他専門店[造花]（店長）	・仕入価格の高騰による利益の減少が懸念される。来店者が目的の商材以外を衝動買いするような動きもみられないため、プラスの収益も見込めない。
		高級レストラン（スタッフ）	・徐々に新型コロナウイルス感染症発生前の来客数に近づいていることから、今後、繁忙期を迎えて来客数が増加することに期待したいが、新型コロナウイルス新規感染者数が増加傾向にあるため、現在と変わらない状況で推移する。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス新規感染者の数字に人出が左右されやすく、その影響をタクシーは最も受けやすい。新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で今後の新規感染者数が増えることになれば、夜の人出が減ることになり、タクシー利用も減少傾向になる。
		観光名所（職員）	・来場者は回復傾向にあるものの、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加していることから、今後不安がある。本格的な回復にはインバウンドの受入れが欠かせないため、感染対策に加えて、新型コロナウイルスと共存できる社会の体制作りが求められる。
		美容室（経営者）	・今後については、新型コロナウイルス新規感染者数による影響を大きく受けない雰囲気があることから、大幅な売上の変動は考え難い。
		美容室（経営者）	・季節要因や新型コロナウイルス感染症による影響のどちらかを考慮しても、今後の景気に大きな変化はないとみられる。
		百貨店（売場主任）	・今後の世情の不透明感に加えて、物価高、新型コロナウイルスの感染拡大とマイナス要因がみえ始めており、今後の景気が良くなる気配が感じられない。
		百貨店（マネージャー）	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加と物価高の影響で来客数及び買上客数の減少が見込まれることから、今後の売上動向は厳しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢、物価上昇の影響が強まるとみられる。
		スーパー（企画担当）	・店頭での販売価格が上昇し続けており、この状況は秋口以降一段と進むとみられる。既に来客数と買上点数が低下傾向にあることから、この先の消費環境はますます厳しくなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で今後の景気はやや悪くなる。飲食店においては、第3者認証店を対象としたクーポンの発売が明るい話題としてある一方で、新規感染者数の増大による不安で客離れが進む懸念もある。高級店は当分、厳しい状況が続く。ただ、大衆店は弱年層の利用が多いため、売上を落としづらいとみられる。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスオミクロン株の別系統への置き換わりが全国的に進んでいることで、新規感染者数が増加に転じている。旅行のキャンセルこそ少ないものの、新規予約の問合せが減少していることから、今後の景気はやや悪くなる。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加により、観光客の予約キャンセルが見込まれ、今後、利用客が減ってしまうことが懸念される。
		タクシー運転手	・ここに来て日に日に新型コロナウイルス新規感染者数が増加しており、当地においても連日のように過去最高の新規感染者数が更新されている。このような状況においては、観光客や地元客などの動きも鈍くなると見込まれる。まだまだ先の見えない状況であり、今後の景気はやや悪くなる。
		タクシー運転手	・今後も新型コロナウイルス新規感染者数が増えたとみられることから、今後の景気はやや悪くなる。
		美容室（経営者）	・物価高のなか、新型コロナウイルスの感染対策で何らかの動きが出てくることになれば、客が出費を抑えるようになる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・今後も新型コロナウイルスの感染拡大が収まらずに推移するとみられるため、景気はやや悪くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・引き続き資材高、為替安が続くことが見込まれる。コストが下がる要素が余りないため、需要がますます落ち込む状況が懸念され、先行きの景気は厳しくなる。
		住宅販売会社（経営者）	・金利の先高観と物価高から、今後の住宅需要が縮小する心配がある。また、商談に要する時間が長くなっていくことも懸念される。
	×	商店街（代表者）	・期待していたGo To Travelキャンペーンのような全国旅行支援が延期となり、当地では落胆を隠せない状況にある。事業開始が秋以降となれば、北海道は冬のオフシーズンとなるため、他地域に客が流れ、恩恵が受けられないことになる。北海道向けの救済策を本気で考えていただきたい。こうした状況は前年から続いており、北海道の季節性を考えない施策には疑問がある。落ち着いていた春から事業をスタートし、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加した際に事業を止めれば良かったのではないかと懸念される。
	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波での異常なほどの感染拡大によって、国民の行動を大きく制限しなければならなくなることを懸念されるため、今後の景気は悪くなる。
	×	スーパー（従業員）	・今後については、売上の減少に加えて、人件費、電気代の上昇により、収益が減少することが懸念される。
	×	衣料品専門店（店長）	・ビジネスパーソン相手の商売は時事情勢に大きく影響される。プラス要因がなく、マイナス要因ばかりが大きく報道されている現状から、今後の経済活動が停滞し、消費が一気に冷え込むことが懸念される。
	×	スナック（経営者）	・景気が段々と悪くなっているなか、今後、新型コロナウイルスの感染状況が拡大し、以前のような行動制限が出てくることになれば、景気はますます悪くなる。
	×	観光型ホテル（経営者）	・指定感染症における新型コロナウイルスの分類変更の見直しが進まないなか、感染拡大が続いていることで、再び行動制限が課されることが懸念される。観光事業を復活させるためのロードマップが存在しておらず、全国旅行支援が開始される見込みもないため、今後数か月は観光関連の景気が悪化することになる。また、コスト高による収益圧迫が見込まれることもマイナスである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	観光型ホテル(スタッフ)	・新型コロナウイルスの感染拡大が報道されるようになるとともに、感染や濃厚接触といった理由でのキャンセル連絡が増えている。予約の勢いが落ちており、全国旅行支援も延期となったため、先々の予約が上向き要因もない。また、インパウンドの受入れが再開されたものの、目立った恩恵もみられない。
	×	タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の影響で、行動制限の有無にかかわらず人出が減ると見込まれる。第7波の感染力の強さは行動自粛を誘発する要因となり得るため、今後の景気は悪くなる。
企業 動向 関連  (北海道)		家具製造業(経営者)	・新型コロナウイルスの感染拡大の状況次第ではあるが、今よりは状況が収まっているとみられるため、今後の景気はやや良くなる。
		建設業(経営者)	・秋になって工事がフル稼働の状態になることから景気はやや良くなる。ただ、人手不足や資材の納入遅れが懸念される。また、油や生コン、鉄などの資材価格の上昇がどの程度原価に影響を及ぼすか見通しが立たないことも不安材料である。
		建設業(役員)	・上半期はフル稼働状態が続くため、好調に推移することが見込まれる。ただ、円安や物価高による燃料、資材の価格高騰と品不足が工事原価や工期に影響を与えることが懸念される。
		通信業(営業担当)	・原材料の価格高騰というリスク要因はあるが、経済活動の維持に伴って今後も需要が底堅く推移するとみられること、アフターコロナに向けた本格的なICT関連の投資が着実に浸透し、進展していることなどから、この先の景況感は現状よりもやや上向きことになる。
		司法書士	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う工場閉鎖、ウクライナ情勢によって資材の輸入や流通に影響が出ていることなどから、建築関連の業種においては販売できる量が制限されているが、しばらくは緩やかな上昇が続くことになる。
		その他サービス業[建設機械レンタル](総務担当)	・新型コロナウイルスオミクロン株の別系統による第7波が生じているものの、経済活動の抑制は限定的である。世界的な見地からも我が国の経済活動の活性化が遅れるわけにはいかないため、感染対策を強化しつつ、景気回復に向けた経済活動が維持されることになる。
		食料品製造業(従業員)	・前回の価格改定の影響で販売量は減っているが、価格改定自体は客に受け入れられている。ただ、原材料費や光熱費などの値上げが続くなか、再度、価格改定を行うことを検討しており、その影響がどうなるかが不明である。
		金融業(従業員)	・個人消費は新型コロナウイルスの感染拡大や消費者物価の上昇が重荷となり、持ち直しの動きが減速する。住宅投資や公共投資も資材価格の高騰などに伴って、減少が続くことが見込まれる。金利引上げにより世界経済の景気後退懸念が高まっていることもマイナスであり、3か月後の道内景気は横ばいとどまる。
		司法書士	・円安が解消され、ウクライナ情勢が解決しない限り、景気は現状のまま変わらない。
		その他サービス業[ソフトウェア開発](経営者)	・人手不足が常態化しており、新たな人材確保も困難を極めている。売上を拡大することが困難な状況となっていることから、今後も景気は変わらない。
		その他非製造業[鋼材卸売](従業員)	・多品種の商材で値上げや更なる値上げの話などがあり、今後、客の購入がシビアになることが懸念される。
		建設業(従業員)	・案件が減りつつあるなか、価格上昇の影響で案件がますます減ることが見込まれる。改善される兆しもないため、今後の景気はやや悪くなる。
		輸送業(支店長)	・新型コロナウイルス感染症の第7波によって、今後の一層の感染拡大が懸念されるため、景気は下向きことになる。
	×	食料品製造業(従業員)	・売上が上がらないなか、原料やエネルギーなどのコストが異常な勢いで上がっているため、利益が減っている。状況は悪くなる一方であることから、今後の景気は悪くなる。
	×	金属製品製造業(従業員)	・エネルギー価格や原材料価格の高騰、ウクライナ情勢の長期化、半導体不足の影響がみられるほか、新築住宅確認申請も前年比で20%程度落ち込んでいる。景気が良くなるような要素が見当たらないことから、今後の景気は悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・新型コロナウイルス感染症対策の融資を受けた企業において、融資の返済ができず、倒産寸前の会社が増えることが懸念される。
雇用 関連 (北海道)		求人情報誌製作会社（編集者）	・当地域の基幹産業である農業が収穫繁忙期となり、関連業種である運送、加工、小売業も景気が良くなると見込める。ただ、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加による影響が心配される。
		職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数が1年3か月連続で前年を上回っているなど、全体としては回復の兆しがみられる。ただし、産業、業種によってその度合いが異なっており、今後の新型コロナウイルスの感染状況と経済活動、消費行動の状況によっては先が見通せない状態となることも懸念される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・今後の景気回復を妨げるような大きな要因が見当たらないことから、新型コロナウイルスの感染状況が深刻な状況とならない限り、景気の安定が図られることになる。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス感染症の影響が心配だが、景気が大きく下振れする要因も見当たらないことから、夏場は景気の持ち直しが期待できる。そのため、9月末の上半期終了までは現状のまま推移する。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響がどこまで長引くかにもよるが、基本的に採用意欲は旺盛なまま推移する。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルス感染症の影響を受けやすい業界において、第7波の影響を懸念する声が強くなっていることから、今後も景気は変わらない。
		職業安定所（職員）	・原油価格や原材料価格の高騰など、経営環境の悪化を招く要因は多いものの、今のところ業況が堅調な事業所からの求人もあり、新規求人数は維持できている。新規求職者数が前年から減少していることも持ち直しにつながっている。新型コロナウイルス感染症の第7波による経済への影響は懸念されるものの、今後も景気は変わらないまま推移する。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・円安や物価高に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、今後の経済活動がやや滞ることが懸念される。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染拡大、ウクライナ情勢の長期化など、今後の景気が良くなる要素がない。
	x	-	-

## 2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルス新規感染者数が落ち着き、全国旅行支援が開始されるタイミングで大きく潮目が変わり、マーケット全体が勢いづくことと推測している。
		商店街（代表者）	・祭りが開催されるため、観光客の増加が見込まれる。
		スーパー（店長）	・帰省を希望しない人が増え、外出も控えていることから、スーパーへの来店が増える見通しである。
		スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染が拡大して、内食需要は高まっている。食品小売業に関しては、値上げがかなりあったため買い控えがみられたが、客もかなり慣れてきているとみられる。2～3か月後には内食需要と値上げへの客の慣れにより、少しずつ景気は回復していくとみている。
		スーパー（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、行動規制のない夏は3年ぶりで行楽、帰省などの人流はある。来月はお盆を控えていることもあり、特に帰省する人が増加すれば食品の販売伸長には大きなチャンスがある。
		コンビニ（経営者）	・人流も活発であり、販売量の微増は当面は続くことと推測される。
		衣料品専門店（経営者）	・次シーズンの新商品入荷に当たり、高品質な高額品を求める声が多く、更なる客単価アップが期待できる。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	・新規感染者数はいずれピークアウトするが、それが2～3か月先なのか、いつになるのか分からない。しかし、ここまで抑制してきた反動もあるのではないかとみている。
	その他専門店〔靴〕（従業員）	・ウィズコロナが加速していくとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新型コロナウイルスの感染の抑え込みが大前提であるものの、消費傾向は今までの反動で少し上向くとみている。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波が収束するという条件がないと、我々の業界は上昇機運にはならない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・3年ぶりに例年規模で花火大会や祭りの開催が予定されており、たくさんの人出が見込まれている。しかし、新型コロナウイルス感染症が収束しない限り、繁華街に人が戻ることはなく、景気は今と変わらないとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・いろいろなものが値上がりしている状況のなかで、どれだけの来客数になるのか分からない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・政府は行動制限を掛けていないが、ここまで急激に新型コロナウイルス新規感染者数が増加すると、消費者自身が自ら行動を制限する傾向が顕著にみられる。来月のお盆の旅行をキャンセルした話などを耳にすることもあり、景気の回復は難しいとみている。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・状況が変わらないため、現状のまま推移するとみている。
		百貨店（経営者）	・夏休み期間終了後の新型コロナウイルス新規感染者数次第だが、客の声を聞いても消費活動のポテンシャルは高いことから、行動規制が行われない限り、今のまま堅調に推移すると期待している。
		百貨店（売場担当）	・まだまだ新型コロナウイルス感染症の影響は大きいことを実感している。やはり今後も感染状況に左右されることになるとみている。
		百貨店（催事担当）	・経済活動が活発化すれば新型コロナウイルス新規感染者数が増加するの繰り返しで、先行きが不透明である。食品や生活必需品等の値上がりにより生活防衛意識が広がることも予測される。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大による買物頻度の減少と、値上げによる買い控えがみられる。この傾向はしばらく続くとみている。
		スーパー（店長）	・ウクライナ情勢や物価高などにより、消費環境の改善が見込めない。
		コンビニ（経営者）	・最近も新型コロナウイルス新規感染者数が増加しており、ある程度の規制を掛けながら進んでいくとみられるが、従業員の欠員が心配である。なかなか先が読めない。
		コンビニ（経営者）	・客の動きは良くなってきているが、新型コロナウイルスの新規感染者数が多くなってきているため、今後どうなるか分からない。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの感染状況次第だが、行動制限がないままであっても消費マインドは上がらないとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルス感染症の第7波がどうなるか分からない。
		コンビニ（店長）	・景気は小康状態が続いているため、更なる値上げがなければ現状が維持されるとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・依然として飲食業の売上は低調である。夜の人出が少なく四苦八苦しており、ビールの売上は芳しくない。法人のお中元は例年より若干落ち込んでいる。
		衣料品専門店（経営者）	・秋物が動き出す頃で売上は期待できるが、円安や輸送費用の値上がりなどのため、インポート物が値上がりする。価格が上がることで購買意欲のブレーキになる不安がある。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しつつあるが、全ての経済活動が止まるわけではない。今のまずまずの勢いが継続するのではないかとみている。
		衣料品専門店（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染力が高いため、来客数の減少が続いていくとみている。
		家電量販店（店長）	・先行きを見通せない。
		乗用車販売店（従業員）	・今後また新型車が出て販売量が伸びず、景気はなかなか良くなっていかないとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況次第である。感染拡大によるロックダウン等の影響で、新車の生産状況は不安定のまましばらくは変わらないとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・現在はやや上向きになってきているが、コロナ禍でのロックダウン等で大きく変動するため先が読めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（店長）	・市場における中古車の在庫不足はかなり深刻で、しばらくは我慢が必要とみている。在庫不足・市場価格の高騰・買手が付きにくい・中古車収益減少の構造がしばらく続くと思われる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・補助金の適用により販売価格の上昇が抑えられており、今後原油コストが下がることがあっても現在の高値は変わらないことから、販売量が増える見通しが立たない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・単価の高騰から店頭ガソリンの販売量が伸びない。夏休み行楽シーズンだが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり伸び悩みが心配される。
		高級レストラン（スタッフ）	・物価も上昇しており、客が支出を控える動きが出ている。
		一般レストラン（経営者）	・第7波がいつ終わるのか。その後またすぐに新型コロナウイルスオミクロン株の別系統が出て第8波が来るともいわれている。新型コロナウイルスの感染が収束しない限り、悪い状況が続くとみている。
		観光型旅館（経営者）	・来客数は回復傾向になってきていたが、新型コロナウイルス新規感染者数の増加により鈍化するとみている。
		通信会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大に合わせて半導体不足の問題も加わり、年末にかけて通信関係の機器が品不足になっている。このため客に提供する端末の数に調整が必要となり、契約者数の増加に対応できなくなる可能性がある。秋にかけてサービスエリアを拡大した無線インターネットの加入も見込んでいたが、機器不足で大きな増加は見込めない。
		通信会社（営業担当）	・好転するような材料に乏しい。
		テーマパーク（職員）	・新型コロナウイルス感染症の影響で宿泊客が減少している。日帰り客はさほど影響を受けていないが、新規感染者数が増え続けているため、今後は新規感染者数に左右されるとみている。
		観光名所（職員）	・全国の新型コロナウイルスの感染状況は拡大の一途をたどっているが、今までのように感染拡大とともにキャンセルが増えるということは今のところない。客は行動制限が掛からない限りキャンセルするという気持ちにはならないようである。このまま感染状況が悪くても、今の状況はキープできるのではないかとみている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・8月以降の新型コロナウイルスの感染状況が懸念材料であるが、急激な悪化はないとみている。
		設計事務所（経営者）	・低調な景気状況が今後も継続するとみている。
		住宅販売会社（経営者）	・依然、客単価が低い。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・住宅設備機器はエアコンの問合せが急増しており、工事が遅れる状況になっている。リフォームは資材、商品の納品遅れの状況が続く。
		商店街（代表者）	・秋にかけて新型コロナウイルスの感染状況の収束は見込めず、電気・ガス・原材料等の価格高騰による物価高もあることから、景気回復には時間を要する。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増え、不安感が募っている。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波と円安の状況による。日本銀行は利上げするのではないかとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・ここ3か月くらい売上が悪い状態が続いている。ウクライナ情勢の影響でエネルギー価格が上がれば全ての物価が上がるとみており、更なる景気悪化が予想される。
		スーパー（経営者）	・資源、エネルギー、原材料の価格上昇は更に続き、製造コストも更に上がり、価格転嫁を進めなければならない。新型コロナウイルスの感染拡大のピークが過ぎても影響はまだ続き、行動制限はなくても自粛傾向は続くと思われている。他方、行政の支援制度や補助金等で経営・営業を続けていたところは正念場となり、事業継続が厳しくなるところも多々出てくることを危惧している。消費環境の厳しさは今しばらく続くと思われている。
		スーパー（店長）	・いまだに商品の値上げ対応が続いており、買にくい単価の商品が増加している。この値上げの影響で、より低単価、価格優先の志向が強くなってくると推測されるため、ディスカウント系の小売店へ客が流れていく恐れがあるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（営業担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加が懸念されており、お盆の帰省がどうなるか分からない。また、値上げ、地場産品の天候による不作などにより、経済環境に影響が出ることも心配している。
		コンビニ（経営者）	・7月中旬までは順調に回復傾向にあったものの、中旬から月末にかけての新型コロナウイルス新規感染者数の急増で、また人の流れが抑えられている。今後も現在の勢いで新規感染者数が増えそうであり、景気は頭を抑えられると予想している。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増えているため先を見通せず、かなり落ち込んでいくとみている。
		コンビニ（経営者）	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が増え続けると何かしらの制限が掛かり、人の動きも鈍るとみている。全てが新型コロナウイルス感染症次第だが、周りからも先行き不安の話しか出てこない。人手不足も始まってきている。人がいない、利益が出ない、休みがないコンビニの経営は今後どうなるのか見通せない。
		コンビニ（エリア担当）	・1度落ち着いた新型コロナウイルス新規感染者数が急増して、社会生活にも影響が出るほどになっている。このまま何の対策もない状態であれば、今後の売上は落ち込むことが予想される。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で自粛ムードが出てきており、徐々に来客数に影響が出始めている。
		家電量販店（店長）	・ガソリン価格や物価の上昇が影響して、客の買い控えが進むとみている。
		家電量販店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない状況のなか、客も自粛生活を強いられることが予想される。
		乗用車販売店（従業員）	・もろもろの物価が上昇しているため、現状維持が若干悪くなるとみている。
		住関連専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が拡大し始めてきている。行動に制限はないが、今後は感染者を増やさないため自粛せざるを得ないため、事業が成り立たなくなる。
		住関連専門店（経営者）	・ある程度の売上は見込めるものの、身の回りの人や客との会話から、今月を上回ることは期待できない。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が見通せないことと、物価高が更に進むとみられることから、全体的に今よりも更に厳しい状況になるのではないかとみている。体力がなくなっている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症の状況次第では、来客数は減少するとみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルス新規感染者数が増加傾向であるため、新規の予約が余り増えず、キャンセルが多くなるとみている。
		観光型旅館（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症の第7波に加え、紅葉シーズンが終了した11月は当地では集客は悪くなる。ただし、県民割等の施策が継続すれば悪くはならず、現状維持かやや良くなるということも期待したい。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加の影響により、キャンセルが出始めている。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の第7波拡大の影響で悪くなる。
		通信会社（営業担当）	・GDPの成長率は当初の3.2%の見通しから大幅に引き下げられ2%になるとの試算が示されたことと、中小企業への影響は大きいとみている。夏休み、お盆の移動需要に新型コロナウイルスの感染拡大が影響し、観光産業、飲食業は大きな打撃を受けることが予想される。物価上昇にもかかわらず販売価格は据置きせざるを得ず利益が出ない。よって、やや悪くなるとみている。
		通信会社（営業担当）	・身の回りのほぼ全てが値上がりし、今後景気は急速に悪化するとみている。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大が止まりそうにない。
		遊園地（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の動向が不透明で、物価上昇による家計への影響とあわせて、弱含みの見通しである。
		競艇場（職員）	・今月は来場促進イベントを2回行ったにもかかわらず売上が伸びない。2～3か月先は特にイベント等を計画しているわけでもないため、売上は下がると予想される。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・原材料やシャンプー、トリートメントなど商品の仕入単価が上がっている。原価高騰分を販売価格に転嫁することは簡単ではなく、それが経営を圧迫してくるとみている。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	・新規来場者数が減少するとみしており、半年後、1年後の見込み客の減少につながるものと捉えている。
	×	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波による新規感染者数の増加が非常に激しく、来客数はどんどん少なくなり、キャンセルが出るような状況になっている。2～3か月後もこの状況は続き、先行きはかなり悪くなるとみている。
	×	スーパー（経営者）	・物価の上昇はとどまることを知らず、毎月様々な商品やサービスの価格が上昇している。なおかつ、可処分所得が伸びていない。
	×	コンビニ（経営者）	・7月の中旬から新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきて来客数が減少している。特に週末土日の減少が激しくなっており、今後どうなるのか分からない状況である。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	・国や自治体を挙げての何かしらの抜本的対策がなければ、悪い方向へ行ってしまおうのではないかと懸念している。飲食も販売もどの方向、セグメントも悪い状況であり、輸出等が良いと言っても一部に偏った話なので、先行きが非常に不安である。
	×	その他専門店〔食品〕（経営者）	・日用品の値上げが相次いでおり、今後しばらく買い控えが続くとみている。
	×	高級レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響は一部ではなく全ての業種に出てくるため、2～3か月後の景気は悪くなるとみている。
	×	一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染症による宴会の突然のキャンセルが少しある。新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着かなければ商売は安定しない。また、値上がり激しいため他の同業者も厳しいのではないかとみている。
	×	一般レストラン（経営者）	・行動制限がなくとも新型コロナウイルスの感染に対する自己防衛が心理的に働く環境である以上は、消費活動にブレーキが掛かり、景気は下がる一方である。田舎になればなるほどその傾向は強い。新型コロナウイルスに感染しても気にならない程度の症状まで押さえ込める治療薬の開発や分析が進まない限り変わらない。
	×	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の新規感染者数が減少傾向に転じない限り、悪化するのみである。
	×	タクシー運転手	・タクシー業界において、良い展望が開けるような材料がない。物価高や客の財布のひもが固いことを考えると希望が持てない。
	×	タクシー運転手	・子供が夏休みに入った日を境に1日の乗車回数が減少している。新型コロナウイルス新規感染者数が急激に増加したことにより、再び高齢者の外出控えて、景気は下降していると推察できる。
企業 動向 関連  (東北)		建設業（企画担当）	・政府の施策において、新型コロナウイルス感染症の対策における規制は余りみられない。
		食料品製造業（製造担当）	・行政は現段階ではコロナ禍において経済をストップさせるような方向にかじを切っていない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の集団免疫獲得による経済の活性化に期待している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・需要に対し半導体及び半導体関連装置の生産がいまだに追い付いておらず、今後の受注量の増加が見込まれる。
		建設業（従業員）	・受注は順調だが、資材価格の上昇を懸念している。
		食料品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着かないと人の動きが鈍くなり、売上に影響する。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が再拡大している。原材料価格の高騰を販売価格で吸収できていない。業界というより社会全体、特に地方には沈滞ムードが広がってきている。
		窯業・土石製品製造業（役員）	・業界として値上げをしたが、需要は増えず減少するばかりである。原材料の価格高騰や燃料費の高騰は続いており、更なる値上げを検討せざるを得ない地区もある。
		金属製品製造業（経営者）	・目下の受注状況は好調だが、急激な円安やウクライナ問題などで先行きは不透明である。
	電気機械器具製造業（営業担当）	・取引先が予防保全に対する予算を縮減する方向にある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・先々の動きはいまだみえてきていない。良い情報は余り入ってきていない。
		建設業（従業員）	・ウクライナ情勢において先が見えない状況が続いている。
		輸送業（経営者）	・7月に入って当地域でも新型コロナウイルスの感染が急拡大している。当社社員においても感染者及び濃厚接触者が増えており、主要製造業取引先社員でも同様である。その影響で欠勤者が増え、一部の生産ラインに支障が出ている。ただでさえなかなか生産量が増えないときに、更に追い打ちを掛けられている状況である。
		通信業（営業担当）	・新規契約につながらなかったとしても、客によりそう姿勢で対応していく。
		通信業（営業担当）	・物価上昇の影響で買い控える人が増えている。また、半導体不足の影響がまだ続いており、商品が入ってこない。
		広告業協会（役員）	・新型コロナウイルス新規感染者数の収束が見通せず、企業は販促計画の中長期戦略が立てにくい状況にある。予算は確保しているが、様子見状態がしばらく続くため、広告業界は不安定な状況に陥っている。
		経営コンサルタント	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響次第である。
		コピーサービス業（従業員）	・働き方改革の支援で様々な業種の会社へコンサルティングを実施している。コロナ禍での仕事の在り方を変化させる動きがあり、当社の取扱商材が役に立つ可能性が増えてきた。ただし、時間は掛かりそうである。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・日本経済は大変だというのが、地域を重視してみると余り変化はみられず、需要と供給のバランスが取れている。景気は上向き傾向にあるとみている。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・まだ新型コロナウイルス新規感染者数のピークアウトがみえていないことから、酒販店や飲食店も秋口の企画について控えめな選択にとどまっている。
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・受注案件、受注量はそれなりにあるが、原価としての原材料・電力料等々経費高騰から、収益面で厳しさが続いている。
		農林水産業（従業者）	・10日頃から、日ざしが少なく梅雨時と同じように曇天の日が続く、ももの甘みが前年より少なく品質は普通である。また、注文数は前年並みできている。
		農林水産業（従業者）	・資材価格の高騰が続いているものの、農産物価格は横ばいのままで、減収になる見込みである。
		食料品製造業（営業担当）	・燃料費や原材料の価格高騰による製品価格の値上げを予定しており、更なる販売苦戦は避けられない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・円安により輸入品やガソリン価格が上がっており、全体的に購買意欲が減退するとみている。
		金融業（広報担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大、ウクライナ紛争の長期化、原料高の長期化など、夏祭り特需のリバウンドとともに多数の悪いシナリオが想定される。
		広告代理店（経営者）	・原料価格の高騰と、新型コロナウイルス感染症の第7波による経済活動の不透明化が深刻である。
		司法書士	・新型コロナウイルスの感染拡大による影響が避けられない。
		公認会計士	・新型コロナウイルスの感染が拡大しているため、行動規制が行われるかもしれない。そのことにより自粛が必要になるという心理的要因と最近の円安による物価高から消費抑制が進み、サービス、小売、飲食関係の景気は悪くなる。建設関係は現状維持としても全体としての景気は悪くするとみている。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波により、当地の交流人口の増加は期待できない。宿泊施設におけるお盆前後の予約も常連客以外は望み薄である。
	x	*	*
雇用 関連 (東北)		-	-
		人材派遣会社（社員）	・個人情報関連など、様々な法令の変化や外的環境の変化に伴い、事業自体の変化が生まれ、その変化に関する専門人材の採用が増えている。
		アウトソーシング企業（経営者）	・今後5類に引き下げられれば、かなり回復するのではないかとみている。
		職業安定所（職員）	・求人数が求職者数を上回っている状態が続いている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（経営者）	・2つの理由によりそれほど良くない状況が続くとみている。1つは新型コロナウイルスの感染状況である。収束の兆しはみえず、子供から親に感染するケースが増えてきており、感染者若しくは濃厚接触者が増加し生産活動ができなくなっている。もう1つはウクライナ情勢を含めた物価の上昇である。仕入価格が高騰しているため、利益を圧迫している企業が飲食業を中心にでてきている。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス感染症の第7波がどのような影響を及ぼすかで変わってくる。
		新聞社〔求人広告〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症への慣れと、感染拡大しても行動制限しないという政府の方針により、新型コロナウイルス感染症の景気への影響は少なくなっているようである。一方で、物価高などに伴う経費圧迫によって広告を取りやめる企業も出てきており、影響は大きくなりそうである。海外からの観光客受入れの制限がなくなるまでは大きく改善しないとみている。
		職業安定所（職員）	・主要産業の製造業では新型コロナウイルス感染症による中国でのロックダウン等を教訓に、製造拠点や受注先を国内に戻す動きが継続しており、求人意欲は堅調である。しかし、資材価格や固定費の高騰に苦しむ事業所が多く、景況感を押し下げており、相殺状態が続くとみている。
		職業安定所（職員）	・秋口には新型コロナウイルスの新規感染者数は落ち着くとみられ、行動制限が掛からなければ消費はそれほど落ち込まず、景気は余り変わらないとみている。
		その他雇用の動向を把握できる者	・新型コロナウイルスの感染急拡大の影響は不安材料であるが、企業の採用意欲に旺盛さがみられる今の傾向は継続するとみている。
		新聞社〔求人広告〕（経営者）	・新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大で、先行きが全くみえない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・県内の新規感染者数の過去最多更新が続き、経済の停滞による広告の動きへの影響が懸念される。
		民間職業紹介機関（職員）	・生産量の見直し等を実施している企業も出てきている。
		学校〔専門学校〕	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が大きくなる。国や自治体により対応が分かれるところもあり、医療機能の維持が経済活動の維持にもつながる。
	x	人材派遣会社（社員）	・足元で求人数の伸びが鈍化している。新型コロナウイルスの感染状況によりサービス業の求人数は上下するが、全体としてインフレ懸念及び米国の景気減速など、日本経済の主軸業種への影響は避けられず、既に一部で求人抑制の動きが出てきている。

### 3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)		*	*
		百貨店（店長）	・新型コロナウイルス感染拡大第7波の収束を、約1か月半後と想定している。9月以降、感染が一定レベルに落ち着いてくれば、来客数や売上も好転していくと考えている。
		スーパー（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、上向きになると思っている。
		コンビニ（経営者）	・周辺地域の状況に大きな変化がないため、現状同様やや良くなる。
		コンビニ（店長）	・プレミアム付商品券の効果が期待される。
		衣料品専門店（統括）	・ようやく、新型コロナウイルスの感染状況が、やや持ち直してきたように思っていたが、最近になって、再び新規感染者数が増えてきてしまっている。これから祭りシーズンになるが、夏祭りを中止するところが出てきている。当地は秋祭りなので、10月までには持ち直してくれば良いと思っている。何とか祭りが再生することを願っている。
		家電量販店（店員）	・天候が回復して猛暑日が増えていけば、エアコンや冷蔵庫等の動きに期待できる。
		都市型ホテル（支配人）	・新型コロナウイルス感染拡大のピークアウトが1か月～1か月半後との報道もあるので、ピークアウトすることを願って、やや良くなると予想する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー（経営者）	・全体的に動きが良くなってきたので、この先も良くなるのではないかと。 ・新型コロナウイルスの新規感染者数の増減に影響される恐れがある。
		通信会社（営業担当）	・当県内に限れば、国体の開催もあるので、多少の景気上昇は期待できる。
		設計事務所（所長）	・現在の暑さが少し落ち着いてくるようになれば、人の動きが出てくると思うが、なかなか難しい状態である。物価が毎回のように値上がりしているため、客も考えて行動している。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・前月には考えられないほど、新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。観光業を営んでいるので、通常、夏休みに入ると徐々に忙しくなるが、感染拡大に伴い、自主的に行動制限する方が多く、前月より売上が悪くなっている。周囲の店や宿泊施設も低調な予約のため、景気の悪い状況が続いている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大を始めとして、食料品、エネルギー価格等の高騰など、依然として先行きは不透明で、景況改善は見込めない。
		百貨店（営業担当）	・4～6月の売上が、2019年比マイナス5～10%で推移しており、戻りの鈍い状態が続いている。
		百貨店（店長）	・ようやく新型コロナウイルスの感染対策の行動制限が緩和され、観光客も増えてきて、周囲のホテル、物産店、ドライブイン関係が、さあこれからだというときに、また感染拡大第7波の影響で、キャンセルが相次いでいる。それに同調しているわけではないが、新車に関しては注文後、半年～7か月先の納車になるが、2～3か月先も全く同じような状況である。新型コロナウイルスが収束、または沈静化しない限りは、車の販売もホテル関係も良くならない。
		乗用車販売店（販売担当）	・やはり新型コロナウイルス感染症の影響もあり、人の動きは鈍く、購買意欲もまだ上がっていない状況がもう少し続く。
		自動車備品販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大の第7波が想定以上に大きく、今後、行動を抑制する流れになると、更に個人消費は落ち込む。
		住関連専門店（仕入担当）	・今の課題は、新型コロナウイルスの新規感染者数の状況が厳しいことである。また、猛暑でもあり、人出が特に悪くなりそうである。子供と高齢者が内向きになってしまうことが予測される。メーカーや問屋の在庫が薄くなり、的確な品ぞろえが難しくなっている。
		一般レストラン（経営者）	・物価高騰はまだ続くだろうし、給料が上がる等がない限り、悪い状態が変わらず続くだろう。新型コロナウイルス感染症も対策をしっかりとって慣れてくれば、人も動くと思うが、まだしばらくは現状のままである。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・社会情勢次第だと思うが、変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・仕入品の価格はまだ上がるだろうと読んでいる業者が多いので、先行きは不安である。
		観光型ホテル（経営者）	・変わらないというより、分からないというのが正直なところである。政治行政が明確に方向性を出さなくてはいけないと思う。
		都市型ホテル（総支配人）	・客自身が様子見しながらの予約状況となっているが、以前のようなキャンセルラッシュとはならないのではないかと。スポーツや学生団体の予約等も新型コロナウイルス感染症の発生前に戻りつつある。
		旅行代理店（所長）	・全ては、新型コロナウイルスの感染拡大が今後どのように推移するかにかかっている感じがする。また、全国旅行支援や、Go To Travelキャンペーンの実施の有無に大きく左右される。
		旅行代理店（従業員）	・サル痘関係が不安だが、このまましばらくは現状が続くと思う。
		通信会社（経営者）	・数か月での回復は一切見込めず、人員削減等の経費削減を進めている。
		通信会社（社員）	・しばらくは現状が続く。
		通信会社（総務担当）	・人気機種の新規スマートフォンの発売による販売増が見込めるので、今年度は毎月悪化しているが、その中での横ばいを予想している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（局長）	・機器の納品時期が不安定なので、販売方法が複雑化しており、生産性が下がっている。
		競輪場（職員）	・経済活動を行いながら、新型コロナウイルス感染症対策を実施している状況だが、新規感染者数の急増で、自粛ムードになってきている。また、物価上昇も続いており、良い方向に向かう要因は、現在のところ見いだせない。
		住宅販売会社（経営者）	・多業種に渡って、状況が悪化しているとの話を耳にする機会が多くなっている。新型コロナウイルス感染拡大が落ち着くまで、この状況は続くことになりそうである。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・会社全体の業績でみると、公共工事の受注で一息ついている感じである。民間工事は原材料価格高騰によるコスト高を敬遠して、積極的とは言い難い姿勢を感じている。
		商店街（代表者）	・緊急事態宣言が発出されてもおかしくない状況で、新型コロナウイルス感染拡大第6波の頃の状態に戻った景気になりそうで、恐ろしく感じられる。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・これだけ新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてくると、ある程度感染が沈静化しない限り、不安で出歩いたり、買物等もできない状態である。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルス感染拡大の出口が見通せない。物価高騰等や不安要素の払拭が見えない状況が続くと予想される。
		スーパー（商品部担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加や諸物価の値上がり傾向と、家計に対する良い話はない。天候不順の影響等も考慮すると、まだまだ厳しい状況が続く感じがする。
		コンビニ（経営者）	・このところの、数多くの値上げに伴い、買い控えが出てきている。食料品の値上げは今後、ポディーローのようにダメージが大きくなり景気後退につながるのではないかと、非常に心配するところである。
		乗用車販売店（経営者）	・コロナ禍や他国の侵略戦争による原油、ガス不足と物価上昇等のため、購買意欲が減少している。ただし、当地域の自動車メーカーは、生産台数の内、輸出が63%を超えるので、為替差益は大きい。円高傾向になれば諸刃の剣となる。
		乗用車販売店（従業員）	・受注状況から見る限り、依然として厳しい状況が続く。
		住関連専門店（店長）	・このまま新型コロナウイルス新規感染者数が増えたと、現状から悪化することが懸念される。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・求人難に加えて、最低賃金の見直しが今年度も予定されている。扶養控除の範囲内の勤務を希望する社員も多く、1人当たりの勤務時間が短くなれば、更なる人員不足となりかねない。労働集約型の業務では、他のコストアップ要因も加わって、業務環境は一段と厳しくなる。
		テーマパーク（職員）	・新型コロナウイルス新規感染者数の大幅な増加により、夏季繁忙期になっても入園者数は足踏み状態である。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・円安、新型コロナウイルス感染症、エネルギー問題、諸物価高騰と、様々な問題が目白押しである。せめて、大災害が発生しないことを祈るのみである。
		設計事務所（所長）	・やや良くなる傾向にあったが、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加、物価の高騰、ヨーロッパ情勢等により、景気は冷え込みつつある。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・とにかく物が高過ぎる。税金でも減らしてくれない限り、一般庶民は生活できなくなる。買い控えは必ず起きる。
	×	コンビニ（経営者）	・今月初めまで大きなイベントがあり、売上が非常に伸びたが、イベントも終わったので今後は悪くなる一方だと思っている。
	×	衣料品専門店（販売担当）	・多くの客が動き出そうとした矢先に、新型コロナウイルス感染拡大第7波が来てしまっている。来月からは、夏休みや旧盆があり、人の動きは多少出ると思うが、当店の顧客は高齢の方がほとんどなので、相当動きが鈍い状況が続くのではないかと、こうしたことから、今後もしばらくの間は外出自粛が増えていくと思うので、ますます悪くなっていく。
	×	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の急増と夏のイベントが重なって、更に感染者は増えるだろう。経済を止めないというものの、社会的に自粛が当然となり、来客数は激減するとみている。
	×	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・物価高が止まらず、新型コロナウイルス感染拡大の第7波が来て、周辺や社員、私自身も含め、感染者や濃厚接触者になる状況で、店を回していくのも非常に大変である。景気が上がっていくような形が考えられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルス感染拡大の波と繰り返される濃厚接触者の行動制限により、何ら景気回復の兆しが見えない。
	×	都市型ホテル（支配人）	・新型コロナウイルスの感染が拡大している最中で、ピークアウトが8月後半になるとしても、3か月後はまだ感染状況が落ち着いていないのではないかと。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	・コロナ禍も一段落し、宿泊は県民割等の補助事業もあり、過去最高の客単価を残すなど好調である。レストランも2018年比で90%近くまで持ち直しており、好調である。また、宴会の受注件数も増え、1組当たりの人数も持ち直しが見えてきていたが、新型コロナウイルスオミクロン株BA.5のまん延で、一気に動きが止まっている。キャンセルも増えており、この状況が改善されない限り、同じことの繰り返しである。
	×	タクシー運転手	・再び、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かなければ、悪い現状は続きそうである。
	×	通信会社（経営者）	・仕入コストの増加、サプライチェーン崩壊による商材不足が続く、ようやく一部商材の納入が正常化してきたと思ったら、新型コロナウイルス感染拡大第7波である。二重苦、三重苦の状況で、景気が良いはずがない。景気後退になっても、日本は利下げもできない。大規模金融緩和はもう失敗に終わったのだから、いつまでも意地を張ってないで、柔軟に善後策をとるべきではないのか。
	×	ゴルフ練習場（経営者）	・原材料費の高騰や電気、ガス料金の値上げにより、商材価格を値上げせざるを得ない。
	×	美容室（経営者）	・日銀短観によれば、経済再開に対する期待で大企業はプラスを維持しているが、中小企業はマイナスに沈んでいる。日本経済の復活は、中小企業の利益成長なくしてありえない。
	企業 動向 関連  (北関東)		-
		金属製品製造業（経営者）	・受注元の生産計画によるが、やや良くなるとみている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・これから、新型コロナウイルスの感染状況がどうなるかによって、また変わってしまうだろうが、大分動くという予測が出ているので、多少なりとも安心できる。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主要な取引先からは、受注が増加するとの通知がある。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・商談や受注件数、金額いずれも増加しており、収益が更に改善するのではないかと。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・現在、いろいろな物の値段が値上がりしている。ただし、今のところ影響を余り受けていないと思うので、このまま続けてほしい。
		金属製品製造業（経営者）	・今のところ、先のことは分からない。ただ、不安材料はたくさんある。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・8月は9連休があるので、やや悪くなる。こんな状況が続いているので、2～3か月先のことは、分からない。
		その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・まだしばらくは、新型コロナウイルス感染拡大の影響が残ると考える。
		輸送業（営業担当）	・今後も、新型コロナウイルスが感染拡大しても行動制限等が行われなければ、レジャー、バーベキュー、園芸用品や草刈り機等の物量は前年並みを確保予定である。しかし、原油高による燃料費高騰などで経費がかさんで厳しいため、利益確保は難しくなりそうである。
		経営コンサルタント	・ウクライナ戦争と中国上海のロックダウンの影響が続いている上に、新型コロナウイルス変異株の派生型のまん延が原因となって、急に先行きに対する不透明感が出てきている。さらに物価高騰とサプライチェーンの断絶による品不足が収まりを見せないなか、まだしばらくは消費活動が抑えられるのではないかと。
		司法書士	・当面はやはり落ち目の状態で変わらないというところである。
		社会保険労務士	・物価高騰は続くだろうが、政府も景気対策を打つと思うので、それほど大きくは変わらないのではないかと。
	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・あらゆる物の価格上昇で、非常に厳しい状態が続くのではないかと。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	一般機械器具製造業（経営者）	・自動車メーカーの生産ラインが今後どのように稼働するのか、明確な情報がないので苦しい状況が続く。サプライチェーンの断絶により、注文しても手に入らない物が増えてきており、計画的な生産が不可能になる状況が拡大するのではないかと懸念している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・購入している各種材料の単価が異常なほど上がっているため、発注元も不安要素が大きく、注文を出しづらくなっているようである。今後、周りでも倒産が出てくるのではないかと不安がある。
		建設業（総務担当）	・発注見通しも件数が少なく、工事量が増えてくるのか分らず、先行きがとても不安である。
		広告代理店（営業担当）	・新型コロナウイルス感染拡大第7波では、身近なところでの感染も見受けられる。これからのシーズンに影響があると思っている。
		建設業（開発担当）	・現政権の下、公共工事は順調で有り難い。ただし、コロナ禍で、公共工事発注は大変厳しい状況にある。発注額が前年比29%減、前々年比37%減と、壊滅的な状況である。公共事業は災害時の復旧作業にはなくてはならない業種だが、この状況では今後対応できなくなると心配である。
		不動産業（管理担当）	・今後も、社内で新型コロナウイルス感染症の陽性者が出ることが予想され、通常の業務を延期したり縮小したりと、売上減少の見込みがある。また、9月末で取引先との契約解除が決まってしまうなど、売上の減少要因が増えるため、悪くなる。
雇用 関連 (北関東)	x	-	-
		人材派遣会社（経営者）	・地方では、旧盆の休みや夏休みを見越して、観光地等や夏物商材の遊具等、購買力は幾らか上がってきているようである。大型、中型店舗での購買意欲にも活発さがみられるが、購買力は一進一退の状況で、今後に期待はできるのか不安は残っている。
		人材派遣会社（管理担当）	・サービス業への派遣求人数が増加するため、やや良くなる。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・新型コロナウイルスオミクロン株の変異株の感染拡大が心配ではあるものの、経済との両立を優先する動きが企業からうかがえるため、ウィズコロナが進んでいく。
		人材派遣会社（社員）	・派遣依頼数に対して、人材不足の状況は変わらない。また、稼働スタッフの新型コロナウイルス感染者数が急増しており、売上への影響も懸念される。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの感染拡大が再び起きている。当然、どの業種、どの地域でも影響はあると思うが、先行きが不透明ななかで、出歩くことを控えるなどが起きてくる。宿泊施設関係ではキャンセル等も増えているようなので、先行きは若干悪くなるのではないかと予想している。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの本質をとらえないで、感染予防策を押し付けている我が国や世界各国が、経済を圧迫している傾向は一層強くなっている。今回、WHOからサル痘の緊急事態宣言が発出されたこともあり、このまま押さえつけていくのであれば、どんどん悪くなっていく。
		職業安定所（職員）	・雇用面では持ち直しの動きがみられるものの、新型コロナウイルスの感染急拡大、各種原材料高、燃料や光熱費の上昇、ウクライナ情勢等、不安要因が多く、今後の雇用への影響が懸念される。
	*	*	

#### 4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)		乗用車販売店（総務担当）	・半導体不足は解消されていないものの、中古車、サービス販売でカバーする。新車については、日本市場でもEVへのシフトが予想される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症に対する対策が緩和されると信じ、人流は増加してくる。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せ、全国旅行支援、Go To Travelキャンペーンの再開が見込まれる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売促進担当）	・館内の一部リニューアルオープンを予定しており、秋の行楽などライフスタイルをもって、トラベル、食品などに期待している（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルス感染症については、行動制限がなくなり来客数が安定してきているが、一方で今年は猛暑により客が来店を控えるケースが増えてきている。台風の程度にもよるが、秋以降の方が売上の安定が見込める（東京都）。
		百貨店（店長）	・今回の新型コロナウイルスオミクロン株の別系統は、海外の事例を見ても短期間に感染爆発が起こるものの、収束も早めだと予測している（東京都）。
		百貨店（管理担当）	・ここ数年の傾向では、新型コロナウイルスの新規新規感染者数が落ち着き、過ごしやすい気候になるにつれて、外出の気運が高まるのではないかと（東京都）。
		スーパー（店長）	・今月に入り新型コロナウイルスの新規感染者数がまたじわじわと増え続けている。3か月先もこのまま新規感染者数が増えれば、地域の客も自粛で余り出かけたり外食したりせずに近所のスーパーで買物をしてくれるのではないかと。新型コロナウイルスの新規感染者数が急拡大しているなかでは、そのように予測している（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、来客数は増えている。今後も、前年と比べると良くなっていくと思うが、また行動制限が行われれば、同じように不景気になっていくのではないかと。ただし、かなり原価が上がり、コストが上昇しているので、利益が取りにくい時代になってきたと感じている。
		コンビニ（エリア担当）	・1か月先の天気予報で高温が予想されており、行動制限も掛からない見込みのため、前年と比較して来客数の増加を期待できる（東京都）。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルス感染症がピークアウトし、早く訪日客の受入れを拡大してほしい（東京都）。
		乗用車販売店（販売担当）	・やはり半導体不足の影響が相当ある。新車については相当納期が掛かるため、前受注ということで大幅な値引きがない。中古車についても、新車がなかなか手に入らないので中古車を買うという形で購買力が上がってきて、価格が相当高騰している。20%以上値上がりしている車もあり、当然それに伴って粗利も上がっている。そうしたことから、今後については徐々に良くなるのではないかと（東京都）。
		住関連専門店（営業担当）	・政府の施策である「こどもみらい住宅支援事業」の浸透による需要喚起や、新型コロナウイルス感染症対策において、原則行動制限なしへとかじを切ることによる経済活動の活発化が見込まれる（東京都）。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	・3か月後になると季節も変わってくるので、それなりに消費が増えてくる。
		その他専門店 [雑貨]（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の再拡大が懸念されるが、このまま行動を制限することなく経済活動が継続されれば、景気は緩やかにしながら更に良くなっていく（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数によるところが大きい。楽観視すれば、やがては減少するであろう。これまでの波から、近い時期をピークとすれば、秋口以降は新規感染者数は減少に転ずると予想できる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・ここにきて、新型コロナウイルスの感染が再拡大している。また、仕入コストも値上がりが続いている。3か月後は新型コロナウイルス感染症の収束と仕入コストの値下がり期待するしかない。当社もそろそろ倒産の準備に入らなければいけない状態になりつつある。新型コロナウイルス感染症に負けたくない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・円安は変わらないと思うが、値上げが一巡して市場が落ち着いてくる。
		一般レストラン（経営者）	・政府や行政は経済活動との両立を狙っているが、市場はなかなか反応しない。やや良くなると回答したが、希望的観測である（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	・現在、来客数は国内線も国際線も多くなっており、夏休みも多く客の利用が見込まれているが、新型コロナウイルス感染症の急速なリバウンド、国内でサル痘の感染が認められたことから、確実な回復は依然として分からない（東京都）。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大がどうなるかによって大きく変わってくるが、2～3か月後であれば全国旅行支援が開始されていると思うので、プラス材料になる。また、行動制限がなければ、教育旅行を中心に国内旅行が順調に推移する。秋の旅行シーズンにもなるので、やや良くなる（東京都）。
		タクシー運転手	・確実に良くなっている。無線本数、駅での利用、会社からのオーダーも増えてきている。夜は飲み屋からのオーダーはまだ少ないが、駅での利用が良いので、新型コロナウイルスの新規感染者数増加を抑えることができれば良い。
		通信会社（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響が減少し、平常に戻りつつある（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・前月より契約件数は微増が続いている。ただし、前年度に比べると依然として低調である（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・新型コロナウイルスの感染第7波によりブレーキが掛かっているため、4回目のワクチン接種などにより感染状況が落ち着いたら、緩やかに改善する（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・新型コロナウイルスの感染第7波も収束するとみている。
		ゴルフ場（経営者）	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響で、日々新規感染者数が爆発的に増えているので、慎重な行動を求められることになり、自主的な外出自粛が予想される。しかし、過去2年間を見ても、ゴルフ業界は遠方への外出が控えられるのと反比例して伸びてきた業界なので、今回の感染拡大のなかでも、同様の状況になることを想定している。
		パチンコ店（経営者）	・8月上旬にも新型コロナウイルスの感染第7波のピークアウトが予想されるので、その後は経済活動が活発化する。
		その他レジャー施設 [総合]（広報担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大が懸念材料だが、前年も同時期は新規感染者数が余り多くなかったため、同様の状況になれば来場者数の増加が見込める（東京都）。
		その他レジャー施設 [複合文化施設]（財務担当）	・ある時期から新型コロナウイルスの感染第7波が落ち着いてくる（東京都）。
		その他サービス [フィットネスクラブ]（エリア統括）	・新型コロナウイルスの感染第7波がきているが、重症化しないとの認識によるためか、来客数には余り変化はみられない（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・資料請求の件数が増えている。
		商店街（代表者）	・商店街の通行量が少なくなり、販売量が減っていることから、売上がなかなか思うように回復軌道に乗っていないのが現状である。コロナ禍も3年目に入ったので、会社としてはずっと赤字になっている。何となくここで頑張らなければならないと思うのだが、ここにきての急激な感染拡大によってそれが阻まれてしまっており、今後の商売が非常に厳しくなっている。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染第7波がどこでピークアウトするかによるが、人の動きが止まる気配はないので、近場のレジャー、アミューズメント、買物のスイーツスポットである当地域は良い状態をキープするのではないかと（東京都）。
		一般小売店 [家電] （経理担当）	・新型コロナウイルスの感染再拡大の影響で、来客数が少なくなっている。宣伝方法も、インターネットを中心に行わないと、なかなか集客できない。
		一般小売店 [印章] （経営者）	・当店は、アーケードの店舗ではなく、点在型商店街の1店舗であり、当店の商材で集客することは非常に困難である。これからも華々しい景気回復は見込めない。
		一般小売店 [祭用品] （経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減るものの、イベント事業が再開する見込みも不明なので、変わらない。
		一般小売店 [米穀] （経営者）	・社会不安があるので、安定した軌道に乗らない（東京都）。
		一般小売店 [文房具] （経営者）	・新型コロナウイルス感染症の今までの傾向からすると、ピーク後2～3か月で新規感染者数も下降線をたどると思われる。3か月後の秋口には行楽シーズンに入ることや、各種イベントの再開などにより来街者も戻ってくると推測され、当店の売上や来客数もやや回復するのではないかと（東京都）。
		一般小売店 [傘]（店長）	・期待はしているが、不透明感が拭えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	・外商の案件数は結構あるが、単価が下がっており、大体あるような超大型案件が先行きには余り見えていないことが不安である。
		一般小売店〔書店〕 (営業担当)	・例年は、秋学期用の受注と、年末から年度末にかけての受注増加が見込まれるが、今年は為替の影響で縮小する可能性が大いにある(東京都)。
		百貨店(売場主任)	・来客数は横ばいだが、日配品を中心に価格が上昇しており、購買点数に影響がみられる(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・新型コロナウイルスの感染再拡大が続いているなか、客の消費への姿勢も継続してしまうことが予想される。
		百貨店(総務担当)	・コロナ禍、ウクライナ情勢、円安等、景気に影響を与える様々な要因については、どれも具体的な明るい先行きは見えていないが、停滞慣れのなかで、消費に動きが出ている様子が続いている。要因の成り行き次第では、上昇にも下降にも振れる可能性がある(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・新型コロナウイルスの感染状況が今より落ち着く一方で、エネルギーや食料品の価格高騰に加え、円安も続くと思われるため、消費に対してはしばらく慎重な判断になる(東京都)。
		百貨店(広報担当)	・現状の足踏みは新型コロナウイルス新規感染者数の推移によるものである。高付加価値商材への消費意欲は依然として底堅いとみているが、現状の感染第7波のピークアウト時期が正確に読めない以上、先行きは不透明と言わざるを得ない(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・4月から徐々に来客数、販売量、単価が上がり、19年度の実績に近づきつつある。担当は郊外店が多く、新型コロナウイルス感染症の影響は小さいと思われるが、飲食テナントを中心とした取引先がこれまでの新型コロナウイルス感染症の影響から脱却しきれていない状態にあるため、感染第7波の状況次第である(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・政府が新型コロナウイルス感染症対策の考え方を変えない限り、変わらない(東京都)。
		百貨店(経営企画担当)	・新型コロナウイルスの感染状況は8月上旬がピークとなる一方、収束には時間が掛かるとの報道もあり、当面は厳しい状況が続く。インバウンド需要も当面は見込めそうにない。ウクライナ情勢に伴うエネルギー関連のひっ迫、料金値上げなど、明るい情報がなく、前年ほどの影響はないものの、売上は伸び悩むと予想している(東京都)。
		百貨店(企画宣伝担当)	・新型コロナウイルスの感染第7波の状況と物価高の動向は、予断を許さない。
		百貨店(店長)	・今後も様々な値上げが想定されており、日常の必需品を多く扱う当店において、大きく改善する要素は少ない。
		スーパー(経営者)	・新型コロナウイルスの新規感染者数がまた増えてきているが、客はもう買いためはしなくなり、どちらかという買い渋りをしていく。いろいろな物の値上げが続いているので、必要な物以外は買わず、できるだけ安価な物を買う意識が高くなっている。今もそんなに良くないが、この先も良くなる見込みはないので、現状が続く。
		スーパー(店長)	・今後も続くであろう食品の値上げによる販売への影響が憂慮される。
		スーパー(営業担当)	・内食化傾向もなくなってきており、現状からみて、客単価は若干上がってきて、販売量も上がるが、来客数は下がるという傾向はしばらく続くのではないかと(東京都)。
		スーパー(販売担当)	・物価の高止まりとガソリンを始めとするエネルギー価格の上昇により、必要最低限の買物の家庭が増えると同時に、買物頻度の低下も顕著になってきている。
		コンビニ(経営者)	・今年の夏は非常に気温が高く、客がソフトドリンクやアイスを買う回数が増える。
		コンビニ(従業員)	・ここに来て、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきている。世間がどこまで気にしているかにもよるが、少しでも自粛ムードになるようなら、景気の伸びも今一步という感じになる。
		衣料品専門店(役員)	・新型コロナウイルス感染症もそうだが、物価高騰の影響が大きい。衣料品より食費、高熱費が優先される。
		家電量販店(店長)	・必需品の売上は継続するとみている(東京都)。
		家電量販店(店員)	・新型コロナウイルスの感染状況次第だが、直近で回復する兆しが見えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（経営企画担当）	・新型コロナウイルスの感染第7波に対し、「行動制限は実施しない」とする政府の対策の結果次第である。夏休み期間中の感染の波を大きく抑えることができれば好転すると思うが、逆の局面もあり得る。また、エネルギー価格の高騰を抑え込めないと、経済が停滞期に入る可能性もある。今の段階では結論付けられない（東京都）。
		家電量販店（従業員）	・現在の新型コロナウイルスの感染状況を見ると、景気の回復にはまだまだ時間が掛かりそうである。各メーカーの品薄状況はかなり回復しているため、今後を期待したい。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に入っているが、販売は余り芳しくない。車の生産ラインで部品の供給が思うようにいかず、注文しても納車までに半年以上掛かるので、客が新車に買い換えることを敬遠しているようである。
		乗用車販売店（経営者）	・新車販売の売上減少分をサービス部門でカバーしている状態はこれからも続く。
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響が続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症が拡大しており、先行きが見通せない。
		乗用車販売店（渉外担当）	・自動車の生産正常化には時間を要する。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少は現状では見込めない（東京都）。
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・このまま人の流れが抑制されなければ、売上も徐々に増加する可能性はあるものの、現状を見る限り、余り変化はないとみている（東京都）。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・燃料価格の激変緩和措置が9月末で終了予定となっているので、その後の対応次第であり、現段階では全く不明である（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・何度となく襲ってきて、収束の見えない新型コロナウイルス感染症に失望を感じる人も多く、全てが保守的になっている（東京都）。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・変わらないというより、分からない（東京都）。
		高級レストラン（営業担当）	・今回の新型コロナウイルスの感染再拡大で、客の行動がより慎重になっている。個人需要は低空飛行ながら緩やかな回復が期待できるものの、法人関連の需要は非常に厳しい（東京都）。
		高級レストラン（役員）	・現状、政治的には経済を止めない方向に思えるが、今週の新型コロナウイルスの感染急拡大と、8月の夏休みもあり、今後の感染状況により、再度緊急事態宣言などを発せざるを得なくなる可能性も考えられる。それにより景況感も左右される（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・長期にわたる新型コロナウイルス感染症によるダメージは計り知れないが、外食習慣の大きな変化もあり、売上回復には大きなたこ入れが必要である（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・変わらないというより、分からない。新型コロナウイルスの感染状況が客の動きや経済動向に影響し、売上や来客数が変わってくるので、3か月後どうなるかは分からない。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・現状が続くと予想している（東京都）。
		その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・少し良くなると言いたいところではあるが、原材料費や資材価格の上昇、原油高、円安により値上げをせざるを得ない。しかしながら消費は落ち込むばかりで、最低賃金の上昇は経営者としてはかなり厳しい。プラス要因が増えてこない景況感が良くなるという言葉は出にくい（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染第7波の収束がいつになるのかわからない状況のなか、非常に不安定な日々を過ごしている。政府には早急に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類を2類から5類に変えてもらいたい。そうしなければ、法人の利用が全く見通せず、我々サービス業、ホテル業は持たない。法人需要が回復しなければ、都市型ホテルはやっていけない。
		旅行代理店（経営者）	・早く新型コロナウイルス感染症が収束しないと、客もなかなか旅行をする気分になれないようだし、来店客もほぼないのが現状である。そのため、これから先のことは見通せていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・前年に比べ夏休みの予約は戻ってきているが、全国旅行支援の延期、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加により、期待していたほど伸びていない。先の予約が入っても、感染状況次第で今後キャンセルになる可能性もあり、喜んではいられない（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大、サル痘流行の恐れ、物価高、円安等、旅行業界には逆風が吹いているので、2～3か月後の景気については予測不能と言わざるを得ない。
		タクシー運転手	・今月に入って新型コロナウイルスの新規感染者数が大分増えてきている。地元の人も、来月の夏休みが明けた後の新規感染者数増加をかなり警戒しており、慎重な動きをしているように見受けられる。やや気掛かりである。
		タクシー運転手	・飽くまで新型コロナウイルスの新規感染者数の動向による。このまましばらく増え続ければ客の動きがなくなり、やや悪くなるどころかかなり悪くなる。逆に、新規感染者数が急速に減っていけば、また徐々に人が動き出し、経済活動をしていくので、回復して良くなっていく（東京都）。
		タクシー運転手	・今の暑さによる一時的な客の増加が涼しくなるとどうなるかということ、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているが、人々は余り気にしなくなっているのがやや心配でもある。仕事に関しては、車が増えて少し営業しにくくなっている（東京都）。
		タクシー（団体役員）	・新型コロナウイルスの感染状況によるが、はっきり分らない。
		通信会社（経営者）	・現状が続いていく限り、景気は良くはならない（東京都）。
		通信会社（社員）	・他社の通信障害の影響により、引き続き例年よりは良くなる（東京都）。
		通信会社（局長）	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響で気持ちが沈みがちであり、以前のような巣籠りによるインターネットサービスの需要増加は見込めないものの、気分転換でのテレビサービスが伸長する可能性もあるため、プラスとマイナスの両面があり、トータルでは変わらない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・良くなると思える材料がない。
		通信会社（経営企画担当）	・今後も現状が少し続く見込みである（東京都）。
		通信会社（局長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えており、特に状況に変化はない。
		競輪場（職員）	・いまだに回復の兆しが見えない。新型コロナウイルス感染症対策はずっと続くので、インターネットに力を入れるべきだと考えている。
		美容室（経営者）	・早く新型コロナウイルス感染症が終息してほしい。
		その他サービス [ 立体駐車場 ]（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が終息するまでは悪いままである。
		設計事務所（経営者）	・前期と比べると良くなっているが、当社の契約形態は年間契約なので、1つ1つの案件での当社が受けるイメージが、売上などに反映されない。
		設計事務所（経営者）	・当分の間、厳しい状況が続く。今ある仕事を大切にすすめていくつもりである。
		住宅販売会社（経営者）	・現在、新型コロナウイルスの新規感染者数がまた急増しており、ウクライナ情勢も解決していない。今後、4回目のワクチン接種が進捗し、治療薬が普及することに加えて、景気対策も期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・景気が良くなる感じはまるでない。客の来場も非常に少なく、資料請求などの反響も少ない。7月の3連休は大掛かりなキャンペーンを行ったが、来場お礼の景品目当ての客が多く、実際の商談には結び付かなかった。
		その他住宅 [ 住宅資材 ]（営業）	・これから建材の需要期になるが、その一方で、資材高騰の影響で購入意欲の伸びが鈍化する傾向も見えるため、景気良化の実感を得難い（東京都）。
		一般小売店 [ 和菓子 ]（経営者）	・新型コロナウイルス感染症対策としての行動制限は行われていないものの、新規感染者数の増加に加え、9月以降に公共料金や原材料の値上げが予定されているので、まだまだ厳しいのではないかと。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・周囲の状況を見ても良くなる理由が見当たらない。品不足もどこまで改善するか不明であり、一般ユーザーも、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かなければ、よほど困っている物でない限り、購入を先延ばしにするのではないが。
		一般小売店〔酒類〕 (経営者)	・商品価格が今後上昇するため、購買意欲が減少する。
		一般小売店〔茶〕(営業担当)	・新型コロナウイルスの感染第7波に入り、営業が伸びる気配はない。売出しをしても過去のような売上にはならないものの、継続して売出しを行っている(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・8月以降も引き続き食品の値上げが目白押しの状況に加え、円安の影響や原油高による包装資材代、動力燃料費等の高騰が続いており、経費の更なる上昇も想定され、厳しくなると予想している(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・現下の新型コロナウイルスの感染第7波に対し、どのような動きになるかは不透明であるが、新規感染者数が今までにないほど大規模なため、これまでの良い傾向に少し歯止めが掛かると予想する(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・現状は、自粛生活の反動で一時的に回復がみられるものの、物価上昇や新型コロナウイルスの感染再拡大など、不安要素は消えていない(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数増加に伴う外出自粛に加え、春先から続く物価上昇により消費に対する意識は厳しく、しばらくはこの傾向が続く。
		百貨店(財務担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しなければ、今後も更なる景気悪化リスクがある(東京都)。
		スーパー(販売担当)	・輸送コストの増大や原材料の値上げなどで商品単価が上がる傾向がみられる。この先もこの傾向が続くようだと、客が買い控えし、売上も伸びていかない状況になる(東京都)。
		スーパー(経営者)	・現在は販売価格を多少上げたが、この先も仕入価格に準じてかなり高騰しそうである。また、光熱費、配送費なども上がっており、かなり苦しくなっている。
		スーパー(店長)	・消費者には節約志向が依然として根付いており、経済全体の成長も先行きが不透明ななか、このままインフレが続くようであれば、思わしくない状態がまだまだ続く(東京都)。
		スーパー(総務担当)	・秋以降も、食料品にとどまらず住まいの品等々についても値上げが発表されている。また、実質賃金が上がっていないというマスコミ報道も含めて、客の財布のひもが固くなってくのではないかと。行動制限がないなかでは、総合スーパーの来客数もそれほど増える見込みがないため、売上は厳しくなる。
		スーパー(総務担当)	・物価の高騰が止まらない。最低賃金がどのくらい上がるか注目している。
		スーパー(仕入担当)	・原材料高、原材料不足、遅延、人員不足、円安、ウクライナ情勢等、懸念材料が多く、インフレで消費者物価が上昇し、消費はますます冷え込んでいく。
		コンビニ(経営者)	・現在そのまま高温の日々が続くようであれば、来客数の増加は見込めず、夜間、深夜の来客数減少と重なり、厳しい状況が続くようである。
		コンビニ(経営者)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最悪になっており、今後が不安である。
		コンビニ(経営者)	・今は店内商材のまだ数%なのだが、この先どんどん値上がりしていき、そうすると、やはり客が買う物も少なくなるし、節約してお金を使うようになるので、余り良くなるとは思えない。
		コンビニ(経営者)	・光熱費も値上がりしているため、今後は更に厳しくなる。賃金の上昇が議論されているが、中小企業では上げるのは難しいと思われ、今後も景気の上昇は見込めない。
		コンビニ(商品開発担当)	・今より改善する要件は見つからないが、悪化する要件は幾つかそろっている(東京都)。
		衣料品専門店(経営者)	・仕入先の値上げの話が増えている。来店客にも旅行等の心が浮き立つ会話がなく、新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢等の話題ばかりである。
		衣料品専門店(経営者)	・ようやく催事も復活してきていたのだが、ここにきて新型コロナウイルスの感染第7波が急拡大し、客の動きも悪くなってきている。今後の秋の集客イベントも実施してよいのかどうか分からない。もしできなくなると、非常に厳しい状態になる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの感染第7波の収束が見えない。また、物価上昇の継続で消費者心理が生活防衛に傾くことが予想される（東京都）。
		住関連専門店（統括）	・コロナ禍がますますひどくなり、陽性患者も増えていることから、外出自粛をする人が増えているので、販売量も減っていく。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・物価が上がり、今後の仕入価格上昇と、10月から始まる月20時間以上勤務する従業員の社会保険適応により、ますます利益確保が難しくなる。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が収束していれば、3か月後は恐らくかなり景気が良くなっていく。大きなケータリングも少し入っているから、レストランの客も戻ってくる。しかし、現在のまん延から3か月先のことは全然分からない。このままの感染状況が続いていけば、先行きは暗い。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスオミクロン株の別系統が連休明けより急激に感染拡大しており、当店でも既に100名を超える宴会のキャンセルが出ている。このまま感染が拡大するようであれば、しばらくの間は宴会予約が入らず、また以前に逆戻りして厳しい状況になる（東京都）。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・ウクライナ情勢の悪化で各種経費が高騰しており、対応に追われている。当面はこの状態が続くと推測している（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスの新規感染者数がピークアウトし減少傾向となればゲストの利用も徐々に戻ってくるが、一度キャンセルとなった大型案件はリカバーできず時間を要するため、売上の的にも厳しい。先行きが不透明なために見込みが立てられず、人員不足も大きな問題となっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が今後徐々に増えてきて、観光促進のキャンペーン等が始まらない（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増え続ければ、旅行の申込みは減る（東京都）。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスオミクロン株の別系統の発生により、新規感染者数が急拡大しており、経済に影響が出ることが懸念される。景気は良くならない（東京都）。
		通信会社（社員）	・CMの依頼が少し増えてきているが、小規模であり、打ち切られた契約をカバーするほどの注文は期待できない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・食料品などの価格高騰が個人の消費意欲改善の重しになっており、大きな回復はまだ先である。
		通信会社（管理担当）	・現時点で好材料が見つからない。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加が収まらなければ、転居件数が伸び悩み、転居に伴うインターネット、携帯電話等の契約がなかなか伸びなくなる。
		通信会社（営業担当）	・物価高が落ち着いた限り、景気は悪くなっていく（東京都）。
		通信会社（経理担当）	・電気代や食料品等の値上がりや、どのように景気に影響を及ぼすのか様子見である。人によって何であるかは異なるが、何かを買わなくなってくると想定している。
		通信会社（管理担当）	・現状の景気悪化による客の支出抑制に加え、新型コロナウイルスの感染第7波による営業活動への影響が懸念される（東京都）。
		観光名所（職員）	・旅客数が減少傾向にある（東京都）。
		その他レジャー施設〔映画〕（営業担当）	・景気が良くなると思える材料がない（東京都）。
		その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	・半導体及びサプライチェーンの問題が大きく影を落としており、自動車メーカーからの配車の遅れが甚だしい。受注しても、納期がかなり長くなっているから、これが積み重なっていくと、サプライチェーンの改善は更に遅れる（東京都）。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・今後はますます単価が上昇し、売上が減少する。それに伴い景気も悪化していく。
		設計事務所（経営者）	・当事務所の営業展開としては、来客を待つ、若しくは郵便等をもった客のところへ訪問して設計業務を受注するというものだが、新型コロナウイルス感染症の影響でそういう営業が一切できなくなっていることが、悪化の要因である。また、今は新規求人ができなくなっており、求人においても先が見えなくなっているから、困っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（所長）	・新型コロナウイルス感染症の影響や物価、商品供給等に落ち着きを感じられないので、良くなっていくとは思えない（東京都）。
		設計事務所（所長）	・新型コロナウイルスの異常なほどの感染拡大やロシアのウクライナ侵攻など、非常に不安定な社会情勢により、材料費が高騰してしまっている。したがって、計画等が延び延びとなっており、景気はなかなか良くなれないどころか、悪くなるのではないかと。
		設計事務所（職員）	・良くなる傾向はみられない。ロシアのウクライナ侵攻、新型コロナウイルス感染症の影響などによるエネルギー問題、生産性に係る問題が解決してほしい（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・今後も土地や建築費が落ちることは予想できない。加えて、金利上昇の懸念がある。労働賃金が上がり、賃料も上げられないので、新築売りアパートの販売利回りは下がっていく。
		住宅販売会社（総務担当）	・資材調達が正常に戻らない限り、改善は見通せない。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（経営者）	・相談から決まるまでに時間が掛かっており、なかなか仕事が進んでいかないので、先行きはやや厳しくなるのではないかと。
	×	一般小売店〔家具〕（経営者）	・物価が上がり、材料費も上がっている。その上、新型コロナウイルス感染症がまた再拡大し、第7波が猛威を振るっているため、景気が良くなる見通しは立たない。先行きは悪くなる（東京都）。
	×	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・経費の上昇分を値上げすると、客が離れてしまう。
	×	スーパー（ネット宅配担当）	・原油高や円安などの影響による電気やガス料金の高騰が、更に値上げへの拍車を掛けている。値上げについてはいまだに先を見通せないなか、生活防衛意識が高まる。
	×	コンビニ（経営者）	・物価の上昇がもう少し進みそうである（東京都）。
	×	衣料品専門店（店長）	・仕入価格の上昇が続き、販売価格に転嫁させざるを得ないため、買い控えの傾向が顕著に出ている。
	×	衣料品専門店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染が再拡大しつつあることと、光熱費や食品の値上げが本格化するとみられ、それに伴って生活防衛として買い控えなどが見込まれる。
	×	家電量販店（店長）	・物価高で、エネルギーだけでなく食品など様々な物が値上がりしている。例外なく家電製品にも徐々に値上げの波が来ている。所得が上がらないなか、家電に掛ける予算は削減されてしまい、欲しい機能が付いている高付加価値商材から予算内に収まる商材にシフトして、客単価が下落すれば、来客数が減り単価も下がり、売上に大きなマイナスになることが危惧される。
	×	乗用車販売店（店長）	・部品調達が解消しない限り上向きにならない。
	×	乗用車販売店（営業担当）	・良くなると思える情報がない（東京都）。
	×	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・コロナ禍が収束するかどうかによる。
	×	一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増えているのに、何も手を打たず、規制もしない。しかし、皆常識があるので、必要以上の人数で外食をしたり遊びに行ったりはしなくなっている。政府が何らかの手を打ってくれないと、良くなる見込みはない。
	×	一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況により大きく変動があるとみている。この先も家族の会食等の予約は入るものの、会社での集まりなどは全く入っておらず、8月の宴会予約表も空欄が目立つので、このままだと悪くなる一方である（東京都）。
	×	旅行代理店（従業員）	・今後も新型コロナウイルスの感染拡大が続き、そのたびに医療ひっ迫に陥るとすれば、見通しが立たない。
	×	ゴルフ場（経営者）	・スタグフレーションに陥っていると考えられる。
	×	ゴルフ場（従業員）	・猛威を振るう新型コロナウイルス感染症に対して、行動制限が行われていない。8月に入りお盆の帰省の時期を迎え、新規感染者数が更に増えるのではないかと。経済を止めないことが、景気回復につながるとは思えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	ゴルフ場（経理担当）	・7月の集中豪雨によりコース設備の一部に被害があり、復旧に多くの費用と要員を投入せざるを得なくなっている。これに加え、資源、エネルギー、素材価格の高騰により固定費の回収にも苦慮しており、夏季閑散期にあって厳しい損益状況に置かれている。新型コロナウイルスの感染第7波以前の状況を踏まえ、レストランの滞在時間や限定メニューなどの規制を緩和する方向にかじを切ったが、第7波の影響により、規制強化再検討の懸念があり、レストランの収益回復までには相当の距離が残されている。第7波以前に回復傾向にあった企業団体名を冠するコンペにもキャンセルの動きが出始めており、今後も厳しい状況が予想される。
	x	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響がまた広がっており、1か月間休塾する生徒が多くなってきているため、授業料が入ってこないことが多く、良くない。
企業 動向 関連  (南関東)		その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・中小企業からの仕事の依頼が増えてきている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・8月を過ぎれば少し受注量が増加する予定である（東京都）。
		一般機械器具製造業（経営者）	・取引先の仕事量増加の流れはまだ少し続くとの内示がある。ただし、急増した理由が分からないので、どこまでこの流れが続くかは不透明である。
		通信業（経営者）	・IT業界はこれからも盛り上がりしていく（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・新型コロナウイルスのこれまでの感染拡大と一時収束の流れから、3か月後には感染第7波も収束に転じていると予測している（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	・現状が続く（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染再拡大により、秋からのイベントが中止になっている。
		化学工業（従業員）	・原材料、輸送費等の値上げがほぼ出そろい、これから自社製品も値上げの準備に入る。どう考えても良くなるとは思えない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・医療品容器の受注は回復しそうだが、化粧品容器その他の製品に関しては期待できそうもない。さらに、材料値上げの要求が著しく、取引先に転嫁しようにも全く受け入れてくれない。挙げ句の果てに、他社で生産するからと金型を引き上げられた。
		金属製品製造業（経営者）	・新しい得意先を開拓し、企業訪問により自社のPR活動を行い、仕事の確保につなげたい。
		電気機械器具製造業（経営者）	・新型コロナウイルス感染症に半導体不足、ロシアのウクライナ侵攻など、世の中が明るくなるようなニュースがない。我々のビジネスも、人が行っていることなので、当分は明るい兆しが見えない（東京都）。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・半導体の品薄状態が徐々に回復しているのか、電子部品等の大口価格が徐々に低下傾向で戻ってきている。しかし、これは新型コロナウイルス感染症発生前と同様の現象で、事業や景気への影響は大きくない。
		精密機械器具製造業（経営者）	・物価高は止まらず、販売価格への転嫁を求めなければならない。ただし、円安の恩恵で受注量が5～10%上昇しているので、打ち消されていくのではないかと。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・自動車メーカーの海外での部品調達が安定していない主な要因は半導体不足と聞いている。新型コロナウイルス感染症の影響と思われるが、いつになったら正常な状態に戻るのか、見通しが立っていないのが現状である。当面、このままの状態が続くのではないかと。
		その他製造業〔鞆〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響がまだあるので、業界の雰囲気は上向きにならない。
	建設業（従業員）	・新型コロナウイルス感染症とウクライナ情勢が落ち着かない限り、しばらく現状が続く。	
	輸送業（経営者）	・単価の安い仕事しか問合せがない（東京都）。	
	輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷量が低迷しており、輸出量は全くない。今後も現状が続く予想である。	
	通信業（広報担当）	・中小企業のDX推進の機運が高まっており、しばらく増加傾向が続く見込みである（東京都）。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（従業員）	・小売業やサービス業の事業者からは、新型コロナウイルスの新規感染者数急増の影響として、売上減少への懸念よりも、従業員が出勤できず営業に支障を来すことを危惧する声が多く聞かれる。従前から中小企業における人手不足は課題であり、機械化促進などにより業務効率化に取り組む事業者もあるが、急な感染拡大への対応には苦慮しているようである（東京都）。
		不動産業（経営者）	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大に対する政策の大きな変更はないと思われるので、飲食業、不動産業が入居するテナントビルでは、入居率に変動はない。
		不動産業（従業員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の動向次第である（東京都）。
		不動産業（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染第7波が落ち着けば、景気は回復する。ただし、店舗テナントでは、人手不足なので客足が伸びない土日を臨時休業にしたいという店も増えている。この状況は今後2～3か月では変わらない（東京都）。
		広告代理店（経営者）	・当社の事業には円安の影響は少ない（東京都）。
		税理士	・今は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、飲食店の客入りが非常に悪くなっている。今後も新規感染者数が増えていくと、数か月前の状態に再び戻りそうである。燃料高などもあるが、新型コロナウイルス感染症の影響で景気は冷えていくのではないかと（東京都）。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
		税理士	・新型コロナウイルスの感染第7波が落ち着き、また経済を回す機会が訪れるのを待つしかないと思われるが、一定数がり患することで集団免疫を得られ、通常に戻る日を待ちたい。
		経営コンサルタント	・特定の製造業については増産体制だが、自動車関係や半導体絡みの企業は厳しい（東京都）。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・全体的に取扱量は回復基調にあるが、資材等の値上げもあるため、当社を取り巻く環境は変わらないものと予想される。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・しばらくは現状のままで推移していく。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・来客数が少なくなっている。また、古くからの得意先企業からの注文や品物についての問合せなどの電話も少なくなっている（東京都）。
		化学工業（総務担当）	・原材料費の高騰が続き、価格に転嫁せざるを得ないが、安価な品への置き換えが心配である。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・せっかく新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたのに、また広がり始めている。ピークアウトするまでは、しばらく全体的に景気は悪くなるのではないかと。
		金属製品製造業（経営者）	・エネルギー価格の高騰で仕入価格が上がるなかで、実力の伴わない最低賃金上昇などがあり、景気が上向くとは考えにくい。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大による来客数の減少、先行き不透明感が影響する（東京都）。
		建設業（経営者）	・案件の情報が少なくなり、あっても相見積りになり、価格競争になっている。
		建設業（営業担当）	・資材価格の高騰が落ち着かず、納期が未定の商材も多数あるため、今後も現状より悪くなる。
		輸送業（経営者）	・輸送量の低迷が続くなかでの新型コロナウイルスの感染再拡大は、戻りかけた景気の足を引っ張るものと思われ、経営環境は厳しさを増すのではないかと危惧している（東京都）。
		輸送業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第だが、急激に良くなるとは考えにくい。当社の客の業界である飲食や旅行業界も少し明るい兆しが見えていたが、今は日々キャンセルが入り、売上が落ちてきている。当面の見通しは暗い（東京都）。
		金融業（従業員）	・依然として新型コロナウイルスの新規感染者数の減少傾向は全くみられず、おのずと経済も鈍化している。
		金融業（従業員）	・賃金が上がらない状況が続いている。また、仕入原価の高騰により粗利幅がとれず、攻めの経営判断がしにくくなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（総務担当）	・あらゆる物の値上げが続き、ここに来て新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、せっかく膨らんできた景気も一気に萎んでしまう。燃料価格の高騰や最低賃金アップ、人手不足や外食控えの傾向から先行きが見通せず、景気は下向きになる（東京都）。
		不動産業（経営者）	・新型コロナウイルス感染症に対して、政府による行動制限が行われないので、各自で感染しないように工夫することが大切である。夏休みに入り、お盆を迎える。新規感染者数がこれ以上増えないことを願うばかりである（東京都）。
		経営コンサルタント	・新型コロナウイルス感染症が収束しても、物価高の影響は増大する。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・既存契約の値上げがペンディングになっているなか、原価の人員費は上がっている（東京都）。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い人出が減れば、世の中全体の消費が落ち込むが、一過性のことである（東京都）。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・新型コロナウイルス感染症が再拡大している。
	×	出版・印刷・同関連産業（所長）	・今後値上げが更に加速する流れと聞いているので、うかつに見積りを提出することすら難しく、先が読めない状況が続く。
	×	建設業（経営者）	・業種及び地域によると思うが、当地域においては需要に対して供給が満たされていない。これからも上がっていかないのではないかと思うので、全体的には悪くなる。
	×	建設業（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響による先行き不安に加え、原材料価格の高騰、国の方向性の曖昧さがある。
	×	広告代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加している。また、取引先の従業員の離職率が悪化している（東京都）。
×	広告代理店（営業担当）	・ここに至る新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に加え、海外からの資源調達遅れや、大規模イベントが一部中止になるなど、ネガティブ要素が多くなっている（東京都）。	
雇用 関連 (南関東)		-	-
		人材派遣会社（社員）	・引き続き人材不足感から、全体として需要が多い状態を維持するが、今後は業界ごとのはっきりとした浮き沈みにより分かれていく（東京都）。
		人材派遣会社（経理担当）	・現在のままの推移が見込めるのであれば、引き続き派遣市場において求人、求職者、派遣稼働者数は増加する。ただし、この数週間で新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しており、それがどこまで影響するか不明なため、不安定要素となる可能性も考えられる（東京都）。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・新型コロナウイルスの感染第7波やサル痘などの感染拡大がなければ、景気は良くなるのではないかと（東京都）。
		学校〔大学〕（就職担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は増加しているが、経済を止めない工夫もしている（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・人材不足の状況が続くことが見込まれる。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス感染症対策による行動制限などが緩和されたとしても、給与水準が上がらないため、景気も変わらない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・特に大きなオーダーはなく、現状維持と予測している。新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、関連オーダーの動きはなさそうである。
		人材派遣会社（支店長）	・企業からの派遣、人材紹介依頼数は増えているが、これまで採用を控えていた一時的な反動と捉えている。長期的には雇用調整のしやすい派遣依頼は堅調に推移するものの、人材紹介の依頼数は足踏みするとみている（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・EVを始めまだ開発テーマは多く、当面ニーズが減る様子はない（東京都）。
	人材派遣会社（営業担当）	・1か月前までは良くなると思っていたが、新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、様子見の状態だと感じている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌制作会社（営業）	・先行きが見通せない。全国旅行支援などの施策も延期され、新型コロナウイルス感染症の影響で旅行のキャンセルが5割以上になるかもしれないとの報道もある。感染第7波が消費者のマインドを下げていて、景気が良くなるような話題がない。前々年や前年に比べれば、今年は近所の祭りや花火大会が開催される模様であり、少しずつふだんの日常を取り戻しつつある。
		新聞社 [ 求人広告 ]（担当者）	・これ以上悪くならないことを願うばかりである。
		職業安定所（職員）	・有効求人数は前月比で4%減少しているが、前年比では7.9%増加しており、7か月連続して前年同月を上回っている。新規求職者数が前年比21.9%と大きく増加したので、有効求人倍率が0.08ポイント低下している。
		民間職業紹介機関（経営者）	・企業は人数調整を前提に採用枠に余裕を持たせており、決して好調とはいえない（東京都）。
		民間職業紹介機関（経営者）	・しばらくは現状が続く（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・夏の旅行シーズンに入ったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、人材依頼がストップする可能性がある（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・求人数の鈍化に引きずられて、長期派遣の就業開始数も減少してきている。急激な悪化はないものの、年計表のトレンドも100%になるなど、厳しくなっている（東京都）。
		求人情報誌制作会社（経営者）	・変わらぬ円安や株価低迷、ロシアのウクライナ侵攻の影響による原材料費の高騰と、ここまでの新型コロナウイルスの感染再拡大と、良くなる兆しが全く見えない。せめて、税負担の軽減や生活水準の下支えなど、分かりやすい施策や対策を講じないと、庶民の消費行動や生活安定への行動に結び付かないのではないかと（東京都）。
		職業安定所（職員）	・物価上昇と爆発的な新型コロナウイルスの新規感染者数増加の影響により、先が見えない状態、若しくは悪い状態になる。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大が止まらない状況に加え、更に感染力を増した新型コロナウイルスオミクロン株の別系統が新たに出現しており、新規感染者数が爆発的に増加する懸念がある。物価上昇が続いている状況下では、再び人流抑制による経済活動の縮小を余儀なくされる可能性が高い。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスオミクロン株の別系統による新規新規感染者数の急激な増加がマイナス要因となっている。また、原材料高が製造業、卸売、小売業の業績悪化に強く作用しており、長期的に景気悪化の懸念が強い（東京都）。
	×	求人情報誌制作会社（所長）	・更に悪くなると予測した理由は、夏休み中の行動の影響が大きく、新型コロナウイルスの感染拡大が起きると予測しているからである。

## 5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (甲信越)		高級レストラン（経営者）	・政府の対応は、ウイルスコロナで経済を回していく、となっているため、ふだんの生活に戻りつつあると思われる。
		その他サービス [ 葬祭業 ]（経営者）	・一人暮らしの老人が亡くなっても、大きな葬儀にはなかなかないが、その後の遺品整理や場合によっては住宅の処分、墓じまい、永代供養簿等の利用など、実はいろいろとやらなければならないことが控えている。これが段々と分かってきて、最近は様々な業者の参入が増えてきている。あれもこれもと、できるのかということが出てくるので、まだ伸びる余地はある。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス感染症に関しては、外出制限などの措置がなければ、今後、来客数は増えてくるのではないかと。暑さもあいまって、今より客が増える。
		スナック（経営者）	・子供の新型コロナウイルスのワクチン接種がもっと進んでいけば、それほど感染を気にしなくても良かったのではないかと感じるので、子供のワクチン接種が進めば、割と早く収まってくるのではないかと。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型旅館（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大第7波が落ち着いたところで、全国旅行支援やGo To Travelキャンペーンの再開を予想している。そうなれば、秋は例年どおりの客の入込がある。
		遊園地（職員）	・引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されるが、感染対策を徹底し、万全な受入体制を整えるとともに、積極的に集客施策の実施や情報の発信を行うことで、多くの客の来園を期待する。
		設計事務所（職員）	・大きい計画依頼も増えてきており、これから忙しくなりそうである。
		商店街（代表者）	・回復する要件が見当たらない。
		商店街（代表者）	・スポーツ用品はファッションとは違うので、景気が良くなったからといって、一気に売れる物でもなく、必要に応じて買う物である。客の買物の様子を見てみると、余分には買わないという感じである。今後全ての商材が値上げになるので、どうなるかは少し先にならないと分からない。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数に一喜一憂しており、これからのウィズコロナも経済を回しながらの感染症対策であるため、大きな期待は持てなくなっている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・秋にかけて自治体のプレミアム付商品券の発売予定があり、省エネ家電のポイント還元等の施策も出ているが、これでどの程度の需要や商材の動きがあるのかは、不透明感がある。新型コロナウイルス感染症の影響で、今まで娯楽等に使っていたお金の、使えなかった分の動きが気になるところである。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・客の消費意欲が、もう少し続きそうな予感がする。
		一般小売店〔薬〕（経営者）	・物価が少し上がってきている。また、新型コロナウイルスの感染拡大もみられ、現状は安定しているが、先行きは見通せない。
		百貨店（営業担当）	・エネルギーを始めとして、特に、食品関係の値上げがここしばらく続いているが、決して買わないわけではない。吟味しながら買うことになるので、売上のさほど影響はなく、変わらない。
		百貨店（店長）	・現状の新型コロナウイルスの感染拡大下においては、未来を見通すのは非常に難しい。新規陽性者が増えても催事等は通常どおり実施するようになってきている。ただし、地方百貨店は新型コロナウイルス感染症の発生前のような売上に戻る勢いはない。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大第7波が収束に向かわないと、イベントも行われぬ。新型コロナウイルス感染症の報道を風邪程度の扱いにしてもらいたい。
		コンビニ（経営者）	・今は人の動きが活発になっており、今年の夏は暑さが続いて前年よりは売上が伸びているように思う。この先は、いろいろな物の値段が上がって、売上は今一つになるとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・毎週、食品や日用品の値上げが発生している。給料は毎週上がっているわけではないので、消費者の負担が増加しているが、すぐに生活水準が下がるわけではないので、変わらない。気づいたときには悪くなっているかもしれない。
		コンビニ（店長）	・ほぼ全ての商材が値上げになっており、今月の余り良くない状況が、そのまま続いていく。
		衣料品専門店（経営者）	・変わらないというより、分からない。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの感染拡大第7波の影響が、今後出てくる。
		乗用車販売店（経営者）	・新車生産の急激な回復は期待できず、しばらくはバックオーダーを順番に解消していく動きが続く。新型コロナウイルスの感染拡大の影響も懸念される。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大の第7波がどの程度で収まるかによって影響は出てくるが、大きな変化はないのではないかと。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スナック（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が少し落ち着いて、やっと客が戻ってきた感じがあったが、新規感染者数がまた増えてきて、来客が一気に減ってしまっている。特に、早い時間帯は多少は客が入るが、遅い時間になると全く人が動かない状況が続いている。この先、新型コロナウイルスの感染状況がどうなるか見通せない状態が、また訪れてしまっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・再び新型コロナウイルス感染症がまん延してきてはいるものの、実際の客の動きはそれほど変わらないので、現状維持になる。
		旅行代理店（副支店長）	・新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、それ以上に物価や燃油価格の高騰、為替状況等の負の要因が大いにある。旅行需要をみると、コロナ禍での感染拡大、減少を繰り返しながら、平常時の状態に回復していくのではないかとかなりなだらかな回復状況となるが、他に大きな外的要因が発生しない限り、景気はこのままの状態が続く。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染状況次第で、世間が騒ぎになれば、また、少しずつ落ちてくる。ただし、今までのように大きく落ちることはないと思う。
		通信会社（社員）	・祭りやイベント等が流動的なため、現状では起爆剤がない状況である。特別に、活発になる材料もない。
		観光名所（職員）	・せっかく来客数は増えてきていたが、新型コロナウイルスの感染拡大の第7波が始まり、予約の伸びが止まってしまっている。
		ゴルフ場（経営者）	・新型コロナウイルス感染症に対する警戒が解け、普通の暮らしに戻らない限り、安全に楽しめるゴルフ場へのニーズは高止まりするのではないかと。
		住宅販売会社（経営者）	・前年に比べて別荘の販売数が減少傾向にあり、減収が確実な状況にある。また、電気代やガソリン等の価格高騰により収益が圧迫されている。
		百貨店（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大第7波の影響は、先行き不透明なため、余り良くならないのではないかと。
		スーパー（経営者）	・値上げや光熱費の上昇で、家計が持ちこたえられるかどうか心配である。
		コンビニ（経営者）	・いろいろな商材で値上がりがあり、どの客も割と価格の安そうな商材を探す傾向にある。味も追及するがやはり価格に対して非常に敏感になってきており、つくづく厳しいと感じている。
		自動車備品販売店（従業員）	・今月に入り、新型コロナウイルスの新規感染が急拡大しており、それに伴う納車遅れや物価上昇による再値上げが懸念材料となり、来客数の減少が予想される。
		その他専門店〔酒〕（店長）	・2～3か月後、特に10月の値上げが取引先メーカーから告知されている。高価格帯の商材から始めて、中価格帯が値上がりし、いよいよ今度は一番低価格帯のボリュームゾーンが値上がりする。皆の給料が上がれば良いが、可処分所得が増えない状況だと、非常に厳しい状況が今年中は続くのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染再拡大の影響は拭えない。以前からみれば、まだ多少は動きがあるものの、物価の高騰とあいまって、飲食業はかなり厳しい状況である。
		ゴルフ場（経営者）	・猛暑が続いており、予約が低調である。平日はシニア層の比率が高いゴルフ場のため、予約状況は厳しい。県内でも新型コロナウイルスの感染率が高くなり、プレー中のマスク着用が多くなっている。
		その他サービス〔クリーニング〕（経営者）	・現在、全く先が見えないので、困っている。
		設計事務所（経営者）	・建設資材の値上がりで、今後も工事案件の取りやめや延期が増える見込みである。
	×	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の問題よりも、早く物価高が解決しなければ、売上の増える見込みはない。
	×	スナック（経営者）	・毎回同じような話になるが、大国と言われる日本だが、今の世界情勢では資源がない国なので、どうしようもない。今年いっぱいはず駄目ではないかと考えている。何か良い方法があったら教えてほしい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	都市型ホテル(スタッフ)	・分からないという言葉が一番しっくりくる状況である。新型コロナウイルスの新規感染者数や関連報道で、どのような企画や補助制度があろうが、利用者数は減少する。また、逆の状況であれば、利用者数は増加する。こうした状況で、原材料費、燃料費の高騰は大きなマイナス要因であり、生産数を価格高騰分増加できず、販売単価アップも追い付かないほどの上昇なので、結局はコストを吸収できずに悪化が見込まれる。
	x	都市型ホテル(スタッフ)	・7月の結果は全体的に良かったが、27日に当市から、祭りの一部イベント中止と花火の延期発表があった。それと同時に、一般宴会と宿泊にキャンセルが出ている。この先は見通しが付かない状態になっている。
	x	その他レジャー施設 [ボウリング場](経営者)	・これだけ急に新型コロナウイルスの新規感染者数が増えると、客足にも当然影響が出てくる。戻りつつあった団体予約もキャンセルになってしまっている。いつになったら平時に戻るのかと思うが、もう戻らないのではないかと思うときもある。
企業 動向 関連  (甲信越)		金属製品製造業(総務担当)	・半導体需要が多く、好調である。
		電気機械器具製造業(営業担当)	・部品の供給不足が続いており、生産量に影響が出ている。
		食料品製造業(総務担当)	・新型コロナウイルスの感染拡大第7波の影響が、どのくらい景気に影響するのか不透明である。
		窯業・土石製品製造業(経営者)	・当地でも新型コロナウイルスの感染警戒レベルが上がっており、外に出ることへの警戒感もみられる。展開している夏休み向けのワークショップも、予想が立たず先行きか不安である。受注策の1つとして、オンラインでの企業マッチングを始めており、期待感を持っている。
		電気機械器具製造業(経営者)	・円安による調達コスト増加分の販売価格への転嫁が遅れている。また、価格転嫁後の販売量減少も懸念される。
		電気機械器具製造業(経営者)	・電子部品や資材関係の流通にムラがあり、良くなったり悪くなったりを繰り返しているため、先行きは分からない。
		建設業(経営者)	・新型コロナウイルス感染症への対策に効果が出るまでは、もう少し時間が掛かる。
		金融業(経営企画担当)	・新型コロナウイルスの感染拡大第7波の影響による行動制限次第と思っているが、これまでの感染の波の状況や現時点での政府の方針を勘案すると、状況は変わらず横ばいではないか。
		新聞販売店[広告](総務担当)	・世界情勢に変化の気配がなく、現在の傾向はしばらく続くと考えられる。社内でも知恵を絞って、売上確保や経費削減に努めていくつもりである。
		出版・印刷・同関連産業(営業担当)	・コロナ禍で、現状は新規感染者数が増えてきているため、イベント等は中止となっており、先行きがやや心配な状況である。
		その他製造業[宝石・貴金属](経営者)	・在庫が減っていることから、商材を作りたいと思っても、金、ダイヤモンドの高騰だけでなく、海外へ買い付けに行けない影響で、材料物の貴石も良い物がなくなっている。この先も、商材作りがスムーズにいかない余波で、需要が回復してきても、売れる物が無い状況に陥るとみている。
		金融業(調査担当)	・製造業は、原材料価格上昇の影響のほか、受注面では業種間格差が広がってきており、部品不足や調達難の影響が継続する見込みである。新型コロナウイルスの感染再拡大で、持ち直してきた観光関連に影響が出る可能性は高い。
		x	食料品製造業(製造担当)
	x	出版・印刷・同関連産業(経営者)	・毎月の資金繰りが大変である。
雇用 関連  (甲信越)		*	*
		-	-
		人材派遣会社(営業担当)	・新型コロナウイルス感染症に対する個人の意識が変わらなければ、何も進展はしない。
		民間職業紹介機関(経営者)	・求人をけん引する製造業において、目先の採用活動は旺盛だが、正社員の採用は慎重で、派遣や有期契約社員へのシフト採用が一段と進んでいる。国内で製造して海外に販売する一部の企業は円安効果で業績拡大中だが、原材料価格の高騰がマイナス要因になっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染拡大第7波が急速で、この先はちょっと見通しが立てられない。
		職業安定所（職員）	・ウクライナ情勢や原材料不足、円安の影響に加えて、新型コロナウイルス感染拡大第7波による感染状況の悪化で、景気への影響が懸念される。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染拡大や物価高騰による雇用への影響が懸念される。
	x	-	-

## 6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (東海)		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波は、8月上旬でピークアウトすると見込む。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に伸びている現状では、やはり来客数が少ないためどうしても販売量につながらない。新規感染者数が下げ止まれば、今よりは上向くと判断する。
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・一進一退であり、2歩進んでは1歩戻る。
		一般小売店〔和菓子〕 (企画担当)	・新型コロナウイルスの感染拡大リスクはあるが、多少回復基調になると考える。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば戻るの繰り返しである。
		百貨店（業績管理担当）	・最も新型コロナウイルス感染が拡大している今が底だと考えている。1～2か月で落ち着けば、再び売上は戻ってくると思っている。
		スーパー（経営者）	・3か月先には新型コロナウイルスの感染状況ももう少し改善していると見込む。
		スーパー（販売担当）	・秋に改装する予定で、客の要望を調査する。調査結果に基づいた売場づくりを考えるため、今よりも売れる。
		コンビニ（本部管理担当）	・新型コロナウイルス感染症が再流行するなか行動制限が発出されるか否かが重要なポイントである。行動制限が発出されなければ、良い意味で足元の状況が継続する。
		家電量販店（店員）	・テレビの新製品が出そろった頃にまた見に来るといった客が結構いるため、盛り上がるのではないかと。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の生産が少し正常に戻るとの見通しがある。また、各社新型車を出しており、市場全体の盛り上がりにも期待している。
		乗用車販売店（経営者）	・今後は新型車の発売もあり、秋口には改善してくる。
		住関連専門店（営業担当）	・住宅、商業施設等中小規模の改修工事の見積りや引き合いがある。新築工事についても、これまで保留になっていた現場が具体的に動き始めている。
		その他専門店〔貴金属〕 (経営者)	・物価高騰による一般消費の冷え込みは変わらないが、新型コロナウイルス新規感染者数の減少を期待する。人流が活性化されれば、多少なりとも景気や売上は今より良くなる。
		高級レストラン（経営企画）	・新型コロナウイルス新規感染者数のピークアウトを期待し、政府の経済活性化策、個々の店舗、企業の広告や販促活動が年末へ向けて加速すると思われる。一方、大人数の宴会等は引き続き控えられる傾向と予想し、各社、各店で新たな集客に取り組んでいく。
		その他飲食〔仕出し〕 (経営者)	・どんな状況でも前を向いていくしかない雰囲気醸成されつつある。
	観光型ホテル（経営者）	・2～3か月先の9月には新型コロナウイルス感染拡大の第7波もピークアウトするため、今よりは良くなると思う。予測を超えるような感染拡大があれば別であるが、一般的には今よりはやや良くなるのが妥当である。	
	都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が収束に向かい、回復することを期待している。	
	都市型ホテル（総支配人）	・人々は行動を起こしたがっているため、新型コロナウイルスの感染状況が早い段階で落ち着けば、ある程度は良くなると思う。ただし、食事付きの宴会は当面見込めず厳しい。行動制限がないのは人が動いて有り難いが、足元のように感染が広がると、企業や個人は自ら行動制限をする。このため、時短協力金がない今の方が厳しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（経営者）	・夏の商戦に入ったところで新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきた。2～3か月先には新型コロナウイルスの感染状況が収束に向かい、また、新薬ができれば少し景気が良くなる。
		ゴルフ場（支配人）	・2か月先の9月の入場者予約数は好調である。前年の同月がやや低迷していたこともあるが、それ以上に入場者予約数は、前年同日比で大きく上回っている。
		その他レジャー施設 〔鉄道会社〕（職員）	・新型コロナウイルス新規感染者数の今後の増減に左右されるが、経済への意識が高まりそうな動向である。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスオミクロン株B.A.5の感染が拡大しており、これが収束していけばよいが全く先が読めない。これからお盆にかけて人の移動が増えるとますます新規感染者数が増えて医療ひっ迫といわれているため、段々と消費マインドや外出も控えられるのではないかと心配している。
		商店街（代表者）	・我が国でも欧米のようにウィズコロナが浸透しない限り、経済状態の回復はない。飲み薬の普及、隔離の時間的制約等の条件、報道の在り方等が改善されない限り、まだまだ厳しい状況が続く。
		一般小売店〔結納品〕 （経営者）	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波がそう簡単に収まるとは思えない。このまま悪い状態が続く。
		一般小売店〔酒類〕 （経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少に転じても、家庭内感染と濃厚接触者の外出控えの生活リズムが続く。10月には酒類の値上がりもあり、外食の機会は少なくとも忘年会・新年会の時期まで回復しないと考える。
		一般小売店〔生花〕 （経営者）	・物価の上昇はまだしばらくは続くともみられ、今より良くなる材料はない。
		一般小売店〔贈答品〕 （経営者）	・3か月先もコロナ禍の状況が収まるような感がまだ持てない。今後計画される結婚式やイベントもどちらかといえば自粛ムードのなかで行われるため、今の売上や来客数から余り変わらないと考える。
		一般小売店〔果物〕 （店員）	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店〔生活用品〕 （販売担当）	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波や物価高など良くない話題ばかりで、今後景気が上向くような期待をさせる要素がない。
		百貨店（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染状況により従業員の出勤が難しくなる売場も出てくると見込む。売上への影響や高齢者の外出自粛などの要請も考えられ、客足も鈍くなることが想定される。引き続き、需要旺盛な時計などの売上増加に期待したい。
		百貨店（企画担当）	・海外の事例等に鑑みると、数か月後には新型コロナウイルスの感染状況はピークを過ぎ、来客数は戻っている可能性は高い。反面、燃料や原材料の価格高騰などによる物価高や円安が景気を引き下げる要素になる。
		百貨店（営業担当）	・しばらくは新型コロナウイルスの感染状況に左右される状態が続くと予想され、新型コロナウイルス変異株の出現も継続する。
		百貨店（計画担当）	・コロナ禍による行動制限は出ていないが、客の行動には影響が出ることが分かった。今後も新型コロナウイルス新規感染者数の増減があるため、今までと変わらない推移となる。一方、円安や物価高の影響は今のところ大きくはない。
		スーパー（店長）	・電気代や物の値上げが続くなか、まだまだ買い控えは続きそうである。
		スーパー（総務）	・平日、土日の来客状況は変わっていない。来客数は若干少ないが、1人当たりの買上金額は良くなっている。しばらくはこの状態が続くと予想する。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大が続くと、サラリーマンなどの来客数は減少すると想定するが、行楽客は政府の規制がない限りは、一定数の来客数が継続して見込めると考える。
		コンビニ（店長）	・多くの消費者は、明らかにぜいたくができない状況に見受けられる。当店については、競合店からの客の流入が見込める間は維持できる。
		コンビニ（店長）	・来客数はどうしても新型コロナウイルスの感染状況に左右されるため、今の状況では、大幅に減らなくても大幅に増えることもあり得ない。したがって、景気もほぼ現状のままで推移する。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（商品企画担当）	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波のピークアウトとともに人流が復活すると予測しているが、第8波となる更なる感染拡大や値上げの影響により、購買行動は思ったほど伸びないと推測する。
		コンビニ（店員）	・まだまだ暑い日が続くと思われるため、冷たい物が売れる。
		衣料品専門店（店長）	・地域経済の循環は復調しているが、物価上昇による節約志向の強まりにより横ばいとなる。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・夏物も振るわなかったが、同業者の話では秋冬の仕込みも専ら厳しく、回復の兆しがみえない。
		衣料品専門店（売場担当）	・これからは特に暑くなるため、クールビズもあり重衣料は減少する。新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきたため来客数も少なくなり、リモートワークになるとスーツは不要となる。その代わり半袖ワイシャツだけやパンツだけの購入などは、また増えてくるかもしれないと期待している。
		衣料品専門店（売場担当）	・政府や日本銀行に特段の景気回復策があるようには見受けられない。また、景気回復策を講じたとしても、その影響を多くの消費者が受けられるわけではない。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波で一気に新規感染者数が増加し一時的に消費は落ちると思われるが、新規感染者数が減少すれば、すぐに戻るのではないかと。
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況や物価高の影響等、先が読みにくい状況がしばらく続くため何ともいえない。
		乗用車販売店（経営者）	・変わる要素がない。
		乗用車販売店（従業員）	・特に具体的に悪い様子ではないため、変わらずに推移するか若干良くなる程度である。
		乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルス感染症のまん延により、来客数も減り始めている。物価の上昇で自動車に係る金を節約する傾向が更に強くみられるようになってきた。サービス工場への入庫も前年比9割ほどに減ってきており、この状況のまましばらく続く。
		乗用車販売店（従業員）	・客が物価上昇を身の回りで強く感じると口にする機会が大変増えている。電気・ガス・燃料価格等、生活に直結する商品の価格上昇がこれからも続くかもしれないという心配から、車のような買物は、必要に迫られなければなかなか考えられないという断りが多い。
		乗用車販売店（営業担当）	・商品の供給量はまた増えてくる気配はなく、輸入業者から年内はこのまま平行状態が続くといわれている。受注は徐々に増えてきたが、物が入らなければ売上にならない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・売上は前年比マイナス10.9%、2019年比マイナス22.2%である。来客数は前年比マイナス6.4%、2019年比マイナス24.6%である。
		一般レストラン（経営者）	・客は、外出したくてたまらない様子である。感染症法での新型コロナウイルスの位置付けがインフルエンザ並みになれば、客の外出頻度も高まる。
		バー（経営者）	・全く予想が付かない。政府の見解と医療従事者やそれぞれの業界の考えがみ合っていない。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・今年4月に続いて10月にも値上げを実施する。4月の値上げについては、販売数は減少したものの売上金額は100%超えとなった。10月の値上げによりほぼ全ての商品が値上げとなるが、販売数の減少は避けられず、消費意欲は減退すると予想している。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から、変わらない。
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症のまん延により、風評的な部分で負のイメージが付きやすい。需要回復には時間を要すると見込む。
		旅行代理店（経営者）	・ターミナル駅の地下街や新築商業ビルにおいても、退店後に新たな店が決まらず空き店舗区画が長期化している。にぎわいが戻ってきたといっても実需消費は下がっているのは、空き店舗の減らないことが物語っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最多と毎日のようにニュースで報道しても、若者には届いていない。行動制限の効果も薄れているため、ウィズコロナになれば、全国旅行支援がなくても健康で感染を気にしない人は旅行をする。海外旅行の門をもう少し開いてほしい。入国制限は一部の国だけでも撤廃し、ワクチン3回接種で帰国前のPCR検査は免除してほしい。
		旅行代理店（営業担当）	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波が2～3か月で収まるとは考えにくく、行動制限は実施されなくても、しばらく動きは鈍くなると考える。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加傾向が続いているが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などが出ていないため、今のところ夜の街では酒の提供もできている。来客数はやや少なくなっているが、今の状況であれば、景気はこのまま余り変わらない。
		通信会社（企画担当）	・好転材料が見つからない。新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者が家に足止めされて、社会の動きが鈍くなっている。
		通信会社（サービス担当）	・先日の携帯電話会社の回線トラブルによって、固定電話の良さを見直している高齢者も多く、固定電話の契約が増えるかもしれない。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が収まってきても、2～3か月で半導体や機器の流通が通常程度に戻るとは考えにくい。2～3か月では変わらないと考える。
		通信会社（営業担当）	・今の状況が当面は続くと考えている。
		テーマパーク（職員）	・子供の新型コロナウイルス新規感染者数が増えているため、ファミリー客が多い夏休みに影響が出る。
		テーマパーク職員（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染者がなくなることは考えられず、特効薬もすぐに開発・承認される状況ではない。
		その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	・景気を悪くしている要因が、すぐに解決する問題ではない。
		美容室（経営者）	・なかなか明るいニュースがない。また、全体的に物価高で、客は外出、イベントやレジャーを控えるため、まだ当分は今の状態が続く。
		美容室（経営者）	・2～4か月先というともまだまだ暑く、新型コロナウイルスの感染状況も落ち着かないと、客の出足も悪いままである。
		住宅販売会社（従業員）	・横ばい若しくは悪化する。
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・元請の受注状況が芳しくなく、2～3か月先も受注が少なそうである。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・再び新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増加しており、宣言等は出ていないが予想の付かない状況である。商品単価も上がり受注が難しいことにも困っている。
		商店街（代表者）	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が増え続けるならば、間違いなく悪くなる。
		商店街（代表者）	・商品価格、材料価格の値上がりが著しく、特に商品価格に関しては客の予算とのかい離が大きい。今後は、良い物を長く使う流れになればよいが、これまでのデフレ状態から意識的に脱却するのは難しい。
		一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	・新型コロナウイルスの感染状況次第である。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	・円安の影響が残る。
		百貨店（売場主任）	・3月の春物商材入荷時期には海外工場の閉鎖で納期が延び、靴の納入が遅れた。これから秋物新作の時期になるが、それもまた厳しい納期になりそうである。国内生産でも生産量が少なめなのか在庫がない物が多いため、他店の在庫を回してもらって対応しているが、なかなか紳士靴の売上は厳しい。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルス第7波の感染拡大が今後景気に影響を及ぼして、悪化するのではないかと考える。
		百貨店（販売担当）	・猛暑で季節商材が動いている。来客数は今までのような急激な下降はないが、やはり減っている。
		百貨店（販売担当）	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波は終息する気配がなく、落ち着いたとしても、2～3か月前のように前向きな状況にはならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・商品値上げによる買上点数減少と来客数減少で、売上の減少傾向が継続している。
		スーパー（店員）	・担当する商材分野では、秋口以降も値上げが予定されている物が多くある。
		スーパー（営業企画）	・燃料費の高騰はまだしばらく続くことが予想されるなか、今後も商品価格の引上げは、より広範の商品に及ぶと考えられる。そのため、消費支出を抑える傾向が更に強まることが懸念される。
		スーパー（販売担当）	・現在は夏休みで、子供と一緒に買物に来て余分な物を買うこともあるが、休みが終わると来客数も減り、売上も減る。
		スーパー（販売担当）	・商品供給の不安や、新型コロナウイルスオミクロン株の別系統の流行から更なる別系統が出る可能性も否定できず、国際関係の改善の遅れもこれから影響しそうで、明るい展望を描きづらい状況が続くようである。
		スーパー（支店長）	・新型コロナウイルスが再び感染拡大し始めたことと食料品の値上げラッシュにより、消費マインドがかなり減少している。さらに、ウクライナ情勢も未解決のまま、今後もしばらくは景気回復の兆しはない。消費の優先順位としては、生活必需品が1番で、趣味、嗜好品やぜいたく品は今後かなり売行きが鈍化するのではないかと。
		コンビニ（エリア担当）	・今以上に値上げ商品が増えてくるため、購買意欲の冷え込みが心配である。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数の最多更新が続いており、政府による自粛要請は出なくとも、企業によるテレワーク推奨や出張の自粛により客が減るおそれがある。学生は夏休みで移動をしており、一部地域では祭りなどを実施もされているため動きが読みづらいが、お盆の頃は自粛ムードになりそうである。
		コンビニ（商品開発担当）	・新型コロナウイルス感染症の影響で部品調達がままならず工場が操業停止となり、大手自動車メーカー関連を始めとする多くのメイン客の給与に悪影響を及ぼしている。客単価は下落傾向にある。物価上昇の流れは今後も続くことが予想され、非常に厳しい環境が見込まれる。
		家電量販店（営業担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加に伴い、今後、行動制限が発出され景気が再度悪くなるのではないかと。
		乗用車販売店（従業員）	・納期もますます延びていく一方で、ますます来客数は減少していく。新車を発表してもいつから生産されるかも分からず、客に納期を伝えることもできず、展示車も入ってこない。
		乗用車販売店（販売担当）	・元々半導体不足の影響で在庫がかなり少ない上に、生産数もかなり減っており、今後車の販売数はかなり減少する。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス第7波の感染状況が余りにもひどく、これでは景気は上向くどころか、また冷え込む。ウクライナ情勢も、経済的に影響している。
		一般レストラン（経営者）	・秋にかけても今のように原材料の価格高騰による消費の低迷と新型コロナウイルス感染症の新規感染者数の増加が、事業に影響する。
		一般レストラン（従業員）	・物価の上昇もあり、消費は控える。
		観光型ホテル（支配人）	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波が到来している。
		都市型ホテル（営業担当）	・先々の予約も低迷中である。6月までと比べると予約受注も3分の1程度に低迷している状況であるため、先々も厳しいことが予想される。
		旅行代理店（経営者）	・県民割終了後の旅行業界への政策が不透明である。
		旅行代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスオミクロン株B.A.5が発生し感染力が3倍と報道されると、旅行どころではなく申し込みは急減する。稼ぎ時の夏休み、お盆期間の旅行は期待できず、ピークアウトがみえてこないとなれば全国旅行支援やGo Toキャンペーンなどは始まらないため、良い見通しが持てない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		レジャーランド（職員）	・7月末時点では新型コロナウイルス感染拡大の第7波でも行動制限は求められていないため、過去2年ほどの落ち込みはないと見込んでいるが、これまで感染拡大のたびに強烈的な行動制限が求められてきたこともあり、行動制限のない状況でも行動を自粛する人が一定数いる。残念ながら第7波が落ち着くまでは、新型コロナウイルス感染症発生前に比して6～7割程度の水準になると予測している。
		テーマパーク（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かないと難しい。
		観光名所（案内係）	・新型コロナウイルス感染症がこれからどうなるか、全く明確ではない。政府の今後の方針などを速やかにはっきりさせてほしい。
		パチンコ店（経営者）	・コロナ禍になって以来、来客数や売上は停滞したままで業界全体もほぼ同じである。
		理美容室（経営者）	・客との話から、いろいろな物価が上がって段々と景気が悪くなっていく。
		美顔美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増え続けているため、来店を控える客がいる。
		美容室（経営者）	・やはり新型コロナウイルスオミクロン株BA.5の影響である。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・商品の調達先からは、9～10月に10～20%アップする価格改定の案内が届いている。介護保険制度でサービス価格の上限が設定されているため価格転嫁はできず、単純に考えると秋以降は減益である。
		設計事務所（職員）	・景気の良くなる刺激策のような話は、政府からは何も聞こえてこない。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増え続けており、不必要な外出は減ると考える。販売は更に厳しくなる。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・人件費、燃料、資材の全てが上がり、経営を圧迫している。この先まだまだ高騰が続くのではないかと心配である。
	×	百貨店（経理担当）	・食品、ガソリンや生活用品に及ぶ物価高の継続と、企業業績の悪化に伴う所得や雇用環境の悪化があいまって、個人消費の縮減を招き、景気が失速すると考える。
	×	スーパー（店員）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていたこの半年間がうそのように新規感染者数が過去最多を更新し、外食控えが目立つようになってきた。飲食店の購買も減り、お盆商戦を迎えるが心理的に手土産を持って実家に帰省する動きも鈍り、果物の売上が大きく減少しそうである。
	×	コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの第7波の感染拡大と仕入価格の上昇の影響で売上が伸びない。地域イベント、会議の中止が相次いでおり、更に厳しくなると予想される。
	×	コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス感染症の影響がどのようになっていくかは全く予想が付かない。今後がとても心配である。
	×	衣料品専門店（経営者）	・なじみ客の年齢層が高いため、ますます来店頻度が低くなる。
	×	乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染が拡大しているなかでお盆休みが近づいてきている。旅行などへの制限は掛からないようなので、間違いなく新型コロナウイルスの新規感染者数が増えて、景気は一旦また非常に悪くなる。
	×	一般レストラン（従業員）	・毎日夕方に新型コロナウイルスの新規感染者数が発表されるが、行動制限を掛けないならば、この発表をやめてほしい。新規感染者数が増えるたびに、客足が遠のく。
	×	タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波の影響である。
	×	設計事務所（経営者）	・景気が上向きになる気配が一切ない。
	×	住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響が続いているため、広告を出しても客の動きが悪く、今一つである。
	×	住宅販売会社（従業員）	・資材高騰に金利が上昇したら、更に冷え込む。
企業動向関連 (東海)		-	-
		化学工業（営業担当）	・客先への値上げ実施がある程度完了する予定である。
		化学工業（総務秘書）	・新型コロナウイルスの感染は爆発的に拡大しているが、症状は重くないという人が多い。感染することが珍しくなくなっていき、感染しても大丈夫という認識が広がれば、欧米のように生活や経済を維持する意識に変化していくのではないかと。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経営者）	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波と客先業界が全体的に低迷していることもあり、設備投資への意欲はかなり低くなってきているが、年末にかけてはある程度高まってくると考えられるため、若干の期待は持っている。
		通信業（総務担当）	・新型コロナウイルスは第7波の感染拡大状況ではあるが、新型コロナウイルス感染症への対応策を皆認識できているため、恐怖心もなく感染症対策をしながら更に人の動きが活発になると予測する。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・物価も落ち着き原油価格も下がってくると見込む。日本銀行のゼロ金利政策は正しいと考える。我が国には多くのストックがあり、慌てないことである。今は上に向かっていくエネルギーがどんどん蓄積している時期であり、今しばらくの辛抱である。
		食料品製造業（営業担当）	・今後も受注量、販売数量において回復する要因が見当たらない。新型コロナウイルスの感染状況次第では、更に数量が落ち込む懸念が大である。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・現在の景気は余り良くないが、2～3か月先の景気も今の悪い状態が続く。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・同業他社の規模縮小や廃業のため、代替先を探していると見受けられる見積依頼が増えている。ただし、これらは今まで低価格等条件の良い案件が多いため、見積りを提出しても成約しにくく、期待は持てない。
		金属製品製造業（経営者）	・原材料価格の高止まりに加えて、電気料金なども大幅に上昇する予定である。
		金属製品製造業（従業員）	・仕事量を期待する声がある反面、収益面での厳しさは変わらない。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・引き合いの量は増えているが、部材が入らず納期が長くなっているため、納期で折り合えず受注できない案件も増えている。物流費用も高騰しており、受注できても利益を圧迫している。
		一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売量は変わらない見込みである。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・大きな変化は考えにくい。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・ウクライナ情勢など地政学的リスクが増すなか先行きが不安である。大規模な金融緩和や消費税率の大幅引下げなど、我が国独自の経済政策がない限り、浮上しない。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・ここ数年で工場内の請負エリアがどんどん減少している。一時はここが底かと思っていたが更にまた減ってきたため、しばらく景気が悪い状態が続く。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・大手自動車メーカーの減産は半導体不足が原因であるが、このような状態が当面は続く。したがって、売上也現状程度で推移する。
		建設業（経営者）	・現内閣もようやく落ち着いてきたようであるが、まだまだはっきりした将来性がみえてこない。ウクライナ情勢も不安で、安定するところまではいかないのではないか。
		建設業（営業担当）	・徐々に仕事は出てきているが、新型コロナウイルス感染症がまた流行しており、再び行動規制が掛かるとどうなるのか。
		輸送業（経営者）	・物流会社も荷主もコスト上昇を価格に反映せざるを得ない状況だが、消費者に物価上昇に見合う賃上げがない限り、景気は良くならない。一時的にでも新型コロナウイルスの感染状況が収まれば短期間の特需はあるかもしれないが、物流会社にとっては大きな変動は有り難くない。
		輸送業（従業員）	・新型コロナウイルス感染症の影響度合いは、大方予想の範囲であるため、各企業とも例年並みの動きになると予想する。
		輸送業（エリア担当）	・国際情勢が安定しておらず、国際航空貨物も影響を受けるため、予測が難しい。
		輸送業（エリア担当）	・新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢の問題もあるなかで、社会全体が内に向かってじっと耐えているような状況である。世界的にもそうだが、政治は打開策を見いだせておらず、良くなるきっかけの兆しも見いだせない。
		通信業（法人営業担当）	・公的年金の約10兆円の黒字、法人税、所得税の67兆円の増収など明るい材料はあるが、庶民の懐を直撃する諸物価の上昇は、景気にはマイナスに作用する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（従業員）	・お盆や夏休みで、通常であれば需要が拡大すると考えられるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、帰省を抑える等の動きがある。
		金融業（企画担当）	・企業業績が給与にも影響しており、給与が上がる見込みが薄い。株価も上がらない状況では個人消費の拡大につながらず、当面現在の景気が続く。
		広告代理店（制作担当）	・秋口に向けて、イベントを縮小しながらも行う予定の客が増えており、景気も横ばいになる。
		行政書士	・ドライバー不足のため運輸支局に一時休業届を出し、ドライバーのめどがみついたら再開届を出すという業者がいる。
		会計事務所（職員）	・ゴールデンウィーク辺りは旅行へ行こうという気になり、実際に行ってきた。しかし、新型コロナウイルスの感染が急拡大して、また少し自粛しようという気になってきている。新規感染者数がピークアウトするまでは、このままではないか。
		食料品製造業（経営企画担当）	・明るい材料が見付けにくい。
		電気機械器具製造業（経営者）	・原材料で4割の値上げ、運賃・梱包等の資材で2割近い値上げが進んでいる。価格転嫁をして値上がりした製品が、今後も継続的に消費されることは難しい。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	・生産動向が減産方向であるのに加え、いろいろな物の価格上昇で不安しかない。
		建設業（役員）	・物価上昇や新型コロナウイルスの感染拡大などで客のマインドが下がっている。上向きになる要因がないため、更に厳しくなるのではないかと。当地域では、大手自動車メーカー系企業の工場ラインの停止や残業が減っているため動きが悪いとの噂もある。
		輸送業（従業員）	・過去に取引があったが現在は疎遠の荷主や協力会社などで、廃業の話すら聞かぬ。中国の動向を含むコロナ禍とウクライナ情勢は当分収束しそうにない。今後、身近なところでも悪い話が出てきそうで心配である。
		輸送業（エリア担当）	・荷物全体の動きが減ってきている。ECのみ微増だが、一般貨物が減少している。
		金融業（従業員）	・個人的にも心配しているが、今の新型コロナウイルス新規感染者数の増え方では、やはりこの先に営業時間短縮など経済が面食らうような制限が掛かってくることを飲食店などでは警戒している。また、その結果景気が低迷すると予測する人が多い。
		不動産業（経営者）	・今後は新型コロナウイルスの新規感染者数が増加する傾向が続くと見込まれ、外出や遠出をする人の減少傾向は当面継続すると考える。今後、売上は徐々に減少していき前年を下回る状況になっていくと予測している。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・まん延防止等重点措置が解除されてからも折込広告は増加しなかった。今後は、新型コロナウイルスの感染再拡大やインフレなどで折込広告が減少する見込みしかない。
		公認会計士	・海外の状況に鑑みると、まだ円安が続き国際情勢の安定化も見通せず、物価上昇が続く。また、新型コロナウイルスやサル痘などの感染症がまん延していることから、海外からの渡航者や海外への輸出についても制限が掛かることが予想される。国内についても、安定しない為替相場への危機感や金利上昇を考え、積極的な設備投資を見合わせる企業が多いとみられる。個人消費についても、少しずつは戻ってくるが、上記のような状況が落ち着き消費拡大につながるが見通せない以上、景気が上向きになるのはまだ先と考える。
		会計事務所（職員）	・円安による物価上昇等の影響もあってか、案件の単価が下がってきている。また、新型コロナウイルス感染拡大の第7波の影響で以前に増して小規模案件が増え、更に単価が下がることが懸念され、景気は悪くなっていく。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・海外からの部品など輸入時期が未定で、生産・販売に対する計画が立たず機会損失が増える。
	×	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が収束せず、物価は上がり給料は上がらないと悪いことばかりで景気が上向きに兆しが全くみえない。したがって、景気はもっと悪くなる。
	×	鉄鋼業（経営者）	・鉄鋼メーカーの現状の販売姿勢が続く限り、我々のような規模の事業者には景況が回復する見込みはない。
雇用		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (東海)		人材派遣会社(営業担当)	・2~3か月後は半期の契約更新時期に当たるため、主要客における派遣募集の件数も増えてくる見込みである。
		学校[専門学校](就職担当)	・新型コロナウイルス感染症の影響で採用控えが顕著だった前年までの反動か、看護系学生の採用内定が前年より早い。前年は秋頃に確定していたところが、一部の来月以降の採用試験受験者を除き、現時点で全員が内定している。
		人材派遣会社(経営企画)	・特に変化の兆しはない。
		人材派遣会社(企画統括)	・新型コロナウイルス感染症の第7波による感染急拡大と物価上昇が与える影響が不透明である。
		人材派遣会社(営業担当)	・緩やかではあるが求人数は増加傾向にあるが、求職者数が横ばいのため、人材不足感が否めない。
		人材派遣会社(営業担当)	・有効求人倍率は上がり続けているが、求職者の動きが次第に活発化されるのではないかと考える。
		アウトソーシング企業(エリア担当)	・海外からの部品供給・半導体不足が8月以降も改善されず自動車関連の生産停止が行われれば、人材供給を行う派遣会社は雇用調整助成金で雇用を維持できるが、派遣労働者は残業が見込めなくなり、不満により他業種へ転職されると、派遣会社も人材不足となり経営が厳しくなる。
		新聞社[求人広告](営業担当)	・企業は新型コロナウイルス新規感染者数の増減に以前ほどは敏感ではないが、戦争と円安で企業活動が不自由な状態が続いており、厳しいまま変わらない。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルスの感染拡大が過去の状況を上回るペースであることから、今まで以上に良くなるかは懐疑的である。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルスの第7波の感染拡大、原材料・エネルギー価格の高騰や部品不足などの懸念事項がまだ払拭されていない。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルス感染症の影響が心配である。
		職業安定所(職員)	・有効求人倍率の好転は見込めない。
		民間職業紹介機関(営業担当)	・若干ではあるが、新規採用をする企業の増加に歯止めが掛かりつつある。業界動向や外的環境の変化などもあるなかで、今後も募集案件が持続的に増加するか注視する必要がある。
		民間職業紹介機関(窓口担当)	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波でも求人数には変動はないが、求職者が慎重になりつつあり、マッチングが難しい状況が今後も懸念される。
		人材派遣業(営業担当)	・原油価格の高騰が止まらず、中小企業への影響はより大きくなると想定される。
		人材派遣会社(社員)	・新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着かない。
		人材派遣会社(営業担当)	・このまま所得は増えないまま、徐々に物価上昇だけが続きそうである。
		新聞社[求人広告](営業担当)	・生活用品などの値上げが進み、消費の動きはますます鈍くなる。
		職業安定所(職員)	・新規求人数は増加傾向にあるが、有効求人数は緩く右肩下がりである。半導体不足を懸念する企業も多く、ここに来て新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大が進むなか、先行きが見通せない状態である。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルスの感染拡大により第7波が到来していることに加え、ウクライナ情勢や円安の進行による物価の上昇が続くと考えられることから、景気の先行きは現状よりやや厳しくなる。
	x	-	-

## 7. 北陸(地域別調査機関:一般財団法人北陸経済研究所)

(-:回答が存在しない、\*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)		一般レストラン(統括)	・過去2年の傾向と同じく、9月で新型コロナウイルスによる感染が一旦落ち着き、10~12月は新規感染者数が右肩上がりになると見込んでいる。
		都市型ホテル(役員)	・急速な新型コロナウイルスの感染拡大による予約キャンセルを懸念していたが、キャンセルはあるものの、直前での新規予約が増加しており、夏休みシーズンに向けて宿泊需要は底堅く推移するとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の爆発的な増加がなければ、良い方向に向かうとみている。しかし、過去最高の新規感染者数が続いており、夏休みに向かって感染状況が落ち着くかどうかは景気回復の決め手になると考える。
		コンビニ（店舗管理）	・新型コロナウイルス感染症のまん延による購買行動への悪影響は、少しずつではあるが鈍化していると考ええる。
		家電量販店（店長）	・今月は天候の影響があり来客数は少なかったが、物価上昇をきっかけにした買換えは増加している。
		高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルス新規感染者数の推移がこれまでと同様であれば、8月中旬に新規感染者数のピークを迎え、2～3か月後には改善に向かうとみられるため、来客数の回復を見込んでいる。
		観光型旅館（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、秋以降の全国旅行支援策に期待したい。
		通信会社（営業担当）	・新商品のスマートフォン発売開始に伴い、需要が増加すると見込んでいる。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波は9月頃にはピークアウトして、消費行動が再び活発になってくるとみている。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・外食が回復していることで、ぜいたく品である肉の店頭での売上が減少する動きは、前月から変化していない。加えて、旅行ができるようになり、ギフトを実際に持って行けるようになったため、ギフト配送用の需要が余り良くない。
		百貨店（売場主任）	・相次ぐ値上げによる物価高の影響や、新型コロナウイルスの新規感染者数急増で、消費に対する慎重な行動は変わらないとみている。
		百貨店（販売促進担当）	・物価高や新型コロナウイルスの感染拡大が、アパレルを中心にマイナスの影響になると考えているが、外客者を中心とした富裕層における時計やブランド品などの高額品の購入が引き続き好調に推移し、アパレルのマイナスをカバーするとみている。
		百貨店（販売担当）	・当面は新型コロナウイルス感染症による影響のため、夏休みや秋の外出需要の伸長は期待できず、カジュアル衣料品は秋も苦戦を見込んでいる。一方で結婚式や葬儀がほぼ通常に戻りつつあり、リモートワークや出張停止の影響でこの数年購入が減少していた礼服やスーツ、シャツ、靴などのビジネス関連は、低価格商品に限定されると考えるが、やや回復すると見込んでいる。プラスとマイナスの両面がありしばらくは現状維持と考える。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染症の影響、円安、値上げなど、先の見通しが全く立たない。
		スーパー（統括）	・新型コロナウイルスの感染再拡大はあるが行動制限には至っておらず、為替やエネルギー価格にも当面は大きな変化がないと考える。
		家電量販店（本部）	・商品価格の上昇や新型コロナウイルス変異株の影響もあり、景気が上向くのはまだ先になるとみている。
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響で依然として個人の行動が控えられている状況下では、販売量を増やすことはしばらく困難だと考える。
		住関連専門店（役員）	・各企業の動きから分かるが、3月後半から家具や家電業界の動きが鈍化している。経済不安や原材料価格の高騰に伴う値上げにより、生活用品や食品の価格変更が家計を圧迫する大きな要因となっている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・今後も新型コロナウイルスの感染状況に左右される状態が続くとみている。また、高騰している原材料価格の販売価格への転嫁なども考えられ、消費者の節約志向が一層強まることによる日常消費の低迷が懸念材料である。
		スナック（経営者）	・前月同様、混とんとした状態で全く先が見えない。ただし、良い方向に向かうとは考えられない。
		観光型旅館（スタッフ）	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大による予約減少に対し、県民割が8月末まで延長され、7月からは市独自の支援策も開始されている。これらの利用による予約の増加を期待している。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況がどうなるか次第で、先行きは全く見通せない状況である。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の第7波に入って、新規感染者数の状況や4回目のワクチン接種者数の増加が、どのように人出に影響するか不明である。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・ボーナス時期を迎え多少の動きはあるが、大きな変化へつなげる要因が見当たらない。
		通信会社（役員）	・放送、通信サービス共に契約者数は、前年同月と比べると同程度で推移するとみている。
		通信会社（役員）	・半導体不足が続くことに加え、ロシアのウクライナへの軍事侵攻や円安傾向の収束がみえてこないことから、状況は変わらないと考える。
		競輪場（職員）	・新型コロナウイルスの感染再拡大により、この先どのように推移するのか不明である。
		一般小売店〔事務用品〕（店長）	・最近、新型コロナウイルス感染症が再びまん延し始めていることや、不安定な世界情勢による様々なジャンルでの値上げなどにより、各家庭での買い控えがますます増えると考えられる。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・新型コロナウイルス感染症の影響によって、宴会や会合等での注文増加の見込みがない。また、物価高による消費の落ち込みを懸念している。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・8月以降も商品の値上がりは続くため、まだ落ち込むのではないかと考える。
		スーパー（仕入担当）	・現在は客単価を維持できているが、今後は競合店との価格競争が過熱し、来客数についての対策が必須になるのではないかと懸念している。
		コンビニ（エリア担当）	・コロナ禍や物価高の影響で、やや悪くなると見込んでいる。
		衣料品専門店（経営者）	・物価の上昇傾向が、今後も続いていくと考える。
		衣料品専門店（経営者）	・夏休みやお盆もあるが、しばらくは新型コロナウイルス感染症の影響が続くと考える。
		家電量販店（店長）	・メーカーによる商品価格の値上げが続き、購入まで至らないケースが続きそうである。
		乗用車販売店（役員）	・物価の上昇や新型コロナウイルス感染症の拡大に加え、所得がなかなか増えず、改善の見通しが立たないことから、やや悪くなるとみている。
		自動車備品販売店（役員）	・政府の抜本的な対策がないと、長引く物価高で今後も消費の低迷が続き、更なる景気後退が起こるのではないかと考える。
		一般レストラン（店長）	・新型コロナウイルス感染症の急拡大により、戻りつつあった客足が一気に減少した。感染のピークがみえないため不安である。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の第7波による感染拡大が続くと考える。
		通信会社（職員）	・物価上昇が影響すると考える。
		テーマパーク（役員）	・現状の感染状況が続き、全国旅行支援の開始もずれ込むと、現状より更に悪化すると考える。
		パチンコ店（経理）	・物価高に加え、新型コロナウイルス感染症の第7波で経済活動が低下するとみている。
		その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	・スタッフ本人や家族が新型コロナウイルスに感染することで、勤務スケジュールの調整が困難になっている。代替スタッフの確保が難しい状況が非常に多くなっており、これが続けばプログラムの変更や休講にせざるを得ず、客離れが心配である。入会者は減少し、休会も更に増加している。
		住宅販売会社（従業員）	・短期間に住宅価格が2割以上上昇しており、駆け込み受注は減少している。金利が上昇する可能性があり、今後受注する戸数は徐々に減少し、売上も減少すると見込んでいる。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの感染再拡大で、客の様子にも変化が現れると考える。
	×	商店街（代表者）	・8月には新型コロナウイルス感染のピークが過ぎるといわれているが、過ぎた後に明るい未来が待っているとはとても思えない。何か手を打たないと、物価高と新型コロナウイルス感染症によるダブルパンチの影響が、徐々に深刻さを増してくると考える。
	×	商店街（代表者）	・過去のデータから考えると感染状況が落ち着くのは11月から翌年1月初旬で、この間にどれだけの売上を確保できるかが勝負である。しかし、飲食を伴う秋のイベントは今年も延期されることになった。例年3月末からの学生の卒業旅行シーズンは購入単価が低いため、難しい状況になると考える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	スーパー（店舗管理）	・値上げの継続による購買意欲の低下が、買い控えにつながると考える。
	x	コンビニ（店長）	・7月はようやく新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いて売上が回復したと安心していましたが、7月の最終週の状態をみて危機感を募らせている。新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最大になり、行動自粛の要請がなくても自主的に外出自粛をしていると思われるほど来客数が減少し、特に週末は先週比で1割以上減少している。この状況は確実に8月の売上に影響すると考える。
	x	衣料品専門店（経営者）	・高齢者ほど警戒心が強まり、人の動きに制限が掛かると考える。
	x	乗用車販売店（従業員）	・納期の長期化や半導体及び部品不足など、良くなっていくとは考えられない状況である。
	x	その他専門店〔酒〕（経営者）	・現在は行動制限が全くなく、都会でも地方でも新型コロナウイルスの新規感染者数が増加している。このような状態で景気が良くなるとは思えない。景気がこのまま低迷していくとは考えにくい、商品の値上がりもあり、ますます悪くなるのではないかと非常に懸念している。
	x	住宅販売会社（従業員）	・部材価格の上昇から製品価格が高くなり、販売が困難になっている。商品の販売価格や利益率にも影響が出てきている。
	x	住宅販売会社（営業）	・住宅業界において景気が良くなる要素は一切なく、国による景気対策がなければインフレによる物価上昇で、客足が遠のくことは必定である。
企業 動向 関連  (北陸)	-	-	-
		化学工業（総務担当）	・受注量は今後増加していく予定である。
		精密機械器具製造業（財務担当）	・受注の勢いは前月より弱まっているが、数か月前と比較すると増加傾向にある。
		税理士（所長）	・事業者にとって一番のネックは資材の調達に滞っていたことである。まだ十分ではないが、調達力のある会社は生産が軌道に乗ってきている。いろいろな波があるにしても、全般としては流通関係も流れが良くなっていくとみており、価格転嫁がスムーズにいくかどうかが一番重要だと考える。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・ウクライナ情勢の長期化による食料品や日用品などの相次ぐ値上げに加え、新型コロナウイルスの感染再拡大の動きも見られ、当面、個人消費は本格的に回復しないと考える。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・オートバイ関係の受注は引き続き好調のまま推移しているが、自動車関係はメーカーの生産回復が半導体不足の影響で遅れていることから、受注が低調なまま推移している。この傾向は当面変わらないとみている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・今後の受注も好調に推移すると感じているが、原材料費や人件費の高騰がネックとなる可能性もあり、確実に良くなるとは言い難い。
		建設業（経営者）	・工事受注は例年並みに上向くとみている。しかし、ロシアによるウクライナ軍事侵攻の影響から、アスファルト合材の材料や燃料価格が高騰し、それが販売価格に転嫁されることで工事原価が上昇するため、設計価格の見直しまでの数か月間は採算が悪くなると思う。
		建設業（役員）	・原材料価格の動向が依然として不透明なことに加え、資材の確保にもまだ相当期間を要するなど、不安材料が多くなっている。
		通信業（営業）	・新型コロナウイルスの新規感染者数がこのまま増加し続ければ、消費も低迷し景気は後退すると考える。しかし、以前のような冷え込み方はしないとみており、現状レベルで推移するものとする。
		金融業（融資担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しており、観光業や飲食業に影響が出始めている。また、原材料価格や燃料価格の高騰が企業収益を押し下げているが、価格転嫁が進まない企業も多く、当面厳しい状況が続くとみている。
		不動産業（経営者）	・同業者からは活発に動いているという話は聞かず、法人客、個人客共に問合せがかなり減少している。
	食料品製造業（経営企画）	・多少の増減はあっても売上は比較的安定して推移すると考えるが、原材料や包装資材などのコストアップにどこまで耐えられるかが大きな課題となっている。	
	繊維工業（総括）	・ウクライナ情勢や円安により、原材料価格の高騰が長期化する懸念がある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・ 2～3か月先の受注状況から、やや悪くなると考える。
		輸送業（管理会計担当）	・ 第7波による新型コロナウイルスの感染拡大や燃料費の高騰、競争激化など、先行きのマイナス要素が多いと考える。
		金融業（融資担当）	・ 新型コロナウイルス感染症の第7波による感染拡大で、先行きの不透明さが増している。原料などの経費上昇の問題もあり、価格転嫁ができない場合には企業にとって更に厳しい状況になるとみている。
		司法書士	・ 契約済みの事案が終わり、今後は資材不足や、燃料費などの価格高騰の影響が出るという話を聞いている。
	x	-	-
雇用 関連 (北陸)		人材派遣会社（役員）	・ ロシアによるウクライナ侵攻や中国でのロックダウンによる影響が落ち着いてきたのか、派遣先企業から減産による契約解除や休業要請が減少している。
		職業安定所（職員）	・ 求人数は前年と比べ増加が続いており、特に製造業や宿泊、サービス業の求人数が増加している。
		民間職業紹介機関（経営者）	・ 新型コロナウイルス感染症が第7波に入り新規感染者数が増加しているが、飲食や観光などでは客が徐々に戻ってきている。そのため消費の増加につながり、景気が良くなると見込んでいる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・ 大きな雇用を考える企業が出てくる気配がみられない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ 食料品やガソリンなど、生活必需品の物価高がなかなか解消されず、厳しい状況が続いている。自動車通勤が多い地域でもあり、生活が楽になるという見通しはなかなか立たないと考える。
		職業安定所（職員）	・ 一定の業種では円安が続くことで輸出の好調が続くと考えられるため、求人数が多い状況は継続するとみている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・ 求人数については、状況が変わる要素や気配が見受けられない。
		人材派遣会社（社員）	・ 新型コロナウイルス感染症の第7波による影響が大きいいため、一旦は上向きになりかけた新規求人数及び求職者数が停滞、若しくは減少へと変化するのではないかと考える。
		職業安定所（職員）	・ 新型コロナウイルスの感染再拡大により、人の流れが更に悪くなると考える。
	x	-	-

## 8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)		高級レストラン（企画）	・ 新型コロナウイルスの感染第7波の収束後は、旅行需要の回復のほか、国や自治体による観光促進施策の再開で、来客数の増加が予想される。
		一般レストラン（経営者）	・ 今までの新型コロナウイルスの感染拡大周期からすると、2～3か月先にはある程度落ち着くと予想している。新型コロナウイルス向けの飲み薬が開発されない限り、しばらくは今のような状況を繰り返すことになる。
		百貨店（外商担当）	・ 新型コロナウイルスの感染第7波の影響は大きく、来客数の減少につながりそうであるが、富裕層の消費は微減にとどまりそうである。
		百貨店（マネージャー）	・ 新型コロナウイルスの感染第7波や、原料価格の上昇などの懸念材料はあるが、消費の機会自体は増えている。人流を止めない限り、やや良くなると予想される。ただし、節約行動と自粛からの解放行動による二極化のなかで、今後はコストパフォーマンスが重視される。
		百貨店（販促担当）	・ まだまだコロナ禍次第であることは、今月の動向で身に染みて感じる。一方、濃厚接触者に係る規制緩和や、経口薬の開発などへの期待を前提とすれば、秋口からクリスマスにかけて生活を楽しむ傾向が強まると予想される。旅行や帰省、外出を楽しむ動きが消費にも好影響を及ぼし、イエナカ需要にもプチゼいたくの傾向が強まることを期待している。
		百貨店（販売推進担当）	・ メーカーの体制も持ち直しつつあるため、供給面は改善する。新型コロナウイルス感染症についても、感染症法上の2類相当が妥当かどうかの議論も始まっており、アフターコロナの需要喚起策に期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（特選品担当）	・円安が続いていることもあり、インバウンド客の増加が引き続き期待される。また、高額品の動きにも同様に期待が高まる。
		百貨店（営業推進担当）	・新型コロナウイルスの感染の収束や、旅行や観光の回復によって来街者が増える。
		百貨店（マネージャー）	・現状、来客数や売上は底の状態であるが、新型コロナウイルスの感染第7波のピークアウトや、高齢者による4回目のワクチン接種のほか、暑さも秋口に入って和らぐことで、自然と回復に向かう。
		百貨店（服飾品担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているが、小売店の営業停止につながる状況ではなく、しばらくは今の好調が維持できそうである。今後は、外国人観光客の入国制限が徐々に緩和されるとともに、アジア以外の客の来店増加が予想される。また、2025年に控えた大阪・関西万博の概要も徐々にはっきりしてきたことから、関西に寄せられる期待も高まるため、順調に回復が進むと予想される。
		百貨店（店長）	・前年の推移を当てはめれば、9月頃から新型コロナウイルスの新規感染者数が減少に向かう。医療体制が維持できれば、社会全体としては動きを継続する必要がある。
		スーパー（店員）	・商品の値上げが続くなか、常連客は安さを求めて来店するわけではないため、客単価の上昇が予想され、売上も少しは伸びる。
		スーパー（企画担当）	・行動制限のない夏休みやお盆を迎えるが、新型コロナウイルスの感染第7波が収まらなければ、自主的な行動制限によって、客の行動に変化が出てくる。以前のようなまとめ買いや備蓄はないが、需要の増加は確実にみられる。
		コンビニ（経営者）	・2～3か月先にはコロナ禍も少し収まっていると予想される。企業の出勤社員数や近隣ホテルへの宿泊者数も平常時に近づくと予想され、来客数の増加につながることを期待される。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの感染第7波では、当府は独自の対策を採っているが、周囲からはそこまで状況が悪いという声は聞こえてこない。
		家電量販店（人事担当）	・戻り梅雨が終われば、本格的な夏の暑さとなり、エアコンなどの季節商品の売行きも良くなる。また、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えていることもあり、旅行などに使う予定の予算が、家電に回ってくると期待している。
		高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染第7波も、9月頃には落ち着くと予想している。
		一般レストラン（経理担当）	・当地域は観光地であるため、季節要因や天候、台風の発生などにも影響される。
		都市型ホテル（客室担当）	・Go To Travelの再開が待ち遠しいが、府民割や県民割を利用した旅行需要は見込まれる。コロナ禍への対策を講じることで、行動制限なしのウィズコロナ政策へと流れが変わると予想される。
		旅行代理店（役員）	・全国旅行支援の実施に期待するしかない。
		遊園地（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増えた今週から、明らかに客足が鈍くなっている。行動制限もなく、前週末の3連休までは順調に推移していたが、ここまで感染が急拡大すると、さすがに外出の機運も失われたように感じる。新規感染者数がピークアウトすれば、客の動きも戻り始めると予想している。
		ゴルフ場（支配人）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加により、直前の来場者数は減少しているが、2～3か月先の予約状況を考慮すると、今月よりもやや良くなる。
		美容室（店員）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響も落ち着き、カットやパーマの客が増える。
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増減に一喜一憂しているが、外食の回数が確実に減少している。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・猛暑の影響は和らぐものの、新型コロナウイルスの感染拡大による影響が見通せず、景気の回復には至らない。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・物価の上昇や新型コロナウイルスの感染拡大もあるため、今後が良くなるのか悪くなるのかは、予想が付かない。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	・新型コロナウイルスの感染が収束しなければ、ぜいたく品の呉服は売れない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルスの感染拡大による不安要素もあるが、むしろ物価の高騰による買い控えの方が懸念は大きい。所得の増加が見込めないなか、消費が大きく回復するとは思えない。特に、百貨店は一部の富裕層や中高年層に支えられており、インバウンド需要などの特殊な売上が見込めない限り、変化はないと予想される。
		百貨店（外商担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大もある程度落ち着いてくる見込みであるが、政情不安や円安、物価の上昇などにより、本格的な景気回復は進まない。
		百貨店（マネージャー）	・今後もコロナ禍の影響が大きく、新規感染者数の変化次第となる。取りあえずは感染状況の様子見が続きそうであり、大きくは変わらないと予想される。
		百貨店（宣伝担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いても、今後は秋に向けて、原材料価格の高騰に伴う様々な商品の値上げが予定されており、客の財布のひもが一段と固くなる。厳しい残暑も予想され、秋冬商材の動き出しが鈍くなるため、対策を急いでいる。
		百貨店（売場マネージャー）	・現状と大きな変化はないと考えるが、外出規制の状況に左右される。
		スーパー（店長）	・久々に行動制限のない夏休みで人の動きも活発になり、消費が増えることを期待していたが、最近の爆発的な新型コロナウイルスの新規感染者数の増加により、高齢者を中心に外出を自粛する人が増えている。最近の物価の上昇とあいまって、今後は消費の動きが鈍化する。
		スーパー（店長）	・政府による新型コロナウイルス感染症への対応に変化がなければ、今の状況が続く。
		スーパー（店員）	・気候の影響がすぐに価格面に出るため、この暑さが続けば、どこまで価格が上がるか分からない。
		スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響もあり、今の悪化傾向が続くと予想される。
		スーパー（経理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で、家庭内での利用に需要が回帰している。ただし、以前のような自粛中心の消費行動には戻らず、一定の飲食や外出、レジャーも続くなかで、底堅く推移すると予想される。ただし、物価やエネルギー価格、電気、ガス代の高騰は、最大の懸念材料である。
		スーパー（販売促進担当）	・ウィズコロナの状況にも慣れがみられ、新型コロナウイルスの感染状況に一喜一憂することはないと感じる。最終的には新型コロナウイルス感染症への対応が、インフルエンザと同レベルに落ち着いていくことが予想される。
		スーパー（社員）	・客の購買を促進するためのチラシや販促策を前年以上に打ち、何とか売上を維持しているのが現状である。当面は売上の確保が厳しい状況が続くと予想される。
		スーパー（開発担当）	・賃上げはなく、物価の上昇だけが進んでいる。新型コロナウイルスの新規感染者数も落ち着かず、景気が良くなる可能性はない。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で、経済活動が止まり、消費者が困窮することになる。
		コンビニ（経営者）	・飲食店が時短営業となれば、再び来客数が減ることになる。
		コンビニ（店員）	・今のところは大きな変化が感じられないため、今の状態で推移すると予想される。
		コンビニ（店員）	・コロナ禍の更なる変化により、客足も増減することが予想される。
		コンビニ（店員）	・新型コロナウイルスの感染拡大のほか、いろいろな物の値上がりによる影響もまだ続く。
		コンビニ（店員）	・新型コロナウイルスの感染がなかなか落ち着かず、しばらくは現状の動きが続く。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・在宅ワークの継続により、スーツの着用機会の減少が続きそうである。
		家電量販店（経営者）	・メーカーによると、半導体不足は年内の改善は困難なようである。物流も停滞が続くことから、景気は大きく変わらない。
		家電量販店（企画担当）	・酷暑続きで熱中症となる恐れもあり、昼間の来客数が激減している。さらに、新型コロナウイルスの新規感染者数の急拡大が、客の減少に拍車を掛けている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・とにかく販売できる車が少なく、現状の在庫を地道に販売していくしかない。
		乗用車販売店（営業担当）	・生産状況が改善されなければ、良くなることはない。
		乗用車販売店（販売担当）	・半導体不足や中国でのロックダウン以外にも、生産遅延の要因があるため、当面はこのままの状態が続く。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・ドラッグストアが増え過ぎているため、コロナ禍が収束すれば、今のような来客数は見込めない。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・健康食品や化粧品の売上は堅調であるほか、気温の急激な上昇により、今後は夏物商材や飲料などの売上増加が見込まれる。ただし、新型コロナウイルスの新規感染者数の急激な増加で、自主的な行動制限が増えると予想される。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・コロナ禍の悪影響が続き、景気も一進一退の状況が続く。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・新型コロナウイルスの感染対策商品の売上は増えているが、ユニフォームやシューズなどの売上に変化はない。
		一般レストラン（経営者）	・政府や自治体は、外食を禁止したり控えるような要請は行っていないが、客は減っている。外食に対する個人や会社の否定的な考えが変わらない限り、外食やそれに関連する企業はウィズコロナ時代を乗り切ることはできない。自治体の協力金もなく、緊急事態宣言に似た状況を生き残ることができるのは、貯金などの資金力のある店だけである。
		観光型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染は収束すると予想していたが、再び拡大しており、今後に希望が持てない。
		観光型旅館（経営者）	・エネルギー相場の推移や、新型コロナウイルスの新規感染者数は予測不能である。
		都市型ホテル（管理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が更に増えれば、どのような影響が出てくるかは分からない。
		都市型ホテル（フロント）	・新型コロナウイルスの感染が収束しなければ、このままでは相当厳しい。
		都市型ホテル（管理担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動制限はないが、外出の自粛傾向は続くと思われる。
		都市型ホテル（販売促進担当）	・7月後半は新型コロナウイルスの感染拡大による影響を受けると予想していたが、客室もレストランも動きは変わっていない。今後も大きな変化はなさそうであるが、同窓会や会社関係の宴席はほとんどがキャンセルになっている。
		旅行代理店（店長）	・全国旅行支援がいつ始まるかは決まっていない。今後も新型コロナウイルスの新規感染者数が増え、高齢者の外出の自粛が続けば、旅行に行きたい気持ちはあっても申込みにはなかなか至らない。
		タクシー運転手	・今の状態が続くかどうかは、新型コロナウイルスの新規感染者数に左右される。高齢者や通院中の人が出外を控えるほか、何らかの規制が出される可能性もあるが、全体としては今の状態がしばらく続く。
		タクシー運転手	・過去最悪のペースで新型コロナウイルスの新規感染者数が増えていることを考えると、現状の営業収入が維持できるか不安である。
		競艇場（職員）	・全国発売のSG競走などの売上は、やや減少傾向にあるが、高止まりの状況に変化はない。新型コロナウイルスの感染第7波の状況を含めて、今後の推移を見守る必要がある。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・新型コロナウイルスの感染拡大がピークアウトするまで、予断が許されない。春先からの回復基調は明らかに鈍っており、食品を始めとする各種の値上げも消費マインドを更に押し下げる。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・新型コロナウイルスの感染第7波により、新規感染者数は過去最多を更新している。今後、プロ野球やコンサートの入場者に対する規制の有無も、予断を許さない状況となっている。一方、3か月後の状況は不透明であるため、現状と大きくは変わらないと予想している。
		住宅販売会社（経営者）	・コロナ禍の改善がみられなければ、大きく変わらない。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・このままの流れで、再びコロナ禍に左右される社会に戻ることに心配である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔時計〕 (経営者)	・新型コロナウイルスの感染第7波が猛威を振るっている。当府では高齢者の外出自粛が要請され、今夏の異常な暑さもあって暗い雰囲気か漂っている。近隣の店舗を含めて年配客の買物が多いだけに、当店も来客数の減少が気掛かりであり、先行きには明るい材料がない。
		一般小売店〔鮮魚〕 (営業担当)	・新型コロナウイルスに景気が左右される業種であるが、受注の予約もなく、厳しい状況である。
		百貨店(企画担当)	・中国からの旅行客はまだ増えそうにない。さらに、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加傾向が今後も続くようであれば、国内の富裕客も来店を控える動きが増えそうである。
		百貨店(企画担当)	・今後、新型コロナウイルスの感染第7波が拡大すれば、行動制限がかからなくても、外出自粛の雰囲気が強まると予想される。少なくとも、現時点よりも来客数が大きく改善するとは考えられない。
		百貨店(サービス担当)	・夏のイベントや催事を前に、新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最多となったことで、家族客の来店減少による売上の減少が懸念される。
		百貨店(売場マネージャー)	・新型コロナウイルスの感染拡大傾向は、前年と同様に7月中旬から9月下旬まで続く予想される。社会情勢の変化や原料価格の上昇、円安の進行もあり、消費は悪化に向かうことになる。
		スーパー(経営者)	・8月には、新型コロナウイルスの感染第7波がピークを超えると予想される。家庭での内食から外食への転換が再開することから、スーパーには逆風となる。さらに、スーパーでの生活必需品の値上げは、売場全体に拡大している。今後は生活防衛色が更に強まり、買上点数は伸び悩むと予想される。
		スーパー(店長)	・新型コロナウイルスの感染拡大や物価の上昇で、客の消費意欲の低下傾向がみられる。ゴールデンウィーク以降、リゾート関連を中心に好調であった商品の販売に、ブレーキが掛かると予想される。物価の上昇は今後も続くなかで、新型コロナウイルスの感染拡大傾向が収まらなければ景気は悪くなる。
		スーパー(店長)	・原材料価格の高騰により、買上点数が減少する。
		スーパー(店長)	・原油価格や食品価格の値上がりは止まる様子はない一方、家計の収入に変化はない。買い控えのほか、コロナ禍による外出機会の減少など、好材料が見当たらない。
		コンビニ(経営者)	・最低賃金の引上げの範囲内で、売上が底上げされる可能性はあるが、それを上回る増加には期待が持てない。材料費や輸送費、人件費の全てが増えており、企業には過大な負担となっている。
		コンビニ(店長)	・値上げによって家計は確実に圧迫されるため、徐々に客単価などに影響が出て、売上全体も悪くなる。
		コンビニ(店員)	・毎年、秋になると売上が落ちる。
		衣料品専門店(販売担当)	・新型コロナウイルスの感染者の間で重症者が増えており、不安を感じる。また、生地や送料の値上げにより、商品の価格も上げざるを得ない状況である。
		家電量販店(店員)	・新型コロナウイルスの感染が拡大傾向にあり、今後はどの分野にも影響が出る。政府が営業の自粛要請を出さない限り、新規感染者数は増え続け、経済全体が大きな影響を受ける。
		家電量販店(営業担当)	・ひとまず新型コロナウイルスとの共生をどう進めるかを考えなければ、物価上昇の影響もあり、今後良くなる見通しがもてない。
		乗用車販売店(経営者)	・新車の納期が延びており、客が嫌がり始めている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(経理担当)	・これから夏休みやお盆で人の移動が活発になる時期であるが、エネルギー価格の高止まりや新型コロナウイルスの感染第7波の影響が懸念される。感染がどこまで拡大するのか、自主的な行動制限がどこまで広がるのか、全く予想ができない。
		一般レストラン(企画)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に歯止めが掛からず、具体的な対策もみえてこない。円安傾向によるエネルギー価格や原材料費の高騰も続いているなど、先行きが全く見通せない状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（店員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が今まで以上に増えているため、これから良くなる保証はどこにもない。感染が収束しない限り、景気は良くならない。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・外部要因や内部要因により、売上が上がらない状況となっている。
		観光型旅館（経営者）	・キャンセルが出ている上に、新規の予約が入らないため、かなり厳しい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・回復傾向にあった会食や宴会も、中止や自粛となっている。キャンセル料を払うぐらいなら開催するという状況で、先行きはかなり厳しい。各部門とも同じような状況である。
		都市型ホテル（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染第7波が長期化するとの見方が報じられている。暑い季節でもあり、客が外出を自主的に制限することが予想される。
		旅行代理店（支店長）	・新型コロナウイルスの感染第7波への対応が、4～5回目のワクチン接種や感染防止対策のみであり、急激な改善は期待できない。極端な反応は少なくなっているものの、感染状況が落ち着くまでは、状況は悪化する。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染状況の改善や、特效薬の普及、新型コロナウイルス変異株の弱体化など、景気が純粋に向上く要素が必要である。
		タクシー運転手	・修学旅行に伴う利用が落ち着いている。
		通信会社（経営者）	・円安傾向の継続で、やや悪くなる。
		通信会社（店長）	・大手キャリアの販売方針に変更がない限り、状況の好転は望めない。さらに、スマートフォンの人気機種などの端末値上げも、状況の悪化要因となる。
		通信会社（社員）	・ショップスタッフへの新型コロナウイルスの感染拡大で、店舗の運営が危ぶまれるほか、来客数も減る。
		通信会社（社員）	・景気が回復する兆しが全くない一方、物価は上昇が続いている。収入が減少し、物価が上昇する状況では、娯楽を楽しむゆとりはますます減る。ネットサービスなどの必要な需要は値上げしておらず、動きは堅調であるが、割引の適用が外れると、即解約につながるといったケースが増えている。
		テーマパーク（職員）	・大きなイベントを打っても、コロナ禍の拡大で出控えが増えている。それに対する政府の具体的な対策もみえないため、先行きが非常に不安である。
		観光名所（企画担当）	・7月中旬から新型コロナウイルスの新規感染者数が急増し、来場者数の増勢が鈍化した。行動制限がなくても、客が自制しているように感じる。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・新型コロナウイルスの感染第7波と物価の上昇により、消費が低迷する。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加により、出控えの動きが増える。従業員の間に感染者が出れば、営業を縮小することもあり得る。
		美容室（店員）	・ブライダルの予約が入り始めたと感じるが、新型コロナウイルスの感染状況をみると楽観視はできない。
		その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・生活必需品や食品の値上げが相次ぐなか、教育への出費は後回しとなるか、削減が進む。
		住宅販売会社（経営者）	・新築住宅が値上がりするなか、客の住宅ローンの融資状況にも限界がきている。これ以上、金利は下げられず、返済率も下げようがない状態である。
		住宅販売会社（総務担当）	・人の動きが悪くなり、資材価格の高騰やウクライナ危機、円安の進行といった悪材料が多いため、景気の好転は見込めない。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・今後も円安や物価上昇の影響で、消費は減少すると予想される。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・金利の上昇が進めば、更に住宅業界の冷え込みが加速する。物件価格の高騰にも歯止めが掛からない。
	×	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているため、来街者数の減少が予想されるが、打つ手が無い。
	×	一般小売店〔雑貨〕（経営者）	・物価の上昇や政情不安によって悪くなる。
	×	百貨店（売場主任）	・ウクライナ危機による物価の上昇や、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が出る。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	百貨店（商品担当）	・物価や資源相場の上昇、円安の進行、世界情勢の不安定化により、景気は悪くなると感じている。
	×	衣料品専門店（経営者）	・米国の景気後退に加え、中国の景気の先行きも不透明である。さらに、円安傾向が解消されず、物価の上昇による消費の鈍化も予想される。
	×	衣料品専門店（経営者）	・7～9月は、クリアランスセールが終わって秋物の立ち上げ時期となるが、ヒット商品が出てくる気配はない。
	×	家電量販店（店員）	・商品の安定供給が確保できない限り、スケジュール管理の精度が上がらない。8月末以降に業務工程が固まるまでは、見通しが立たない。
	×	家電量販店（店員）	・販売したくても、納期の遅れなどで商品がなかったり、度重なる値上げによって、価格が客の予算をかなりオーバーしている。来月以降も大型家電の値上げを発表しているメーカーがあるため、客の財布は更に固くなると予想している。
	×	乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加と比例して、客足は確実に遠のいている。緊急事態宣言などが出なくても、恐らく個々に自粛が進むため、しばらく売れる気配はない。
	×	住関連専門店（店長）	・ここ3～4か月で客の予算が明らかに減少した。年初と比べて2～3割安い商品がよく売れるようになり、売上が減った一方、原価は高騰するなど、ダブルで痛手となっている。
	×	その他専門店〔宝石〕（経営者）	・これから秋口にかけて物価の上昇が進む。今後、景気が上向く兆候は見受けられない。
	×	その他専門店〔食品〕（経営者）	・多くの会合が中止などの自粛傾向となっているため、今後は間違いなく売上が低迷する。
	×	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・コストアップにより宝飾品の価格も上げざるを得ないなか、購入目的での来店が増えることはない。円安で海外旅行が控えられても、その予算が宝飾品の購入に回るかといえ、それぞれの価値の違いから期待はできない。
	×	一般レストラン（経営者）	・秋には更なる物価の上昇が予想され、消費者の財布のひもはますます固くなる。
	×	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染第7波に加えて、物価や原油相場の上昇で、消費は冷え込む。
	×	競輪場（職員）	・新型コロナウイルスの感染第7波が、かなりのスピードで拡大している。今後、営業にどのような支障が出るのか見通せない。
	×	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・建設資材価格が高騰するなか、出展各社は今まで販売価格に転嫁せずに頑張ってきた。ただし、口をそろえて言うのは、今後は1割以上の値上げが避けられないため、しばらくは様子見の客が増えるとのことである。
企業 動向 関連 (近畿)		木材木製品製造業（経営者）	・円安や海上運賃の高騰などで、輸入には大変厳しい状況が続いているが、少しずつ運賃は下降傾向にあり、円高に転じる予想も出てきている。販売面を強化しつつ、希望を持って状況を見守りたい。
		食料品製造業（営業担当）	・行動制限がない限り、消費者は普通に活動するため、飲料水の売上も少し良くなる。
		繊維工業（団体職員）	・新型コロナウイルスの感染第7波の収束に伴い、市場の動きが活発化していくと予想される。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・経済を自力でも回さなければならないが、力強さは余り感じられない。ようやく止まっていた注文が入り始めたため、社会的なマイナス要素がなければ、緩やかな上昇が進むと予想される。
		金属製品製造業（開発担当）	・繁忙期が続くため、やや良くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今まで凍結されていた案件が動き出しているため、今後は上向いてくることが期待される。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・今月の荷動き鈍化は、気温の低下と、新型コロナウイルスの感染急拡大の影響が大きい。
		輸送業（経営者）	・遅れていた輸入品の到着が、ある程度早くなってきている。これまでの遅れを取り戻すために、今年後半は仕事量が例年以上に増えると予想される。
		広告代理店（営業担当）	・今年になって、Web媒体、紙媒体共に、広告売上が前年を上回る状態が続いている。
		繊維工業（総務担当）	・数か月前の値上げ交渉の際は、為替が1ドル125円であった。現在は1ドル135円に変動したため、更なる値上げ交渉が必要になっている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・取引先からは、状況が好転するような情報は入ってこない。部品の不足や入荷の遅れも響いている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		化学工業（管理担当）	・自動車関連の減産が続くという情報があり、景気の悪い状況が続くと予想される。
		金属製品製造業（経営者）	・自動車関連の発注の内示状況をみると、業況の回復は秋口まで掛かりそうである。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・状況が一向に好転せず、入荷待ちの製品が多くなっている。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・部品の納期は早くても半年先であり、長い場合は1年先となっている。これがどこまで正しいのかは不透明であるが、どの企業も先行きが見通せなくなっている。
		建設業（経営者）	・原材料価格の高騰が収まる様子がないほか、取引先のマインドが上がってこない状況であり、今後も変わらないと予想される。
		建設業（経営者）	・建設業では工期の長い案件もあるが、今後も契約後の値上がり分の価格転嫁は難しい。また、半導体などの納期も不確定であるため、工期にも影響が出てきている。
		建設業（営業担当）	・物価の上昇で収益が圧迫されているが、取引先の設備投資計画については、2年程度先までは減る気配がない。
		輸送業（商品管理担当）	・前年に続いて新型コロナウイルスの影響が出ており、販売が伸びない。来月や再来月もこの傾向は変わらない。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・ウクライナ危機の終息やコロナ禍の収束、新型コロナウイルスの感染症法上の分類見直し、金利の引き上げによる円安の抑制などがあれば、一気に景気浮揚の雰囲気は生まれる。ただし、実際には困難であるため、来年以降に期待するしかない。
		金融業（営業担当）	・景気の回復には、相当の時間が必要となる。新型コロナウイルスの感染拡大で、不要不急ではない外出にも自粛が進み、業況に大きな影響が出る。
		金融業（副支店長）	・新型コロナウイルスの感染第7波が拡大しており、消費者の動きが鈍くなる可能性もあるなど、今後も厳しい状況は変わらない。
		広告代理店（営業担当）	・コロナ禍が落ち着かなければ、広告出稿も戻りにくい。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・コロナ禍やウクライナ危機の影響で物価が上がっているが、賃金は上がらないため、景気が大きく変わる要素はない。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・今後2～3か月では変わらないが、原価が上がっているため、そろそろ販売価格を上げなければならない。部品や商品がないなかで、コストアップが経営にどう影響するか、不安要素は増えるばかりである。
		食料品製造業（従業員）	・コロナ禍の状況が悪化しており、出荷量も減少している。今後は原材料価格の二次値上げや三次値上げも予想され、苦戦することが目に見えている。その一方、製品価格の値上げはなかなか進まない。
		繊維工業（総務担当）	・販売単価が上がらないなかで、新商品の開発経費を確保していかなければ、利益がますます圧迫される。販売金額を回復させ、利益を少しでも取れるように工夫するしかない。ただし、今後は原材料価格と加工代の高騰がダブルパンチとなる。
		化学工業（企画担当）	・原料価格の高騰が慢性化して利益の出ない状況であるが、改善する見込みはない。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・ウクライナ危機や急激な円安を背景に、燃料費が増えているため、製品価格の引き上げを依頼している。取引先からは一定の理解を得ているが、燃料費の高騰は予想以上であり、利益が減少している。また、物価は高騰している一方、賃金は必ずしも増えていないため、先行きはやや悪くなると予想される。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・物価上昇に対応した買い控えなどの影響で、景気の悪化が予想される。
		建設業（経営者）	・物価の上昇に関する報道もあり、どうしても必要な物以外は、購入を先延ばしにする雰囲気が感じられる。
		輸送業（営業担当）	・不景気でお中元の荷物が減ったようである。企業の間で、経費削減に伴う申し合わせが行われている。
		司法書士	・ウクライナ危機の長期化や、物価の上昇、新型コロナウイルスの感染拡大など、好条件が見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		経営コンサルタント	・小売業の取引先では、スーパーなどでは価格の上昇による買い控えがみられる。その一方、嗜好性の強いアウトドア関連は売上が伸びているが、商品の仕入れに時間が掛かり、好調な動きをうまく利用できていない。
		経営コンサルタント	・新型コロナウイルスの感染拡大による影響が大き過ぎる。しばらくは景気が良くなるとは思えない。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・新型コロナウイルスの感染第7波は落ち着くと予想されるが、物価の高騰はここからが本番である。これまでは大手小売業の企業努力で価格が据え置かれてきた商材も、今秋からは値上げに踏み切らざるを得ないため、ますます消費マインドは冷え込む。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で、行動制限が必要となっており、取引先も出入りができない状態になっている。
	×	化学工業（経営者）	・一時は一進一退の状況から抜け出せそうな雰囲気もあったが、新型コロナウイルスの感染第7波の急拡大で、一気に雰囲気が変わった。それだけではなく、毎日のように従業員やその家族に感染者が出ている。自宅待機で社社できない従業員が続出し、業務が回らなくなり始めている。
	×	金属製品製造業（営業担当）	・コスト上昇分の価格転嫁が進まず、採算が悪化して廃業や倒産に追い込まれる、下請の中小零細企業が増えてくる。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	・景気は当分上向きそうにないと感じている。
	×	その他製造業〔履物〕（団体職員）	・資源相場の上昇や円安を始めとする不安定な外部環境に加え、借入金の返済の開始や雇用調整助成金の終了なども悪材料となる。また、更なるインフレの加速も予想される。
	×	通信業（管理担当）	・ロシアのウクライナ侵攻による物価の上昇が続く、景気の悪化につながる。
	×	不動産業（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が今後も増えるため、景気は悪くなる。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・ウクライナ危機の影響で、世界情勢が混とんとしている。さらに、新型コロナウイルスの感染状況の収束も見込めない。
雇用 関連 (近畿)		人材派遣会社（支店長）	・下期に向けて、派遣需要は更に拡大すると予想される。今後は人材の確保を優先する必要がある。
		人材派遣会社（役員）	・求人のマッチングには苦戦しているものの、企業の人材需要は旺盛である。
		人材派遣会社（営業担当）	・転職しやすい社会情勢となり、スキルのある人は転職しやすい市場になっている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・例年は10月の内定式に向けて、企業側は最終の採用調整の段階で、学生側は内定の承諾や進路の決定に動く時期となる。ただし、今年は複数の内定を得ている学生も多く、内定式への不参加も増えることが懸念される。その場合は求人募集を追加で出す可能性もあり、求人広告については契約の増加が見込まれる。
		人材派遣会社（経営者）	・現在の派遣オーダーは、下半期に向けての企業心理の悪化や、コロナ禍の収束の遅れが反映されている。景気後退の局面ともいえる、今後は右肩上がりとはならず、良くても現状維持となりそうである。難しい局面が続くなかで、企業は慎重な姿勢を崩すことはない。
		人材派遣会社（営業担当）	・行動制限の解除で景気が良くなる期待感があったが、新型コロナウイルスへの感染で出勤できない人の数も増え、少なからず業務に影響が出ている。
		人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響がどこまで出るかは不透明である。経済を止めることになるのかどうかは、規制の有無で変わる。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しているが、政府が行動制限をしないと発表したことで、消費者、社会全体共に落ち着いた動きとなっている。キャンセルは出ているものの、旅行や観光、旅客運送などへの悪影響は今のところ限定的である。ただし、新型コロナウイルスの感染の急拡大は収まっておらず、政府が何らかの行動制限を要請する可能性はある。ウクライナ危機も長期化の兆しがあり、中国経済にも減速懸念が広がるなど、経済の不安定要素は多く、今後の経済がどちらに向かうかは見通しにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・円安や原油価格の高騰による物価の上昇で、しばらくは今の状況が続く。一方、現時点では新型コロナウイルスの感染第7波による影響は出ていない。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染が拡大するなか、社会経済活動の回復への期待は大きいものの、コロナ禍が社会に与える影響を引き続き注視する必要がある。
		民間職業紹介機関（職員）	・新型コロナウイルスの感染第7波が爆発的に拡大するなか、コロナ禍対応の先行きは見通せない。景気は今の厳しい状況が続くと予想される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・コロナ禍と経済活動が両立できるようになるまでは、何ともいえない。
		その他雇用の動向を把握できる者	・以前からの根強い人手不足感に、経済活動の活発化による人手不足が加わり、企業の求人意欲は引き続き強いが、原材料価格の高騰や供給網の混乱、各種コストの上昇、円安の進行など、先行きへの不安の声は多い。求職者の慎重な姿勢により、雇用情勢が活発化するにはしばらく時間が掛かる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルス感染症の再拡大により、関西の地場企業による新聞広告の出稿意欲が低下している。また、新聞社側の営業活動も抑制気味であるため、更に厳しくなる見込みである。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・原材料価格の高騰や円安の影響、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加、ウクライナ危機など、すぐには解消できないマイナス材料が多い。政府の対応も後手に回っており、景気がプラスに転じるのは困難と感じる。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加や、原油価格の上昇、円安傾向などの影響が出る。
		学校〔大学〕（就職担当）	・米国経済が景気の後退局面を迎えつつあり、その要因である物価上昇は今後も進むと予想される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・地政学的な問題に加えて、高い内定率という偏った情報により、企業の採用活動に支障が出始めている。
	x	人材派遣会社（管理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が見込めない状態では、しばらく良くなるとは思えない。また、感染による休職者の増加で、営業ができない業務も一部で発生しており、今後への不安が拭えない。

## 9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連		*	*
(中国)		商店街（代表者）	・商店街の若い経営者がイベントの企画で頑張っており、イベントを開催すると、人が集まるようになってきているため、今後、景気はやや良くなる。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・自粛や行動制限がなくなり、客の行動範囲も広がり、買い控えから消費へと客の心理が変化していくため、景気はやや良くなる。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	・単価が高く、高品質なものを販売することで新しい客層へのPRを行っていくため、景気はやや良くなる。
		乗用車販売店（統括）	・新型車の効果による販売の増加が見込まれる。
		乗用車販売店（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、景気はやや良くなる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激増していることが懸念材料ではあるが、前年と違い、政府が人流抑制に後向きであることから、今よりは景気は多少良くなる。
		高級レストラン（事業戦略担当）	・新型コロナウイルス感染症の第7波が落ち着けば、景気はまた上向く。
		一般レストラン（店長）	・客もコロナ禍の生活に慣れてきたようで、以前ほど敏感になっていないような様子の人が多い。今後、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行政からの行動制限がなければ、来客数も少しずつ増加してくる。秋からは外国人の団体予約も入ってきており、このままキャンセルがなければそれらの上乗せも期待できる。
		バー（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波が落ち着き、景気はやや良くなる。
		都市型ホテル（総支配人）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少に転じ、政府からの全国旅行支援も期待できるため、景気はやや良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（総支配人）	・先行予約は団体客層を中心に一定量の動きがあるものの、新型コロナウイルスの感染状況次第では、先行きが不透明である。
		旅行代理店（支店長）	・全国旅行支援の実施に期待している。
		通信会社（経理担当）	・サービスのエリア拡張に伴い、加入者数が増加する。
		観光名所（館長）	・旅行シーズンに入り、観光客数が増加する。
		商店街（代表者）	・来客数が減少し、来店しても購入につながっていないため、今後も景気は良くならない。
		商店街（代表者）	・年末に向けて、様々な物の価格が上昇するため、売上が増加する要素がなく、不安である。
		商店街（代表者）	・消費が回復傾向にあるが、新型コロナウイルスの感染が拡大しているため、景気は悪化しないものの、回復もせず、現状維持となる。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・今後の景気の見通しが立たない。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・ウクライナ情勢の影響で、石油価格や原材料価格が高騰し、仕入原価が上昇するため、インフレが加速し、売上の低迷が続く。
		百貨店（経理担当）	・新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢など、世界的規模で影響が出ている問題が解決しなければ、景気回復は望めない。
		百貨店（営業担当）	・都心や都会に比べ、新型コロナウイルスの感染が一旦拡大していくと元に戻るまでにかなりの時間が掛かっており、すぐに元には戻らない。物価の上昇も新型コロナウイルスの感染状況も先行き不透明である。衣料品購入に関して、百貨店の上顧客の購買意欲はあるものの、中間層の客の購買意欲が下がっている現状では、景気はすぐには回復しない。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し、来客数や売上が激減するという状況を繰り返しているため、今後も景気は変わらない。
		百貨店（売場担当）	・今の状況があと1～2か月は継続する。主要客である高齢層の来店は特に厳しくなる。
		百貨店（外商担当）	・食料品の値上げなどの報道が先行していることで、心配していたが、高価格帯の商品などが堅調に推移しており、コロナ禍の買い控えの反動が出てきているようである。しかし、株価が安定せず、投資をしている人の嘆き節を聞くことあるので、景気は一気に上昇することはなく、現状維持が続く。
		百貨店（外商担当）	・政府が早急に新型コロナウイルス感染症への具体的な対策を実施しないと、新規感染者数は更に増加し続け、客の購買意欲や購買動向に大きなマイナスとなる。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が懸念されるが、何よりも最大の懸念事項は、食料品の更なる値上げが実施されることである。直接生活に影響する食料品の値上げが大きく、パンなどの大幅値上げも予定されており、日々の購入頻度の高い商品だけに影響は大きくなる。
		スーパー（店長）	・コロナ禍でディスカウント業界に有利な状況が続いていたが、現在はコロナ禍でも人流が新型コロナウイルス感染症の発生前の水準に戻ってきているため、景気は厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・今後、更に商品の値上げがあり、販売点数の伸びは期待できない。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、物価上昇などの問題が解決しないと、景気は良くならない。
		スーパー（店長）	・値上げ等で客の財布のひもが更に固くなることが予想されるため、景気の上昇は考えられない。
		スーパー（総務担当）	・猛暑で日中の来客数が減少しているが、お盆に向けて来客数の増加を期待している。
		スーパー（販売担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で、来客数がかかり減少しているため、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かない限り、景気は回復しない。
		スーパー（業務開発担当）	・生活防衛で食品に対する節約志向は一層強くなってくる。
		スーパー（販売担当）	・今後も順次値上げの予定があり、状況はさほど変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（営業システム担当）	・値上げがあらゆる分野で続いており、客が財布のひもを緩める要因がない。値上げの影響で、買上点数が減少するが、売上が極端に減少することはない。ただし、今後、少しずつ値上げの影響が出てくる。
		スーパー（販売担当）	・競合店も現状と変わらない。新型コロナウイルスの感染状況も変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・売上が徐々に増加しているが、来週から菓子などを値上げするため、景気は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数が回復し、新型コロナウイルス感染症の発生前に迫る売上となるなど、景気は良くなっている。一方で、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加すると、自粛する客も増加する可能性があるため、今後も景気が良くなるとは言いがたい。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・来客数は回復しているものの、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加は続いており、今後については未知数である。これから繁盛期を迎え、前年よりは好材料が多いが、今後、消費者の行動範囲が狭まる恐れもあるため、景気は不透明である。
		衣料品専門店（経営者）	・景気が良くなる要素がないため、景気は変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・日用品や買回品が値上げしているため、後は厳しくなる。
		衣料品専門店（代表）	・新たな伝染病が報告されており、自粛ムードに拍車がかかるため、景気は変わらない。
		家電量販店（企画担当）	・参議院選挙が政権政党の大勝に終わったが、現在の政権では、大胆な経済政策が実施されないため、景気は良くならない。
		家電量販店（販売担当）	・エアコンなど大型家電が動かないと、景気は変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・日用品の物価上昇に伴い、節約志向になる客が多く見受けられる。また、半導体不足や海外のロックダウンの影響が大きく、納期の長期化が続いており、販売しても売上が立たず、経営を圧迫していることから、今後も景気は良くならない。
		乗用車販売店（店長）	・生産遅延が常態化している。工場稼働停止が発生しており、当面改善は見込めそうにない。
		乗用車販売店（営業担当）	・生産遅延が周知されつつあり、生産が改善しない限り元には戻らない。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・行動制限がどうなるかで状況は変わってくるが、観光バスが増加しているため、しばらくは良い状況が続く。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・行動制限は今のところないが、後は消費者が自ら身を守ると考えられるため、売上は増加しない。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が予測し難くなっており、客の警戒感がとても強まっている。人の移動や集客を非常に懸念しており、今後も景気は良くならない。
		観光型ホテル（営業担当）	・今後の景気は全く読めない。
		都市型ホテル（企画担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の急増で、先行きが不透明な状況は変わらない。全国旅行支援もプレーキが掛かり、宿泊における集客は伸び悩んでいる。食事を伴う宴会受注が増加してきたものの、キャンセルが出始めたため、景気は良くならない。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で、好転していた人流が減ってくるかもしれないが、大きな落ち込みもない。
		通信会社（企画担当）	・新型コロナウイルス感染症の第7波に入っているが、人々がコロナ禍での生活に慣れてきている。物価が上昇しているが、当社は商材の値上げを考えておらず、今後も影響を受けない。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響がどの程度か想定できない。
		観光名所（管理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加報道に客がすぐに反応している。今後も新型コロナウイルス感染症の危険度を示す分類の引き下げなど政府の意思がはっきりしないと、市民の行動も今までと変わってこない。
		競艇場（企画営業担当）	・3か月後も売上は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（経営者）	・建築物価の上昇だけでなく、他の生活物価も上昇し、客が住まいのような大きな投資に慎重になっているため、景気は良くならない。
		設計事務所（経営者）	・いろいろな社会事情もあって建築費が高騰し、民間工事の契約ペースが極めて遅くなり、着工までの見通しが悪くなっていることから、景気は良くならない。
		設計事務所（経営者）	・今後も中価格帯以下の需要が見込まれ、金額的には大幅な伸びが見込まれない。
		住宅販売会社（従業員）	・一時期、良くなるかと思われたが、新型コロナウイルスの感染急拡大でブレーキが掛かったため、今後も景気は良くならない。
		商店街（理事）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し、客が外出を控え、消費が減少するため、景気はやや悪くなる。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・全ての物の価格が上昇するため、景気はやや悪くなる。
		百貨店（広報担当）	・物価が上昇する一方で、給与は増加しないため、客の消費意欲が減退する。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、旅行や行事などの外出の機会が増加しないと衣料品の需要は見込めない。また、メーカーが不況や不安定な海外情勢の影響で減産し、商品が不足するため、景気はやや悪くなる。
		百貨店（営業企画担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大によるイベントの中止や物価の上昇等が重なり、消費の減退が進む。
		スーパー（店長）	・空梅雨と猛暑の影響で、涼味食品を中心に売上が増加しているが、8月に食品の値上げを実施するため、来客数が減少する。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が出始め、客の行動範囲が狭まっていることから、今後、景気はやや悪くなる。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルス感染症、サル痘と良いニュースがなく、景気が改善する余地がないため、今後、景気はやや悪くなる。
		乗用車販売店（業務担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大で、生産工場が平準化できない。今後も見通しがまるで立たない。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型車の発表が半年後に延期となり、納期も延びるため、景気はやや悪くなる。
		住関連専門店（営業担当）	・円安の影響で原材料や輸入品の価格の上昇が止まらず、家具の価格の値上げが何度もある状況である。特に低価格商品の値上げ幅が大きく、客の買い渋りが多くみられるため、今後、景気はやや悪くなる。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大が続くため、景気はやや悪くなる。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響で、夏のイベントが開催されないため、景気はやや悪くなる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・お盆など県外からの客が増加する時期であり、楽観視できない。新型コロナウイルスの新規感染者数が日々増加しているため、客の不安は続く。
		一般レストラン（経営者）	・食品など生活必需品の度重なる値上げや電気、ガス、ガソリンなどの価格の上昇に加え、夏休みやお盆の移動の自粛により、売上が低迷し、景気はやや悪くなる。また、食材の値上げへの対応が進んでいないため、利益面でも苦しくなる。
		都市型ホテル（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、行動制限はないものの、企業の会食等が自主的に自粛されるため、特に飲食業が打撃を受ける。
		旅行代理店（経営者）	・若い年代へのワクチン接種など新型コロナウイルス感染症への対応を早く進めないと、景気は良くならない。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているため、今後が不安である。
		タクシー運転手	・先行きは不透明で、今後、景気はやや悪くなる。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染が拡大しているため、今後、景気はやや悪くなる。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、公的な行動制限をどうするかが問題となるが、自主的に会食を中止するなど人流が鈍くなりつつあるため、今後景気はやや悪化する。
		通信会社（工事担当）	・新型コロナウイルスの感染が拡大するため、景気はやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（管理担当）	・政府の景気対策が国民の求めるものではなくなっているため、景気はやや悪くなる。
		テーマパーク（営業担当）	・現時点で新型コロナウイルスの新規感染者数の増加傾向に歯止めが掛かっていないため、景気はやや悪くなる。
		ゴルフ場（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かないと、景気は良くならない。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、人の動きが鈍くなっているため、今後、景気はやや悪くなる。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増加し、客が外出を控えているため、今後、景気はやや悪くなる。
		住宅販売会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の更なる増加で、現状よりは人出が減少する。
	×	一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染再拡大で、外出する人も来客数も減少しているため、今後、景気は悪くなる。
	×	百貨店（販売計画担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大や個人所得の低迷で、景気は悪くなる。
	×	スーパー（財務担当）	・8月以降も、新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりの状況が続くが、外出制限等もないため、内食需要が減少する。また、物価の上昇に伴う客の節約もあり、売上は前年割れが続く。
	×	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルス感染症の影響が続くため、景気は悪くなる。
	×	自動車備品販売店（経営者）	・身の回りでも今年2回目の値上げが次々と発表され、仕入価格もどんどん高騰し、生活必需品でない物は買い控えの傾向が始まっている。仕入価格が上昇しても販売価格に反映しにくい状況になりつつあるため、今後、景気は悪くなる。
	×	自動車備品販売店（経営者）	・更なる値上げの発表があり、ますます国産製品が売れなくなりそうである。消費者が輸入製品より高くても国産製品を購入する意識が高まれば、大企業はもちろん中小企業の景気も良くなる。現段階で国の補填もなく、最低賃金を1500円にすると、中小企業の倒産数が激増するのは目に見えている。将来的に人口減少が進むため、早めに議員定数や公務員数は減らすことで、国民の負担も軽減できる。
	×	一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加やウクライナ情勢の影響などによる物価の上昇で、景気はやや悪くなる。
	×	観光型ホテル（副支配人）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加してきているため、県民割は一時停止となり、先の宿泊の予約が団体を中心にキャンセルになっている。今後、新規感染者数の増加が続けば、予約も少なくなってくる。
	×	通信会社（広報担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、物価上昇が収まらない限り、客の買い控え傾向は続く。
	×	美容室（経営者）	・客の所得が上昇しない一方で、物価が上昇し、節約傾向が強まるため、景気は悪くなる。
	×	住宅販売会社（営業所長）	・資源や資材の高騰が続き、先行きが不透明な状況で、長期ローンを組み購入する住宅の購買意欲は低下する。
企業 動向 関連		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・計画では新型コロナウイルス感染症の発生前の受注水準に戻る。
(中国)		化学工業（総務担当）	・当面は、仕入れや販売が問題なく推移する。
		木材木製品製造業（経理担当）	・企業努力により、収益面は改善の方向に進むと思われるが、全体としては、企業の業績は厳しい状況が続くため、大幅な景気回復は期待できない。
		化学工業（総務担当）	・景気は現状から変化しない。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼業向け大口案件で、2～3か月は現在の多忙な状況が継続するが、その後、多忙感は一段落する見込みである。
		鉄鋼業（総務担当）	・今後も大きな環境変化はない。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きは変わらない。
		一般機械器具製造業（管理担当）	・物価の上昇や新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されるが、現段階の判断では、景気は現状を維持する。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・今のところ政府による制限は特にないが、新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増加しているため、今後、行動制限等があれば、景気に悪影響を与える。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・取引先の生産計画が少し回復したところではあるが、この先は現状維持の見込みである。
		建設業（経営者）	・民間建築の受注量に変化がなく、低いながらも安定している。
		建設業（総務担当）	・しばらくは現在の状況が継続する。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（業務推進担当）	・不安定な世界情勢、新型コロナウイルス感染症、仕入価格の高騰等により景気が上向き要素の乏しい状況が続いているため、景気は良くならない。
		輸送業（総務・人事担当）	・中国の需要が余り活発でなく、回復を待っている状況であるため、景気は良くならない。
		金融業（貸付担当）	・新型コロナウイルス感染症の終息や物価高止まりの解消が見込めないため、企業の収益力の回復が期待できない。
		金融業（融資企画担当）	・地元完成車メーカーの国内生産は、新型車の発売で多少増加するが、大幅な回復は期待できない。このため、系列の地元部品メーカーの受注もおおむね現状程度の低水準が続く。
		不動産業（総務担当）	・賃貸物件の需要も落ち着いている時期でもあり、今後も景気は余り変わらない。
		広告代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加している状況で、客の動きが悪く、受注も進まないことから、景気は変わらない。
		会計事務所（経営者）	・人手不足から外注化、アウトソーシング化の動きは手堅い。一方で、原材料価格高騰の影響や半導体不足による車両新規リースの低迷もあって、景気は現状維持にとどまる。
		農林水産業（従業員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が収束するまで景気は良くならない。
		食料品製造業（総務担当）	・商品の値上げを予定していることや新型コロナウイルスの感染拡大などから、景気はやや悪くなる。
		繊維工業（財務担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大による行動制限で、人の移動が減少する。
		鉄鋼業（総務担当）	・今後の受注予測が弱含みとなっている。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・エネルギー価格の上昇や半導体不足の影響もあり、販売量が減少する製品がある。
		金属製品製造業（総務担当）	・鉄原材料価格は下落傾向にあるが、いずれ反転してくると想定している。また、電力の燃料調整費が過去に例を見ないほど値上がりしている。年内は良くても高止まりと思っているため、採算悪化の大きな要因として捉え、収支見直しを見直す。
		輸送業	・新型コロナウイルスの感染が拡大しているため、景気はやや悪くなる。
		通信業（営業企画担当）	・電気料金の大幅な上昇により、データセンターの購入に慎重になる客が増加する。データセンター事業者も販売価格の設定に慎重になっており、積極的な販売を控えることが予測される。
	×	食料品製造業（経営者）	・秋口に向けて、2回目の値上げを実施する予定だが、消費者の買い控えに拍車が掛かるため、厳しい状況が続く。
雇用 関連 (中国)		求人情報誌製作会社（HR担当）	・新型コロナウイルス感染症対策と経済活動が両立しながら進んでいくと思われるため、景気はやや良くなる。
		人材派遣会社（支社長）	・2～3か月で新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢、中国経済状況などが大きく変化することはないので、景気は変わらない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染再拡大や円安などの影響で、景気は良くならない。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・新型コロナウイルス感染症に対応しながら業務を実施する企業は増加しているが、物価上昇により、輸入中心の業種の売上は厳しくなっている。電気料金の値上げがどれだけ影響するかが問題ではあるが、一方でそれらに影響されない業種もある。
		職業安定所（事業所担当）	・雇用調整助成金の申請が、前年と比べ、55.7%減少していることや求人数が全体的に増加していることから、景気の回復がうかがえる。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大やウクライナ情勢等の影響による物価の上昇が続くなどマイナス面も多いため、本格的な景気回復はまだ先となる。
		職業安定所（雇用関連担当）	・7月に入り、県内で新型コロナウイルスの新規感染者数が増加したことが、今後の求職者の応募意欲を低下させる原因になる可能性がある。
		民間職業紹介機関（職員）	・新型コロナウイルスの再拡大の影響で、客が外食を控えるなど行動に変化が起きているため、景気は良くならない。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・2～3か月後に秋採用が開始するが、今年度の採用を既に終了した周辺企業もあり、今後、求人数が増加することが余り期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス感染症、円安、不安定な世界情勢の影響もあり、雇用状況は悪化する。
		人材派遣会社（経営戦略担当）	・新型コロナウイルス感染症の影響で、回復が想定されていた業種が再び停滞を余儀なくされる懸念がある。
		人材派遣会社（副支店長）	・新型コロナウイルス感染症の終息の見通しが立たない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・原価高騰や半導体不足の解消の見通しが立っていないため、景気は好転しない。
		職業安定所（所長）	・住宅関係では建築資材費、飲食関係では食材料費や電気料金など、各業界で予想を超えたコストの上昇を販売価格に転嫁できず、先行きの不透明感が増しており、求人への影響も懸念される。
		民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・新型コロナウイルス感染症に対する行動制限が設けられると、景気はやや悪くなる。
	x	-	-

#### 10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (四国)		衣料品専門店（経営者）	・景気は必ず良くなると思う。新型コロナウイルス感染症が各地で再拡大しているが、経済活動への影響は限られており、景気動向には余り関係なくなってきたと思う。
		スーパー（人事）	・激増する新型コロナウイルス感染症に対し制限が掛からない今のような状態がいつまでも続くとは思えないが、外向き消費は増えているため、政府や自治体から制限が掛からない限りは景気は上向くと思われる。
		衣料品専門店（経営者）	・秋頃から売上が増加するのではないかと期待している。
		乗用車販売業（営業担当）	・受注停止になっていた車種のうち、数種類が再開予定になっている。
		乗用車販売店（役員）	・メーカーの生産状況が少し改善されると期待している。
		一般レストラン（経営者）	・コロナ禍での生活が長期化しており、人々の危機意識は薄れつつある。新規感染者数に関係なく少しずつ客足が回復すると思う。
		旅行代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染再拡大の状況次第ではあるが、全国旅行支援が開始されれば売上増加につながると思う。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症が再拡大している今も特に行動制限があるわけではない。秋になり新規感染者数が落ち着けば、景気も少しずつ改善していくと思う。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症が全国で再拡大しているが、客の動きには大きな変化はなく、景気は少しずつ回復していると思う。
		商店街（事務局長）	・新型コロナウイルス感染症の第8波も懸念されるが、引き続き経済を回していくしかないと思う。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で利用者の行動が鈍くなっている。感染の拡大が早く収束することを願っている。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・早い梅雨明けの後に猛暑が続き、客の商店街への人出は芳しくない。新型コロナウイルス感染症の終息が全く読めないため、状況の変化があるとは思えない。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・物価の上昇が家計を苦しめていることに加え、新型コロナウイルス感染症の第7波により先行きが不透明である。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルス感染症に対する特效薬が開発される等の状況の変化が生まれにくい限り、景気が上向くかどうかの判断はできない。
		百貨店（営業統括担当）	・新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くのか不透明である。
		百貨店（販売促進）	・新型コロナウイルス感染症の爆発的な感染拡大は落ち着くが、収束することは難しいと考える。
		スーパー（企画担当）	・今後も商品の値上げが続き、消費マインドが低下することを懸念している。
		スーパー（財務担当）	・新型コロナウイルス感染症の再拡大で、内食需要が復活することを期待している。
		コンビニ（店長）	・このまま現状が続くと予想する。
	コンビニ（総務）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が各地で過去最高を更新しており、今後景気が良くなる要因が見当たらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（商品担当）	・今後の電力ひっ迫状況を懸念している。
		衣料品専門店（営業責任者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加すると来客数も減少するため、売上はしばらく現在の水準で推移すると予想する。
		家電量販店（副店長）	・先行きが不透明な状況が続くと思う。
		乗用車販売店（従業員）	・依然として半導体不足等による自動車生産の遅れが続いており、まだまだ回復が見込めない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・商品の値上げにより客が減少傾向にあるが、大きな変化はない。
		タクシー運転手	・現在、新型コロナウイルス感染症が各地で再拡大しているが、今後もお盆や夏休み等で人の移動が増え続けるため、状況はしばらく変わらないと予想する。
		通信会社（営業部長）	・販売スタッフが新型コロナウイルスに感染し欠員になることが多いが、売上等に大きな影響はない。
		観光遊園地（職員）	・引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けると予想する。
		競輪競馬（マネージャー）	・新型コロナウイルスオミクロン株は感染力は高いが毒性は強くないと聞くため、現在の環境が大きく変わることはないかと予想する。
		美容室（経営者）	・今後の状況が見通せない。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第である。
		設計事務所（所長）	・新型コロナウイルスの感染状況に大きく影響を受ける業種とそうでない業種の業績に大きな差が生まれており、どちらともいえない状況である。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症が再拡大しており、これから先の夏のイベントに悪影響を及ぼさないかと懸念している。
		商店街（代表者）	・日用品の値上げや電気料金の高騰等により消費者の家計負担が大きくなっている。新型コロナウイルス感染症の影響で正常な流通状態に戻ることはまだ期待できず、今後は自然災害が多く発生する季節に入るため、景気が回復する要因が見当たらない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・周りの飲食店などで少しずつキャンセルが出ており、今後の影響を懸念している。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染再拡大や物価高の影響で消費行動が鈍化し、景気が下向くと思う。
		スーパー（店長）	・値上げの影響により買い控えが更に進むと予想する。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の急増と全国旅行支援が見送られたことで、人々の動きが鈍化するのではないかと懸念している。
		家電量販店（店員）	・ボーナス商戦が終わると値上げの影響で買い控えが起こると予想する。
		乗用車販売店（従業員）	・メーカーの生産台数の改善が進まない状況に加え、物価上昇や新型コロナウイルス感染症の影響で新車の受注台数も厳しくなりつつある。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（総務部担当部長）	・物価上昇及び新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響が大きく出てくると予想する。
		観光型旅館（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響により外国人入国枠の拡大や全国旅行支援の開始が遅れているため、今後の客の動きが全く読めない状況である。
		都市型ホテル（経営者）	・物価上昇に賃金上昇が追い付いておらず、消費マインドが低下傾向にあるのではないかと懸念している。
	×	スーパー（統括担当）	・電気料金や物価等の上昇により消費者の生活が苦しくなると予想する。
	×	衣料品専門店（経営者）	・物価上昇の影響で今後も購買力が減退すると思う。
	×	通信会社（社員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い景気は悪化すると推測する。
企業動向関連		食料品製造業（商品統括）	・円安の進行によりインバウンド消費及び高級品の輸出が活発化すると予想する。
(四国)		パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・キッチンペーパーを新たにプライベートブランド化し生産することが決まったため、更に売上が増加すると予想する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・電気機器の部品が非常に入手しにくい現状であったが、代替品の活用及び新たな技術の開発が進んでおり、今後状況は良くなると予想する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		広告代理店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が心配であるが、イベントや客先の販売促進広告は多少復活する見通しであり、徐々に景気は回復すると予想する。	
		建設業（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の状況次第である。既に研修会や親睦会等のイベントは中止や規模縮小などの自粛が始まっており、今後も現状が継続すると事業活動に影響が出てくると予想するが、現時点では何ともいえない状況である。	
		建設業（経営者）	・今後も状況は変わらないと思う。	
		輸送業（経営者）	・コロナ禍の生活に人々が慣れたこともあり、現状がしばらく継続すると予想する。	
		輸送業（経理）	・海外向け輸出入については復調傾向であるが、国内向け輸出入については新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されており、今後も状況は大きく変わらない。	
		通信業（企画・売上管理）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は増加傾向にあるが、行動制限等のビジネスを規制する呼び掛けはなく、状況は変わらないと思う。	
		通信業（総務担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急増したことで社外イベント等について再度自粛や規模縮小の動きが出ており、今後の見通しが立たない。	
		食料品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が更に増加し、観光や外食産業へ悪影響を及ぼすと推測する。	
		木材木製品製造業（営業部長）	・原材料の価格上昇が更に進むとの情報があり、販売価格の改定が急務となっている。取引先の中には価格が上がれば継続取引に影響が出るという声が出ているところもあり、今後の業績が悪化しないか懸念している。	
		化学工業（所長）	・新型コロナウイルス感染症とウクライナ情勢の状況次第であるが、しばらく円安傾向も継続する見込みであり、状況が好転する要因がない。	
		一般機械器具製造業（経理担当）	・新型コロナウイルスの感染再拡大に加え、ウクライナ情勢や原材料価格の上昇等の問題が山積しており、しばらく景気回復は見込めない。	
		電気機械器具製造業（経理）	・新型コロナウイルスの感染再拡大に加え、ウクライナ情勢の長期化及び円安基調による物価高が継続しており、景気は悪化すると予想する。	
		輸送業（営業）	・新型コロナウイルスの感染拡大が収束に向かい、サービス業を中心とした個人消費の増加につながれば景気も回復に転じると思うが、依然として燃料油や電気料金の高騰等のエネルギー情勢と新型コロナウイルスの感染拡大状況が事業経営を大きく左右することに変わりなく、今後景気が後退することを懸念している。	
		金融業（副支店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加や資材価格の値上がり、円安の進行等により消費者マインドの低下が懸念される。	
		税理士事務所	・新型コロナウイルス感染症の第7波や物価高の影響で消費マインドが低下すると思う。	
		×	農林水産業（職員）	・新型コロナウイルス感染症や国際情勢、日配品の値上げ等の影響により景況感の回復には程遠い。生鮮野菜については、日持ちがしない夏場は消費者の1回の買物量も減る傾向にあり、野菜価格の低迷が続く可能性が高い状況にある。
		×	鉄鋼業（総務部長）	・スクラップ価格は値下がり傾向に転じているが、まだまだ高水準である。また、燃料調整費上限撤廃により、8月より電気料金が大幅に値上がりする見込みである。製造経費に占める割合の高い電気料金の大幅な値上げは、大きな収益悪化要因となる。
	雇用 関連  (四国)		-	-
		求人情報誌製作会社（従業員）	・異動時期に入り、求人数の増加が予想される。	
		人材派遣会社（営業）	・県外からの帰省客や観光客のキャンセルが増加傾向にあり、依然として安心して旅行ができる環境が戻ってこない。	
		民間職業紹介機関（所長）	・新型コロナウイルスの感染拡大状況次第である。	
		学校[大学]（就職担当）	・企業の人手不足感は慢性化しており、景気には余り影響ないと思う。	
		人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症の影響で製造業の求人数が低迷することを懸念している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌（営業）	・観光やサービス、飲食業界での景気悪化に歯止めが掛からず、回復の見込みが立っていない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・個人消費が伸びないと景気回復は難しいと思う。
		職業安定所（求人開発）	・急激な新型コロナウイルスの感染状況の悪化で、宿泊業や飲食サービス業の業績に陰りがみえ始めている。
	x	-	-

### 11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (九州)		乗用車販売店（役員）	・新商品の発表が予定されており、多くの乗客数が見込めるため、販売へつながる。
		観光名所（従業員）	・緊急事態宣言等が今後適用されなければ景気も良くなると予測されるが、現状では新型コロナウイルスの感染拡大の影響でキャンセル等が増えている。感染対策等を徹底し、来場者数増加していきたい。
		商店街（代表者）	・3か月先は新型コロナウイルスの新規感染者数が一段落すると思われる。食品関係の値上げで消費に多少の影響があると考えられ、また、ファッション関係ではメーカーの企業努力で値上げは限られる。一方、店頭販売及びWeb販売は少しずつ良くなる。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・9～10月になると葉物類など県産野菜が中心になってくる。単価も安くなり、また、涼しくなると客の移動も多くなるため、状況は良くなる。
		百貨店（経理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあるが、来客数は落ちていない。7月はギフト商品の売上がやや好調に推移しており、生鮮関連が良くない。また、婦人衣料は前年並みではあるが、化粧品、婦人雑貨の売上が伸びているため、3か月後の売上は、良くなる見込みである。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が増加傾向にあり、今後については先行き不透明であるが、非対面販売では、客が増えると予測される。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、来客数が増えているため期待したい。一方、客単価が増加している要因の1つが商品の値上げであり、このことで買い控えにならないか、気になるところである。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス感染症と共存する動きは定着しているため、今後は、来店時間帯も深夜を含め24時間活発化し、消費は拡大していく。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・前年は天候が悪かったが、今年は天候に恵まれているため、景気回復傾向になると予想している。また、商品単価が上がっているため、若干来客数が減少しても、売上は伸びていく。
		衣料品専門店（店員）	・新型コロナウイルス感染症の第7波が収まり、涼しくなれば需要が増えると期待する。
		家電量販店（店長）	・商品供給が厳しかった商品が、安定供給化することで必然的に前年よりも上昇傾向になり、全体をけん引すると予想される。
		家電量販店（店員）	・非常に今月の売上は悪く、現在最低の状態である。ボーナス商戦の時期でもあったが、売上は増加していないため、貯蓄に回っていることも考えられ、3か月後には状況が良くなると判断している。
		乗用車販売店（役員）	・更なる新型車投入効果や供給量改善に期待する。
		住関連専門店（従業員）	・高価格の秋冬商材は、10月以降に需要が高まるが、今年は円安やウクライナ情勢に端を発したサプライチェーンへの影響で、例年と比べ価格が高騰する見込みがあるため、それを見越した客が既に下見に来ている。
	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・ショッピングセンターエリアの特性として、新型コロナウイルス感染症の報道があると影響が顕著に表れる。消費者動向は、現在が底の状態である。新型コロナウイルスの感染状況の良化や、政府や行政の方針次第で、感染状況の影響も薄まっており、今後には期待をしている。例年、これから2～3か月は大雨や台風による水害が懸念されるが、需要を見込める機会でもあり、前向きに捉えるようテナントには周知したい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・新型コロナウイルスの感染拡大が抑制されていると想定し、景気改善を期待している。
		観光型ホテル（総務）	・新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、7月後半から8月に掛けキャンセルが相次いでいる。2～3か月先であれば新型コロナウイルス感染症の第7波は緩やかに収束に向かう。ただし、個人の行動は活発でも法人では抑制が掛かるため、収束が一番の景気回復である。
		通信会社（企画担当）	・販売量も増え、引き合いも多い。前年予算の消化を控えた反動で、コロナ禍に応じた経済活動が行われている。
		通信会社（営業担当）	・コロナ禍でも行動制限がないことで、飲食店を中心に消費が動いている。
		住宅販売会社（従業員）	・省エネ設備等の充実に伴い、工事単価も引き続き続く。
		商店街（代表者）	・秋口になれば涼しくなっていくため、来客数が増加すると期待している。
		商店街（代表者）	・来客数の見込みが読めず、また、企業取引は横ばいであるため、納品製造に力を入れる必要がある。
		商店街（代表者）	・円安や物価高、加えて新型コロナウイルス感染症が続く限り、消費が好転する状況にはない。
		商店街（代表者）	・今後、新型コロナウイルス感染症の第8波が襲ってくると今の状況が継続される可能性があり、全く予測がつかない。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・今月は土用の丑の日があり、売上が若干上がっている。8月は行事がないため厳しくなるが、例年9月頃になると青魚が多く入荷し売行きも良くなるが、漁獲量の状況が懸念され、先行きが不安である。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染が拡大しているために外出意欲が減少し、感染状況も先行き不透明であるため景気回復が難しい。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大状況が見通せないことから、先行きが非常に不透明であり、劇的な回復は見込めない。物価の上昇もマイナス要因となることから、景気回復には時間が掛かると考えられる。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、景気は上昇しない。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大で外出に慎重になっているが、サテライトショップやギフトショップ、Web受注、お中元通信販売は堅調である。加えて、夏の贈答品や官民一体のキャンペーンも継続しており、周辺地域を含めにぎわいを目指している。客の購買単価や商品単価は依然堅調で、嗜好性の高い舶来雑貨、時計、美術工芸や自家需要の高いリビング用品や家電、また和洋酒に加え、スポーツ関連も良好で新型コロナウイルス感染警戒中でも自家需要の回復が望める。
		百貨店（経営企画担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が頭打ちになったとしても、新型コロナウイルスオミクロン株の別系統の出現により来客数の減少が続くことも予想され、業績への影響は免れない。しかし、高額品の動きは依然堅調である。
		百貨店（業務担当）	・現況より景気が悪くなることはないが、行動制限がなくても外出を自粛する人は多い。新型コロナウイルスの新規感染者数の下げ止まりで、安定すると予想している。
		スーパー（総務担当）	・7月中旬以降、新型コロナウイルス新規感染者数が急増しているが、売上や客単価、買上点数等で数字が改善傾向にある。しかし、今後値上げの影響が強く作用し、また数字は悪くなると予想される。
		スーパー（経理担当）	・食料品だけでなく各種値上げの影響で可処分所得が制限され、消費に大きな影響を及ぼしたまま推移すると予想される。
		コンビニ（経営者）	・3か月後も前年の来客数を取り戻すことが難しい。また、物価上昇も追い打ちを掛けており、客の買い控えが多い。
		コンビニ（エリア担当）	・商品等の値上げにより、実質賃金への影響が続くと予想される。
		衣料品専門店（取締役）	・10月になるとシーズンが全く変わるため、ファッション業界としては目新しい物があれば、客の購買意欲が増すことに期待をしているが、新型コロナウイルス感染症の影響で洋服に対する需要の優先順位など、特に高額品については非常に先が読めない状況になっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、売上は前年と変わらない。3か月後もこのままの状態と推移すると予測している。
		乗用車販売店（従業員）	・納期の長さの問題は営業方法の変更で解消しつつも、車体価格の上昇が新たな問題になりつつある。
		乗用車販売店（総務担当）	・自動車販売店にとって、メーカーの新車減産が続き、新車登録台数が減少になると利益確保が難しくなるため、早い生産回復を願っている。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・店頭での客の購入状況は、コーヒー豆の消費額が前年と変わらないため変化はない。しかし、お盆前後は中元需要が見込めるため、若干売上が上がる予想をしている。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響と物価高の影響により、まだ回復には時間が掛かる。
		一般レストラン（経営者）	・県民割が継続され景況も良くなっているが、地元対象だけでは限界がある。全国旅行支援の延期で観光客が見込めないことが痛手である。
		観光型ホテル（専務）	・団体客が増えつつあるが、新型コロナウイルス新規感染者数の増加で、先が見えない状態が続くと予想される。
		通信会社（営業担当）	・物価上昇が継続するなら、景気の回復も期待できない。
		通信会社（統括者）	・例年、お盆や9月の携帯電話発売の時期に商戦が盛り上がるため、人の動きや新商品の発売に期待したい。
		通信会社（業務担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は増えているものの、営業先の店が時短営業になることはないかと予測しているが、景気が良くなる兆しはみえない。
		理容室（経営者）	・当地でも新型コロナウイルスの新規感染者数は急増しており、当店の高齢客は外出に対し慎重になっているため、来客数が減少している。良くなっていくことを期待はしたいが、暑さと新型コロナウイルスの感染拡大で厳しくなっていく。
		美容室（経営者）	・秋口にはファッションも変わってくるが、自粛等で動きが悪くなると来客数にも大きく影響してくる。
		美容室（店長）	・物価は上がっているが、給料は上がらないため、不満を持っている人が多い。この状況では景気は変わらない。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・新型コロナウイルスオミクロン株B A . 5が流行しているが、行動制限をしないため、3か月後にはその影響を受け、好転はしないと予想している。
		設計事務所（所長）	・今月も受注状況に大きな変化がないため、景気は変わらない。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況で、世の中の動きが大きく変わると予想される。現在新型コロナウイルスの感染の勢いが大きく新規感染者数が増加しているが、この状況が収束していけば、日常生活や観光で人混みを嫌う状態が、大きく変化していく。
		商店街（代表者）	・地球温暖化により猛暑となり、また、新型コロナウイルス感染症が広がりを見せている。消費者の多くは郊外のショッピングセンターで涼を取りながら買物や食事してから帰宅しており、商店街への足が伸びず、景気の上昇は見込めないと予想される。
		商店街（代表者）	・7月中旬までは景気が好調で推移していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、先行きを不安視する声が多くなっている。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・新型コロナウイルスの感染拡大で売上が影響しているため、今後の見通しは予測できない。すぐに回復するとは考えられないため、数か月は厳しい。
		百貨店（総務担当）	・新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、今後の景気が変わる。
		スーパー（店長）	・今後は更に悪化すると予測される。物価高などや円安の影響により消費支出は更に減少する。国行政の支援策が更に出ると一時的に回復する可能性はあるが、全国旅行支援や県民割では一部の業態しか潤はない。
		スーパー（企画担当）	・コロナ禍やウクライナ情勢等、内外共に好転する要素が全く見当たらず、今後も景気の縮小傾向は続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されて以降、日常生活や仕事の形態が以前に戻りつつあったが、今度は、新型コロナウイルスオミクロン株B A . 5の新規感染者数が急増している。そのため、個人や企業の自発的な行動自粛により経済活動が減速することを危惧している。
		コンビニ（店長）	・物価高などや新型コロナウイルスの感染再拡大の影響で、見通しは暗い。
		家電量販店（従業員）	・新型コロナウイルスの急激な感染拡大以降も安定した来客数を維持しているが、一方で単価や買上点数の減少傾向が続いている。消費者における生活防衛意識の高まりが感じられる。
		乗用車販売店（従業員）	・部品供給の遅延などにより車の生産が見込めず、納車待ちのため売上につながらない。客も早めに動いてはいるが、多くは状況確認で止まり、受注も遅れ気味である。
		乗用車販売店（代表）	・新型コロナウイルス感染症の影響で、新車の納期が遅れ、中古車価格が高騰し販売が厳しくなっている。
		住関連専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加している。ワクチン効果もあり、重症化する人は少ないが、病院では逼迫している状態である。さらに、各種イベントなどの規制はまだないものの、外出への不安が高くなっているため、慎重な行動になっており、消費は減速すると予想される。
		高級レストラン（経営者）	・飲食業では新型コロナウイルスの感染状況次第で、すぐに来客数に影響が出やすい。今後経済を回していくために行動制限を取らないのならば、感染が拡大し、出口がみえない状態になっていく。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症が終息する気配が全くないため、景気回復の見込みがない。
		旅行代理店（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で、旅行での買い控えが続く。
		タクシー運転手	・今後の新型コロナウイルス感染症の状況で、経済活動がかなり変わってくる。良くはならず最悪な状況になる可能性もある。
		タクシー運転手	・夏休みで、家族連れで県外からの動きが多くなると予想していたが、近場で過ごすことが増え、キャンセルが増加している。
		タクシー運転手	・物価上昇に加え、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大で、今後も不安定な状況が継続する。
		通信会社（企画担当）	・光回線の提供エリア拡大が一段落し、販売件数の増加が見込めない。
		ゴルフ場（従業員）	・新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻、円安による物価上昇、資源価格の高騰等による不安要因が徐々に影響してくる。また、入場者についても大手ゴルフ場の影響を受けると予想される。
		ゴルフ場（営業）	・新型コロナウイルス感染症の第7波が発生しており、感染率が高いため、外出を控えるようになる。
		競馬場（職員）	・新型コロナウイルス新規感染者数が再び増加しており、消費者心理が再び悪化するおそれがある。
		学習塾（従業員）	・新型コロナウイルスの感染拡大が影響し、景気が悪くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・行動制限をしない政府の方針と新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で、更なる感染拡大が想定される。今後、事業所のサービス停止や濃厚接触に伴う自宅待機を理由とした社員稼働の減少で、損益悪化が予想される。
		設計事務所（代表）	・更に建材の価格が上がると予想される。
		住宅販売会社（従業員）	・政府は経済政策を採っているが、経済アナリストや日本銀行、政府関係者の発言がそれぞれ違うため、一般層の生活状況が把握できておらず、具体的な政策が採れないと考えている。景気が回復していくような政策を期待している。
	×	一般小売店〔精肉〕（店員）	・客先である飲食店に対して、外食控えが発生しそうな状況で危惧される。
	×	一般小売店〔生花〕（経営者）	・生花の贈物は、この猛暑のなかでは花が長持ちせず、買い控えが多くなることが懸念されるが、開店や就任祝いなどの法人関係の需要に僅かな期待をしている。
	×	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で、収入の減少や物価上昇で財布のひもが固くなり、加えて、新型コロナウイルスの感染対策で慎重に生活しており、現在悪い環境にある。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	コンビニ（店長）	・医療機関が崩壊すると、振出しに戻ると予測されるため、景気が懸念される。
	×	衣料品専門店（店長）	・夏休みに入ったが、お盆の人の動きも鈍りそうである。
	×	家電量販店（店長）	・全体的に商品が品薄となり、買い控えが発生している。また、8月から主力商品も値上がりするため、更に厳しい状況になる。
	×	高級レストラン（経営者）	・7月は参議院選挙があり、大きな宴会も入ったため売上が良かったが、8月は新型コロナウイルス感染症の第7波が流行し、加えてお盆もあるため、企業の動きはない。少人数の宴会も減少しており、動きが鈍くなっていく。
	×	スナック（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数が日々増加しており、行動制限はないが夜の外出は激減している。企業も外食を差し控えるよう社員に呼び掛けており、外食産業に関しては景気向上の要素は皆無である。
	×	設計事務所（所長）	・今後も材料費や製品代の価格上昇が予定されているが、建築主の収入はほぼ変わらない。可処分所得の減少や生活必需品の価格上昇で、建築業界の先行きは不透明である。
企業 動向 関連 (九州)		*	*
		農林水産業（従業者）	・景気は、北海道経済の動き次第であると考えられる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・現状から若干時間の余裕があれば、恐らく取引先の体制は整うと考えられる。そうなれば現在の動きに対して、前向きの姿勢が取れると期待している。
		電気機械器具製造業（経営者）	・10月以降に更なる増産を要請されている。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・客の生産計画の見込みを確認すると、景気は良くなっていく。
		電気機械器具製造業（取締役）	・当県に海外企業が進出するため、人件費の高騰発端になる可能性も考えられる。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・今後も海外部品の供給が遅れる懸念はあるが、当初の予算台数等の生産が内示数で計画されている。
		建設業（社員）	・公共工事の予算が減額され、新年度になり5か月が経過しているが、やっと発注が多くなっている。受注できるように努力している。
		農林水産業（経営者）	・消費はこの夏から秋にかけて、ある程度期待できると予想される。資材の流れや人件費の高騰などで商品の値上げを依頼しているところであるが、希望どおりにはいかず経営的に危惧している。加えて、新型コロナウイルス感染症の感染率の高さによる消費に与える影響も心配している。人手不足は慢性的で、対策を考えなければいけない。
		家具製造業（従業員）	・案件情報自体は増えつつあるが、円安の影響や材料の価格高騰が原因で受注件数は伸び悩んでいる。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・出版サイクルの見直しに伴い、出版予定地区が大幅削減され、購入控えも発生している。
		化学工業（総務担当）	・本年度は、前年度と同水準の損益が見込まれる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・商社の進捗状況がつかめず、値上げをどの段階的にできるか、また、今後の売上計画に支障をきたすのではないかと懸念をしている。
		金属製品製造業（事業統括）	・材料の入手が困難で、価格高騰や建築現場の職人不足が絡み合い、今後現状維持が続く。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今まで好調であった半導体製造装置関連の需要が、落ち込み気味である。一方、エネルギー関連の引き合いが多くなっている。
		その他製造業 [産業廃棄物処理業]	・原料や部品等が、品薄状態で必要数調達できず製造できないため、何も変わらない。
		輸送業（従業員）	・今後も物価高は続き、円安も改善するとは考えられない。企業活動を行う上で、物価高と円安の状況は関係してくるため、今年一杯は厳しい状況が続く。
	通信業（職員）	・携帯基地局工事が多数あり、年度末まで今と変わらないペースで受注が見込める。	
	通信業（経理担当）	・原材料価格の上昇や円安の進行など外部環境の変化はあるが、業績に与える影響は軽微である。	
	金融業（調査担当）	・景気の浮沈は、新型コロナウイルスの感染状況次第である。物価上昇基調の長期化は、消費マインド回復の足かせとなっていく。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（営業担当）	・新型コロナウイルスオミクロン株 B A . 5 の感染拡大状況にもよるが、夏休みに入り観光や飲食を含め売上は増加するが、物価は高止まりが続くと考えられ、全業種で景気に変化はない。
		不動産業（従業員）	・賃貸オフィスの入居率が、横ばいに推移している。
		新聞社 [ 広告 ] （担当者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているため、旅行や観光系の動きが止まりつつあるが、新しい生活様式が浸透することで、以前ほどの大きな影響はない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・新型コロナウイルス感染症の対策等、今後の先行きが不透明であるため予測が付かない。
		経営コンサルタント（社員）	・新型コロナウイルスの感染状況が厳しくなったため8月の例会がなくなり、当分は活発な動きは期待できない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・自社Webのアクセス件数や問合せ件数に変化がない。
		その他サービス業 [ コンサルタント ] （代表取締役）	・市町村からの調査や計画、設計等の委託業務の予算が少ないため、今後、委託業務を受注できる件数が限られる。入札では不当廉売が激しいため、今後も受注の機会が少なくなることで予想され、悪い景気が続く。
		輸送業（総務担当）	・物価高による買い控えが、徐々に景気に悪影響を及ぼしている。輸送量が新型コロナウイルス感染症の発生前より回復していないため、運送会社も苦慮している現状がある。円安の行方も気になるところであり、何らかの経済対策が求められる。
		金融業（従業員）	・百貨店やスーパーマーケットの売上が回復傾向にあるほか、住宅販売も持ち直している。旅行会社や飲食店の売上も上昇傾向を示しているが、新型コロナウイルス新規感染者数の急増の影響で、一部にキャンセルが出ている。
		金融業（調査担当）	・新型コロナウイルス感染症が再拡大しているが、行動制限は行われていないため、人流の大幅な減少は回避している。しかし、小売業やサービス業では買い控えの懸念もあり、停滞が予想される。製造業でも、資源価格の高騰や供給不足が解消するには、まだ時間が必要である。
		金融業（営業）	・消費活動が新型コロナウイルス感染症の第7波の影響を受け、再び落ち込むと予想される。
		不動産業（経営者）	・新型コロナウイルス感染症関連での融資返済が始まるため、景気はやや悪くなる。
		広告代理店（従業員）	・今の状況が当面続くと予想され、厳しさが増す。
		経営コンサルタント（社員）	・来客数の減少や物価上昇による節約生活、また、貯蓄等で消費が落ち込んでいる。
		その他サービス業 [ 物品リース ] （職員）	・今後も引き続き物価上昇は避けられず、買い控えなどが更に進行するのではないかと懸念する。
	x	繊維工業（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症の影響により、最低賃金が上がることで工賃が上昇し、生産者まで影響を受けるのではないかと心配である。毎年この状況では経営の維持ができない。
雇用 関連 (九州)		人材派遣会社（社員）	・催事の開催が増え、単発派遣の注文や問合せもきている。また、正社員の人材紹介についても問合せが毎月増加傾向である。
		新聞社 [ 求人広告 ] （担当者）	・現在が感染のピークだとすると、新規感染者数が落ち着いてくれば、それに伴い景気は上向くと考えられる。さらに、新型コロナウイルス感染症の取扱いの分類変更も検討されるようであれば、経済には好影響となる。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加やロシアのウクライナ侵攻、物価高の影響はあるが、新規求人数は大幅に増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響による休業相談や雇用調整助成金の申請件数が減少している。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス新規感染者数が増加しているものの、行動制限等が緩和されており、経済活動の回復に伴い景気回復が見込まれる状況である。
		民間職業紹介機関（社員）	・新型コロナウイルスの感染状況で、飲食関係は左右されているが、その他の企業では、採用活動を継続しているため、緩やかに景気は向上していく。
		人材派遣会社（社員）	・高齢者の活用を進めていくことが活路であると判断しているが、求職者の動きが弱く、なかなかうまく採用に結び付かない。
		人材派遣会社（社員）	・今後の新型コロナウイルス感染症対策で、景気が左右される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・一時期求人数の問合せが増加した時期があったが、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、求職者の動きが止まったため、大きな動きは期待できない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・例年、夏休み需要から秋の行楽需要へと人材確保も活発になるが、コロナ禍のため経済活動も消極的になっている。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う規制次第で状況が変わるため予測しにくい。現状では大規模な行動制限等は予定されていないため、自粛疲れの反動もあり、景気が大きく悪くなることは想定しにくい。しかし、医療機関は逼迫しており、復調してきた旅行広告についても、既に予約していた旅行をキャンセルするなどの影響もあり、先行きは不透明である。
		民間職業紹介機関（職員）	・新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されるが、新卒の採用は中長期で考えるため、影響は受けず悪くならないと予想している。一方で、企業が積極的に採用しようとする状況でもないため、2～3か月先では変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波により感染拡大しているが、経済活動は制限されていないため、自粛傾向が更に強まってくる。
		職業安定所（職員）	・物価高の影響と考えられる求職者数の増加傾向と新型コロナウイルスの感染拡大による観光客や人流減少が予想される。
		職業安定所（職員）	・求人数は堅調に推移しているが、新型コロナウイルスの新規感染者数の急激な増加により、先行きが不透明である。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・ロシア、ウクライナ情勢に伴う資源価格の高騰や歴史的な円安による物価高などは、しばらく続くと予想される。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・ロシア、ウクライナ情勢や中国、台湾関係、また原材料の価格高騰で景気は悪くなる。
	x	-	-

## 12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (沖縄)		-	-
		一般小売店〔酒〕（店長）	・またワクチン接種で新型コロナウイルス新規感染者数が減ると考えるが、根本的な対策がないため繰り返しになっている。重症者は減っているが、今後対策を考えないと経済はうまく回らない。飲み薬や検査方針の改善が今後の鍵になるとみている。
		百貨店（店舗企画）	・県をまたいだ行動制限がなければ、現状を保ちつつ、経済的には回復に向かうとみている。
		スーパー（企画担当）	・7月は、前年割れした来客数の落ち込みが6月と比べると前年比で2～3%ほど良くなっている。今後の新型コロナウイルス新規感染者数の状況にもよるが、来客数の回復の兆しが少しずつみられることから、営業面ではプラス面に働くとみている。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大はしているが、対策して来店する客が増えているため、ドリンクや弁当、ファーストフードの売上は上昇している。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス感染症を取り巻く環境が良くなるとは考えていないが、消費者がコロナ禍の状況に順応しており、第何波ということになっても以前ほどの来客数減少がみられなくなっている。ある程度新型コロナウイルス感染症と共存した経済活動ができてきていると判断している。
		コンビニ（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波も徐々に落ち着き、経済活動も活発になり消費行動も更に上振れし、景気は良くなっていくと判断する。
		通信会社（営業担当）	・今後新型コロナウイルスの感染状況が収まれば市場は活気付き、景気も回復するのではないかと期待している。
		住宅販売会社（代表取締役）	・個人住宅に関しては良くもなく悪くもないが、販売開始した分譲マンションに関しては、順調な滑り出しで反応が良い。
		スーパー（販売企画）	・商品の値上がりや新型コロナウイルス感染者数が多く、しばらくは厳しい状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（副店長）	・正直、良くなるとみているが、行政の判断や発言に影響を受けやすく、立地と、現状の受け取り方によって浮き沈みはある。
		衣料品専門店（経営者）	・今月は前月より余裕を感じたスタートであったが、中盤頃から新型コロナウイルスの感染再拡大が始まってきた影響が、客の出が悪くなってきている。まだ景気は良くなる気配がみえない。
		家電量販店（営業担当）	・感染拡大による影響が、短期間で改善に向かうとは考えにくい。
		乗用車販売店（経理担当）	・新型コロナウイルスの感染急拡大で7月の大型イベントを中止した。急拡大が止まらないようであれば今後経済活動を抑制せざるを得ないのではないかと。その場合は下振れもあり得るとみている。
		その他専門店〔陶器〕（製造）	・全体の新型コロナウイルス感染症に対する対応や情報提供の在り方が変わらない限り、上がり下がりを繰り返すことになるとみている。
		観光型ホテル（代表取締役）	・宿泊に関しては旅行者の予約が増えている。全国旅行支援などの施策が秋には行われれば、今後も旅行者が増え宿泊稼働率も上がると予想している。飲食の予約は増えていない。新型コロナウイルスの感染状況による社会の変化で増えそうにない。売上は上向きだが、新型コロナウイルス感染症発生前の状態の半分程度で、この先景気が良い状態になるとは言い難い。
		旅行代理店（マネージャー）	・新型コロナウイルス感染症の隔離期間などが、世の中の実情とかい離しているため結局は行動制限がされているのと一緒にだと考えられる。旅行にも行きたくても感染して周りに迷惑が掛かるのを恐れて断念している人も多い。
		その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響により一時的にキャンセルは発生しているものの、新規も同レベルで受注できている。今後、更なる行動規制等が発出されなければ現状とそれほど変わりはないと見込んでいる。
		住宅販売会社（役員）	・最近の新型コロナウイルス新規感染者数の増大により営業活動が十分行き届いていない。売上維持がやっとである。
		衣料品専門店（経営者）	・この景気の低迷は2～3か月で改善されるものではないとみている。
		観光型ホテル（企画担当）	・ホテルの9月の販売室数は前年比344%増加なのに対し、7月末時点での10月の予約室数は前年比74%増加と、プラス幅が小さくなっている。
	x	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・夏場の一番の稼ぎ時に過去最高の新型コロナウイルス感染者数を更新して、落ち着いても客数が戻るまではまた時間が掛かる。また、最低賃金の値上げ、食材の高騰、始業前のアルコールチェックなどで、平日遅くまで酒を飲む人は確実に減っていく。副業、業態転換を考えている。
企業 動向 関連  (沖縄)		-	-
		輸送業（経営企画室）	・新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、景気が良くなっていることを期待し、やや良くなると回答する。
		食料品製造業（役員）	・引き続き急激な円安と資源価格の高騰が続く間は中小企業にとって厳しい状況は変わらない。賃金上昇と値上げの価格転嫁がうまく機能する頃に、徐々に景気も上向きになっていくことを期待している。
		輸送業（代表者）	・宮古島、石垣島の建設関連は、官需部門では石垣島の陸上自衛隊関連工事が順調に進み、民需部門では宮古島のホテル等で回復がみられる。ウクライナ問題での燃料価格高騰の影響が、フィリピン産川砂の入荷が滞り、本島からの県内輸送に切り替わる見込みだが、新型コロナウイルスオミクロン株別系統の影響が現場にて深刻となっている。
		広告代理店（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症の再拡大を受け、県内企業の販促活動は、特にリアルイベント型の業務が中止、延期を余儀なくされており、先行きの見通しが立ちにくい状況にある。
		窯業土石業（取締役）	・原材料の価格高騰が続いているが、価格転嫁が追い付かない状況で、収益面で更に厳しくなることが予想される。
		会計事務所（所長）	・今後、コロナ禍への対応とした無利子、無担保融資の返済が、最終的に県民生活に影響する可能性がある。
	x	建設業（経営者）	・具体的に商談に進む見込み度の高い客の来社、問合せが止まっている。
雇用		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (沖縄)		求人情報誌製作会社 (営業)	・新型コロナウイルス感染症発生前のような、シーズンによる求人数増減の周期に戻りつつあると感じており、今から秋口にかけて求人数の増加を予測している。
		職業安定所(職員)	・4～6月の求人数の伸びよりは鈍化したが、依然前年同月より数は増えている。新型コロナウイルス感染症第7波の影響で、求人を取下げするという声はない。
		人材派遣会社(総務担当)	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きい。人手不足感が続いている。
		求人情報誌製作会社 (営業担当)	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加と円安による物価高が出てきている。
		学校[専門学校](就職担当)	・新型コロナウイルス新規感染者数が急増してはいるが、柔軟な対応ができていIT業界はそこまで影響は受けないため、現状が継続するとみられる。
		学校[大学](就職支援担当)	・新型コロナウイルス感染症の影響が続いている。
		-	-
	x	-	-